

Cosmic Philosophy & UFOs

# 宇宙哲学とUFO



GAP JAPAN  
NEWSLETTER  
季刊日本GAP機関誌

イエスの福音書の謎と飛行船UFOの見聞

## イエスの聖骸布の謎

旧約と新約に記載される聖骸布の謎

### 聖書とUFO

今世紀最大のUFO事件、モロッコ

### 宇宙と愛について③

静岡市で発生した驚くべきUFO現象

### 円盤につきまとわれた日

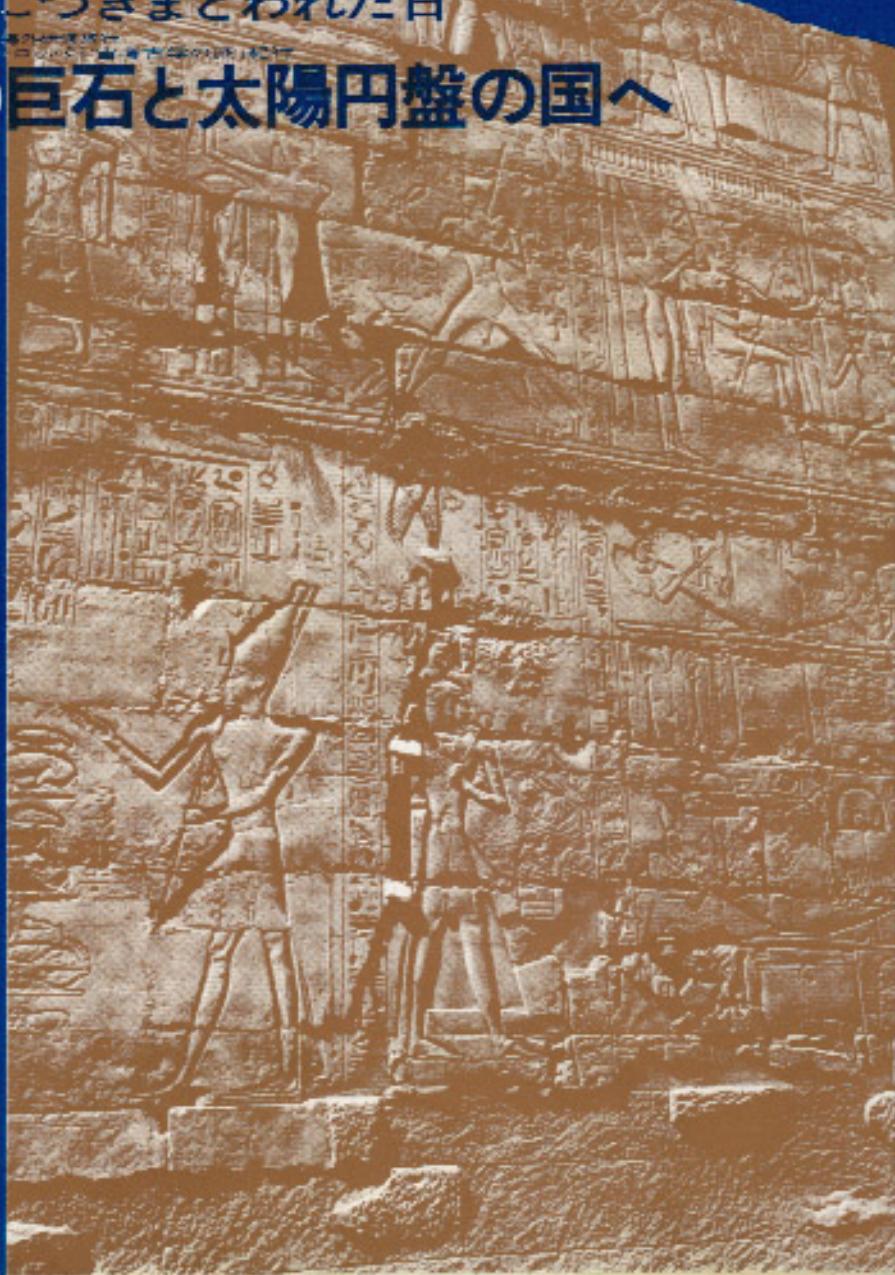
日本GAP誌40回目の誕生日

エジプトのコロボクス、古事記の謎

## 謎の巨石と太陽円盤の国へ

WINTER 1982

79



## 宇宙哲学とUFO 第7号目次

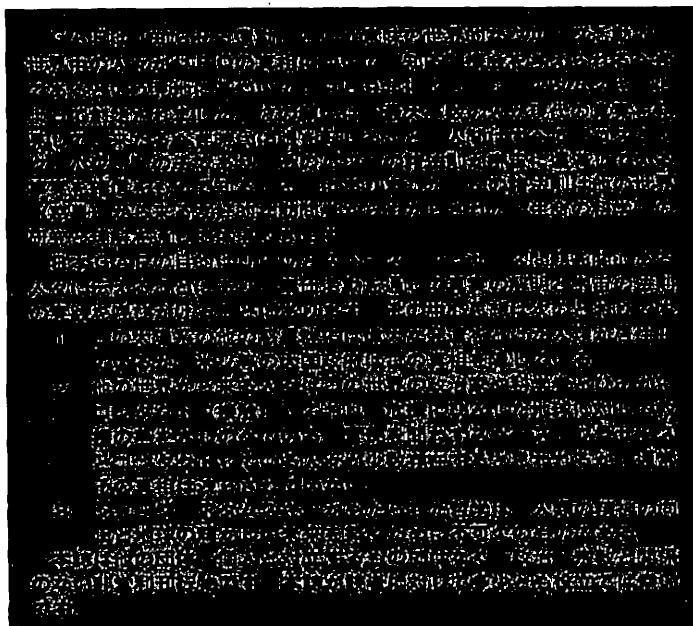
〈巻頭言〉デマと眞実――

イエスの聖骸布の謎とアダムスキー	久保田八郎	2
〈さらば空飛ぶ円盤(?)〉		
聖書とUFO	G.アダムスキー	8
宇宙と愛について(3)		12
円盤につきまとわれた日		16
『アラブの巨石と太陽』の国	久保田八郎	20
「エジプト・ヨーロッパ宇宙考古学の旅」に参加して――参加者有志		31
「沖縄支部大会と南国の旅」に参加して(2) 参加者一同		34
〈報告〉旭川・札幌合同支部大会／東海地区大会／青森支部大会／大阪支部大会		36
読者の声「コズミック・ポスト」		40
〈予告〉今年度地方支部大会予告(その4)		41
〈予告〉ニュージーランド大自然の旅		43
日本GAP全国月例研究会案内		44

■表紙写真はエジプト・ルクソール・カルナック神殿の列柱室の南壁に刻まれたレリーフ。ラムセス2世とヒッタイト帝国とのカデシュの戦いにおける勝利の図の一部分。両国の平和条約を示すものとして名高い。(編者撮影)



## GAPとは



★本誌掲載記事の内、海外関係のものは翻訳転載権取得済。  
全記事・写真共他の印刷物への無断転載を禁じます。

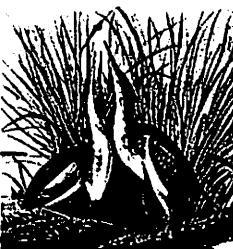
コーラは人体に有害だという噂が、巷間に流布している。かなりのインテリ層がこれを大まじめに信じており、学者が分析した結果と思い込んで、まるで毒物であるかのごとく忌み嫌う人もある。

一八八六年米ジョージア州アトランタでジョン・ベンバートン博士により開発されて以来この百年間世界中に普及し、現在百四十五カ国で販売され、一日に二億五千万杯（一杯は八オンス。約二七四ml）も飲まれているというコーラが有害だという根拠は全くないのに、だれかが流すまことしやかなデマを一般人は嚙呑みにしているらしい。

コーラに含まれている原料の炭酸水、糖類、カラメル、酸味料、天然カフェイント、香料などは他の食品にもざらに含有されているもので、しかもコーラのそれはとんにたらぬ微量であり、カフェインのときにはコーヒーの四分の一、紅茶の五分の一にすぎない。また魚の骨をコラにつけておくと溶けるという現象により、コーラを毒薬のごとく考える人もいるが、これはリン酸、クエン酸などの酸味料を含む他の清涼飲料すべてや果汁にすら見られる脱灰現象といわれるものである。しかし人体にこの現象はあるではない。食物や飲料が生きた人間の骨に直接接触することはあり得ないからだ。

普通サイズのコーラ一本（一九〇ml）に含まれるリンの量は中位のトマト一個のそれと同量で、豚肉一〇〇gに含まれる二〇〇mlのリンの約七分の一の三〇mgにすぎない。（以上はコーラメーカーC社の資料による）

## 眞実とデマ



アダムスキーゲがひどいデマのために甚大な被害をこうむったことは本誌に連載中の「さばは空飛ぶ円盤」第八章（本誌77号）に詳述してあるが、一方、デマに

逆に危険な物質を含む食品を無害であるかのごとく宣伝して人体に悪影響を及ぼす例もある。

アダムスキーゲがひどいデマのために甚大な被害をこうむったことは本誌に連載中の「さばは空飛ぶ円盤」第八章（本誌77号）に詳述してあるが、一方、デマに

思っている人が多いけれども、実際にはそのような否定説を公式に発表した政府や科学機関はまだないという事実を忘れてはならない。金星は人間が住むにはあまりにも高温すぎるというの一部の科学者が打ち出した説であつて、米ソ両政府の公式見解ではないにわかわらず、これが決定的事実であるかのごとく大衆は信じている、と思われる。米ソ両政府がデマを流しているのか？

ノウ、彼らは真相を隠しているにすぎない。昨年アメリカでUFO研究家から聞いたところによると、アメリカ政府の要人たちは太陽系の別な惑星に偉大な進歩をとげた人類が存在することを知つて知り抜いているのだが、現状ではどうすることができず、黙秘しているのだといふことだった。

政府というものは自国の権益を擁護しなければならない。そのため国家機密が生じるのは当然だ。膨大な国費をかけて軍事目的で月や別な惑星の探査を実施した結果、得られた重大な知識を簡単に洩らすかどうかは自明の理である。しか

ここではコーラの宣伝をやっているのではないし、コーラメーカーとは一切関係はない。一般大衆がいかにデマを信じやすいかの例としてあげたのである。産業界の情報宣伝戦はさまじいもので、コーラに限らず悪質なデマ流し屋の毒牙にかかった食品や製品は他にもあるし、

あるけれども（宇宙哲学的に言えばこれではない）、とにかく個人の限定されやすい知識で事物の真相を見抜くのは容易ではない。だから学識教養あると思われる人がコーラを有害だと信じ込んだりするのだ。

アダムスキーゲの体験を否定する人の根拠は主として米ソの惑星探査機の報告結果にあるらしい。太陽系の地球以外の惑星に人間は存在しないことが判明したと思っている人が多いけれども、実際にはそのような否定説を公式に発表した政府や科学機関はまだないという事実を忘れてはならない。金星は人間が住むにはあまりにも高温すぎるというの一部の科学者が打ち出した説であつて、米ソ両政府の公式見解ではないにわかわらず、これが決定的事実であるかのごとく大衆は信じている、と思われる。米ソ両政府がデマを流しているのか？

コンピューターでUFO写真の真偽を判定する機関がアメリカにあつて、アダムスキーゲの写真を偽物と結論づけたといふ。しかしコンピューターはプログラムの組み方次第でどのような結果でも出せるのであるし、だいいち印画紙にプリントされた写真を更に複写し、そのネガを複数枚分ほどに引き伸ばした巨大な写真を検査してもなおかつ模型を吊り下げた糸が発見されない限り、そのような写真をいかなるコンピューターにかけても真偽の判定などできるわけがないと日本のコンピューター専門家は断言している。

科学知識やその応用はもちろん重要であるが、何よりも現象を冷静に観察し、その背後にひそむ真相を把握する洞察力を涵養すべきである。一部研究家の放言や大衆のデマに惑わされてはならない。

● 聖骸布からアダムスキーにまつわる驚くべき事実が展開する。

# イエスの 聖骸布の謎と アダムスキー

（日本GAP会長）久保田八郎

## 謎の人物イエス

二千年前、エルサレム郊外のゴルゴタの丘で一人の偉大な男がこの世界から姿を消した。というよりも磔刑という残酷な方法で消されたのである。その名はイエス。ペツレムで生まれ、ナザレで少年期をすごした人で、出生から成年期にかけては謎だらけであり、唯一の伝記たる新約聖書も真実を記録したとは思えぬようないいきがれで、ノンフィクション・ミステリー研究者を困惑させるのにこれ以上の人物はない。

その後の描写も神秘的であり、どこまでが本当なのかフィクションなのか見当つかぬ記述に満ちているのだが、後に確立されるキリスト教の神学思想とは別に、このイエスなる人を実在した歴史的人物とみなして福音書を丹念に調べてみると、まず間違いないと思われるのは、大祭司である。これもきわめて複雑な歴史をたど

つており、その移動の跡も謎に満ちている。聖骸布を包まれたけれども、住民はこの布を敵に差し出して虐殺をまぬがれた。そして一二〇四年まではコンスタンチノープルで保存されたが、百四十六年の空白を経ていつのまにかヨーロッパのジエフリード・シャルニという男の手に渡っている。この時期、つまり一三五〇年代が聖骸布としておおやけに記録された最初で呼ばれるようになつた三十代の男の磔刑直後の死体を包んだとされる布、すなはち「トリノの聖骸布」は、近代になって発見されたものではない。それは口碑により昔から伝えられてきた。

紀元三〇年を少し過ぎた頃、エヴァ（現在の東部トルコのウルファ）の町の王であったアバガル五世のもとへ、「謎の人物の肖像画が描かれている。どうもイエスらしい」といつて大きな布を“だれかが”持ってきたのが歴史に頭を出した始まりである。

この王はイエスの教えを信仰して奇跡的に病気が治つたので、後にイエスを繼承してからキリスト教徒を迫害したので、

聖骸布はシャルニの孫娘マーガレットの手に渡り、金に困ったマーガレットはこれをサボイ公に売った。十一世紀のウンベルト一世が始祖となつて以来イタリアに君臨した王家である。一五三三年には火災で布の一部が損傷したが修復され、管轄を厳重にするために一五七八年サボイ家は布をトリノの洗礼者聖ヨハネ大聖堂にあげた。それ以来、布はそこには保管され、「トリノの聖骸布」と呼ばれて、百年に四回の割で一般に公開されてきたのである。

## 劇的な大発見

幅一・一メートル、長さ四・四メートルもある細長い亞麻布はかなり古びて黄色くなっているが、ボロボロの状態ではない。縫に伸ばして広げると、両端につて縫二列に三角形の圓形のついた模様に見舞われて破壊されたため、再建工事が行われた。そのとき布が発見されて、以来、イエスの頭が描かれた聖なるものとして崇拝されたのである。イエスの頭を見たことのある人が描いたと思われていた。それはイタリアのトリノの洗礼者ヨハネ大聖堂に安置してある聖骸布である。これもきわめて複雑な歴史をたど

## 聖骸布の歴史

包囲されたけれども、住民はこの布を敵に差し出して虐殺をまぬがれた。そして一二〇四年まではコンスタンチノープルで保存されたが、百四十六年の空白を経ていつのまにかヨーロッパのジエフリード・シャルニという男の手に渡っている。この時期、つまり一三五〇年代が聖骸布としておおやけに記録された最初である。

聖骸布はシャルニの孫娘マーガレットの手に渡り、金に困ったマーガレットはこれをサボイ公に売った。十一世紀のウ

交差している。

大限に引き伸ばした結果、布地には染料の跡はないと断言した。

ところが一八九八年に劇的な大発見が行われた。イタリアの考古学写真家セコンド・ピアが史上初めて写真撮影の許可をとり、撮影後に乾板を現像したところ、

赤外線、紫外線検査が行われたのだが、いま一つ決め手を欠いた。考古学で應用される放射線炭素による測定が実施されなかったからだ。この測定には布の一部を切り取る必要がある。そこで科学者団はときの法王ヨハネ二十三世に請願書を提出したのだが、法王の決裁前になぜかトリノの大司教は却下したのである。

ところが一九七〇年代なかばに米空軍の科学者ジョン・ジャクソン博士がV.P.18と呼ばれるコンピューター画像分析器に聖骸布のスライドをかけて調べてみた。この機械は惑星探査機が撮影した地球外惑星の地表写真を立体化させる機能を持つもので、宇宙開発の最新兵器である。

ジャクソンは驚いた。聖骸布のなかから一人の男の立体像が浮かび上がったのだ。このため一九七八年十月に四十名からなる科学者団の大調査が実施された。このうち二十五名はアメリカ人で、彼らは大聖堂内で五昼夜にわたってあらゆる科学的なテストを行つた。そして大半の科学者は聖骸布が本物であることを確信するようになつたのである。

### 科学的調査の結果は

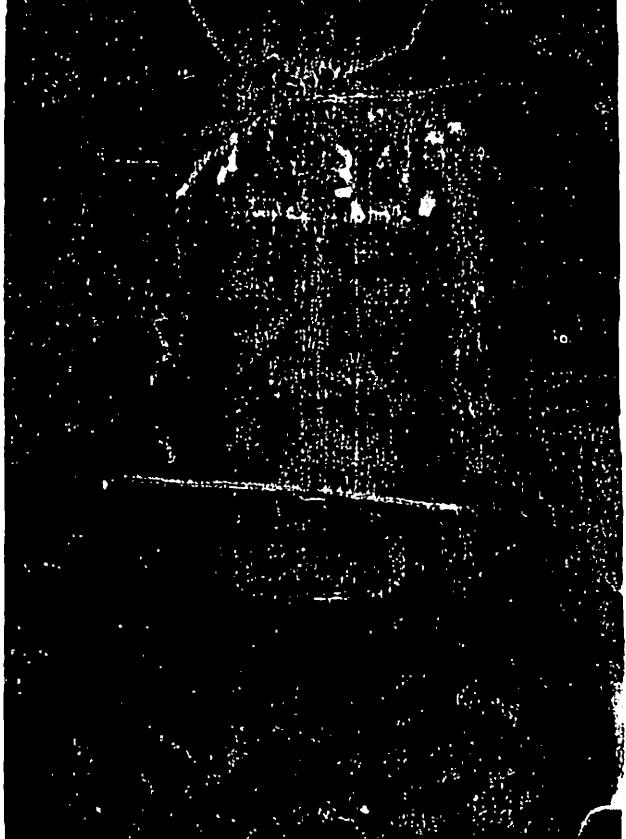
まずフランスの有名な医学者であるイブ・ドラージュ博士が調査して、その結果を一九〇二年にフランス科学アカデミーで発表したのを皮切りに、本物説と偽物説との激しい論争が展開した。

ドラージュ博士は、像の男が激しい拷問を受けて、頭部はひどく殴打され、鼻は折れるなど、ひどい状態のまま十字架にかけられた跡があると断定し、これを本物と主張したが、同じ医学者のボール・ビニヨンは、人間の汗と香料で描かれた偽物であると断じた。

一九三二年にはイタリアのすぐれた写真家ジュゼッペ・エンリエが進歩した原板を使って布の写真を撮影し、それを最

### 像の顔面部のミステリー

その一人にサムエル・ペリコーリがいる。彼は宇宙探査機の打ち上げ計画に從



▲聖骸布に浮き出ているイエスと思われる人物の顔面部(左)。右は左の像を撮影した写真のネガ。このほうがまともな人間の顔に見える。

事してきた科学者で、新しい亞麻布に人間の汗、オリーブ油、ロカイ、ミルラと呼ばれるアラビア・東アフリカ産の樹脂などをすり込み、それをオーブンで魚がして、トリノの聖骸布の完全な複製を作り出した。これにより布の像が画家によつて描かれたという説は打ち碎かれたのである。

絵画説以外に、布が熱い彫像にかけられて像ができたとか、謎の核爆発の闪光をあびただの、汗の發散でシミがついたとか、さまざまの説が流れている。

しかしペリコリーは断言する。

「あれは絶対に本物の肉体によつて自然の経過によりできたものだ。描かれた偽物という可能性はない。描かれた像だとすれば、あれほど正確な立体像を描ける人間が六百年前にいたとは考えられない。したがつて聖骸布はインチキではないが、像がキリストのものかどうかは別問題だ」

この聖骸布の像にはミステリーがある。ふつう人間の顔に塗料を塗り、それに布を巻きつけてから広げると、両耳までの部分は横に細長い帽円形に転写されるはずだが、聖骸布の顔はそのようなことはなく、人間の顔が立体的に浮き出ているのである。布は柔らかい物であるから顔面と後頭部だけに密着していたとは思えない。やはり両耳あたりまで巻かれていただのだろう。しかし布面に浮き出ているのは顔面の像だけなのだ。この謎は解けない。もし描いたものとすれば解剖学に関する深い知識が必要とする。

### 磔刑された男の詳細

この科学者団の調査によつて判明した事実は次のとおりである。

聖骸布の男の両手首に釘が打ち込まれた跡があった。その左手の傷跡から左腕に流れ落ちた血液の跡を調べると十度ずつ角度を変えている。これは男が十字架上で自分の体を持ち上げたり下げたりした事實を示している。つまり手首にかかる激痛を両足の激痛に移そうとしたわけで、両足にも重ねたままで釘が打ち込まれた形跡があつた。

また両手の親指がないように見えるのだが、この理由は、釘が手首に打ち込まれると中枢神經に接触するために親指が手のひらの内側へ収縮したと考えられるのである。実際に釘で打ちつけられたとすれば、中世以来の画家が描くような手のひらではなくて、手首であったらしい。だが古代ローマの磔刑の方法として、罪人を長時間苦しめるために、手首や手のひらに釘を打ち込むことは避け、両手首を七インチ釘でカスガイのように締めつけて体を横木に固定する処置もとられた。これにより手首に体重がかかるために皮膚が裂けて出血し、数時間後に絶命するという。イエスの磔刑はこれだったと思われる。もし最初から手首や足に釘を打ち込まれたら罪人はものすごい激痛で失神するが、大出血でまもなく死ぬだろう。長時間にわたつて体を動かさないと到底考えられない。したがつて両手首と両足に大釘が打ち込まれたという研究

チームの報告には意外な感じがする。

死体は全裸であった。当時の磔刑の犯人はすべて衣類をはぎとられてすっぽりにされた。この衣類は処刑人たちが

サイコロを振つて取り合つたといわれてゐるが、これもおかしい。罪人の苦でいた跡があつた。その左手の傷跡から左腕に流れ落ちた血液の跡を調べると十度ずつ角度を変えている。柱はすでに刑場に立てられていた。それにして横木だけで四十キロを超える重量はあつたと考

されたりするけれども、あれは正しくない。もつとも全裸の男性像を崇拜するの

は宗教の偶像にふさわしくないだろう。聖骸布の徹底的な研究調査により判明した詳細は次のようなものである。

男の身長は一メートル七十六センチ、体重は約七十九キロ、年齢は三十歳程度。容貌はユダヤ人のそれであった。かなり頑丈な体格であつたらしい。教会芸術に見られる瘦せた弱々しいイエスの体とは似ても似つかぬ偉丈夫である。

口ヒゲとあごヒゲをかなりたくわえていた。

頭皮が破れて出血し、顔と後頭部に血のしみがあり、銛利な刃物で切られた跡が十二カ所はあつた。

鼻は折れて、両目も腫れあがり、瞼も裂けていた。ひどく殴られたことは明白である。両頬にも切り傷があつた。

顔と手足以外の胴は無数の傷跡を示している。これは男の両側にいた二人の人間によりムチで打たれた跡らしい。鉛筆によりムチで打たれた跡らしい。鉛筆によれば聖骸布から五十六種類の花粉を発見したという。これは布に押しつけた

けたが、主として胸と腹とに集中してい

た。右側に背の高い男が、左側に背の低い男が立つて、交互に打つたようだ。

聖骸布の男の両肩にひどくすりむけた跡が残つてゐるが、これは重い物を運んだ結果と思われる。當時、磔刑の罪人は十字架の横木だけをかつがされた。イエスの伝記映画にあるように十字架全体を運ばされたのではない。柱はすでに刑場に立てられていた。それにして横木だけで四十キロを超える重量はあつたと考

えられる。瞼にもすりむけた跡があつた。おそらく刑場に行く途中何度も倒れたのだろう。

右脇腹の第五肋骨と第六肋骨のあいだに大きな傷口が認められ、血液と、刺されて流れ出た液体と思われる無色の液体のしみが聖骸布に残つてゐる。

また両目にはコインがはめられていたことも判明した。これは死後硬直を防ぐために死体の瞼にコインまたは薄い陶器の破片をはめ込むユダヤ人の習慣に従つたものだろう。死体を洗つた形跡はない。だから布には血痕が残つてゐるが、これについて重要な結果は出ていない。

### 花粉で判明した移動経路

それよりももっと重要なのは、この布に付着していた花粉類の検査から布の移動経路が浮かんできたという事実である。

調査研究にあつたのは法医学の専門家、植物学者のマックス・フライで、彼によれば聖骸布から五十六種類の花粉を発見したという。これは布に押しつけた

粘着テープを剥がすことによつてサンプルを探取し、これを電子顕微鏡で調べたのである。

それによると、この布はキリストの時代にパレスチナに存在し、後にコンスタノーブルへ移動した可能性も示唆するし、死海やネゲブ周辺のパレスチナ地域からさらにはヨーロッパにも移された形跡があることも発見した。以上の経路は聖職布にまつわる伝説の正確さを立証したことになる。

### インチキ説をとなえる反対論者

いかなるミステリーにしてもそうだが、真相解明派の声明にたいして必ず反対派が現れる。これはときには解明派の独断と偏見にブレーキをかける役目をするので、その意味では尊重するべきだが、ごくわずかな真実の光を誤った解釈で消す恐れもあるから、その勢いに押しまくられではならない。

聖職布についてもインチキ説をとなえ学者はあとを絶たない。近年もその派の大物として躍り出た人がある。トップクラスの微量元素学者ウォルター・マクローン博士がそれで、彼は有名なビリ・レイスの地図を一九二〇年代の偽造だと主張してセンセーションを起こしたことがある。

彼は粘着プラスチックを用いて聖職布から織り糸を採取し調査した結果、布の像の男は画家が描いたものだと断言した。つまり絵の具に使われる媒材としての赤味がかつたオーカーを発見したという

だ。

一方、トリノ調査団によれば、発見されたという鉄の酸化物のくず、すなわちオーカーは、きわめて微細なものなので

肉眼には見えないけれども、布の像は肉眼に見えるのであるから、これは問題にならない説だと反発する。像は顔料によるものではなく、布のセルロース繊維の構造上の変質だという。

マクローンのインチキ説は一時期世界に流されて、わが国の新聞にも報道されたので、大方の読者はご記憶と思う。マクローン以前にもインチキ説をとなえた人がいることは前述のとおりだが、いずれが正しいかはだれにも断言できない。

というのは、科学的調査の決め手といふべき炭素<sup>14</sup>による年代測定がまだ実施されていないからだ。一九七八年のトリノ調査団もこの測定をやってはいない。教会が拒否してきたからである。これが実施されば、十四世紀の画家の手になる偽造品であるのか、ゴルゴタの丘でたしかにイエスの体を包んだものかが判然とするだろう。

問題が一つある。

アーティストの化学者ウイラード・F・リバーが一九四六年に開発した炭素による年代測定法は絶対に正確とはいえないのだ。測定者によつてはかなりの誤差が生じることもあるので、同一物を数名の人々が分担して測定し、その平均値を出す方法がよい、とトリノ調査団の一人、ドン・デパンは言う。しかもそのため聖職布の一部がすでに切り取られて保管して

あるという。

この測定は教会の許可を得て遠からず実施されるだろうといわれているのだが――。

### 円盤が遺体を照射！

聖職布の科学的調査結果は以上のとおりで白黒の結着がついたわけではない。あとは教会の出方ひとつだ。歴代法王中、最も進歩的で宇宙的な思想の持主であつたヨハネ二十三世でさえも、炭素<sup>14</sup>による年代測定に賛同しなかつたほどだからこの測定の実施は容易なことではあるまい。

しかしここで筆者がある方面から入手した情報を使いたい。

イエスが磔刑に処せられてローマ軍の兵隊たちが引き揚げたあと、刑場にはまだ數名の弟子が残っていた。イエスの直弟子は十二人だけではなく、百名はいたはずである。十一人というのは太陽系の十二個の惑星を象徴的にあらわしたものだという。

それはともかく、当時の処刑は一般人にたいするみせしめのための公開処刑であるから見物は自由だし、埋葬の準備をした近親者が近くで待機していることもあり得た。

この数名の弟子のなかにただ一人の男としてヨハネがいた。いわゆる十二弟子のなかで最後までイエスを救出しようとした。最後までイエスを救出しようとした機をうがつていた彼は、師の愛絶な最期を目撃してから、処刑人たちが姿を消すのを見届けたあと、死体を十字架から

おろして、用意されていた亞麻布に包んだ。ペテロ以下他の弟子たちは兵隊から詰問され、とつくるむかしに逃げていった。亞麻布はだれが持つてきたのかわからないが、とにかくそこにある。

遺体を布に包んでから、ヨハネや近親者一行が墓地に運んで行く途中（場所は明確ではない）、突如、上空に一機の円盤が出現し、低く降下して、布に包まれた遺体をめがけて強烈な放射線を照射した。人々は恐怖の念におそわれたが、逃げるようなことはせずに、付近でこの驚くべき光景を見守っていた。

やがて円盤が去って、人々は再度地面から遺体を持ち上げて墓地へ運んだ。そしてイエスはそこで蘇生したのである。

聖職布に残った像は円盤から照射されたビームによってつけられたものらしい。だから謎の像となつたのである。

その夜、生き返ったイエスは弟子たちと共に夕食をとつた。聖書の「復活」というのはこのことを意味しているようだ。そしてその夜のうちか、または数日後か、これも明確ではないが、着陸した円盤に乗せられて第二の伝導地へ移動した。それは北アメリカ西部の広大なモハービ砂漠の一角で、かねてからそこに住んで宇宙の法則を探求していた偉大なインディアンの部族と合流し、彼らの指導者として宇宙の法則を伝えながら八十五歳まで生きて、現在デサートセンターと呼ばれているその地で没したという。その後火星に女性として転生し、精神的な指導者としての生涯をすごしてから金星に転生して帰つたということである。

スペース・プログラム

イエスを救出した円盤は金星から来たものであった。本来イエスは地球上に生命の法則を伝えるために金星から地球へ転生してきた（生まれかわってきた）人であるが、両親は聖書にあるようなヨセフとマリアではなく、別人だつたのだ。本当の父親は当時のローマの傀儡であつたユダヤ王のヘロデだという。母親は王妃ではなく（王妃はヘロデの父のアントニオ・パトロスが宰相を勤めたハスモン王家の出身だが、猶疑心の強いヘロデにより子と共に殺された）、全くの別人で意外な人物だが、事情により名前は伏せることにしよう。

とにかくマリアの処女懷妊は伝説だとう。こうした伝説は宗教の教祖にありがちなことで珍しくはない。まして二千年前のことだ。かなり真相はゆがめられているだろう。

ここで問題になるのは「金星の円盤」である。第一次大戦後から脚光をあびるようになつた「空飛ぶ円盤」も論議しつぶされたが、一般では謎は解けないとされている。

しかしこれは地球以外の惑星から来る驚異的な発達をとげた一種の宇宙船だといふ説をとなえる人たちがいた。しかも數千年昔から地球はこうした大気圏外からの雲をもつて北から来た旋風として描

部には人の姿をした四つの生きものがいた（第五節）とあるが、これは古代に地上を訪れた宇宙船であったと、アメリカの科学者アラムリッチは断定し、その想像図まで着書に掲げたのはかなり以前のことだ。つまりエゼキエルは古代のコンタクト実話を「エル書」はまぎれもないコンタクト実話であつたというのである。

こうしたコンタクト物語は旧約聖書に多く記述されている。たとえばモーゼのエジプト脱出がそうである。「昼は雲の柱、夜は火の柱」となつて、ある巨大な物体がモーゼとイスラエル人の大部隊を導いたと述べてある箇所は、別な惑星から来た大母船の誘導を意味するという。いわゆるUFO（未確認飛行物体）と呼ばれる物体は、船体 자체が人工的な電力場をもつためにフォースフィールドで包まれており、これが夜間はイオン化現象により発光し、昼は雲のような状態に見えたりすることが多い。モーゼの場合は典型的なUFOの現象であった。また彼もコンタクトティーであり、その彼とコンタクトした異星人は「主」と表現してある。こうしたコンタクトを主体にした記述が旧約聖書なのであって、いわば太古からの地球と別な惑星との交流に関する記録といえるだろう。

つまり我々の太陽系内の各惑星にはすべて高度に進歩した人類が住んでいるのだが、地球は文明の発達において最低である。特に地球人の精神性は他の惑星の

人類に比較してきわめて程度が低い。人種間の不平等と差別はひとく、絶えず開戦と殺戮を繰り返し、不安と恐怖は高まる一方である。特に第二次大戦以後は核兵器の開発によって世界は危機に瀕している。この核爆発は大気圏外の惑星群にまで悪影響を及ぼすようとしている。このような低劣な地球を近隣の惑星群の人たちが黙視するわけがない。

というわけで、太古の昔から別な惑星の人々による地球救済計画がひそかに実施されてきた。これをスペース・プログラムといい、その一端は旧約聖書にかなりゆがめた形で記述されている。

イエスもこのプログラムに関係した一人であった。ただし彼は現身のまま宇宙船で地球へ来たのではなく、前述のとおり地球で転生したのである。このような人は他にも多数存在するという。イエスは生命の法則を伝えに来たのであって、宗教の教祖になろうとしたのではなかつた。キリスト教なるものは後世の信奉者によつて確立されたものである。

転生しないで、肉体をもつたまま宇宙船でひそかに地球へ着陸して、各國の科学研究機関などで地球人になりすまして働きながら、地球人の科学的・精神的発達を援助している人も多數いるらしい。外形は地球上と変わらないので、ほとんどの人は気づかないが、テレパシックな能力や予知力などによつて周囲の人を驚かせることがある。普通人と見分けはつかないけれども、異常な能力によつて人々をハッとするのである。また信じられないほどに親切でもある。

このようにしてスペース・プログラムは現代まで続けられている。だからJF-Oの目撃や撮影事件があとを絶たないのだ。なかにはまやかしもあるだろうが、れっきとした円盤撮影事件は今まで日本ですら発生している。

本年三月九日、北海道旭川市の高校生津田頼明君（当時十七歳・二年生）が午後一時頃に自宅の写真を撮るためにカメラを持って屋外で撮影をすませた直後、突然黒い円盤が音もなく上空を通過するのを目撃し、とっさにシャッターを切つて見事にキャッチした。提供を受けた北海道タイムス旭川本社の写真部が大きく伸ばしたところ、アダムスキーア円盤と呼ばれるものと同型であることが判明した。撮影者はそれまでアダムスキーコトをほとんど知らなかつたという。

後日、筆者の旭川に住む代理が本人とインタビューして徹底的に調査した結果、作為的なものは全くなく、きわめてまじめな生徒であることがわかり、写真の信憑性については太鼓判を押してきた。この撮影事件を疑問視する向きもあるようだが、批判をする前にまず直接に本人と接触して調査するのが妥当であろう。（注）この事件の詳細については本誌、78号の「アダムスキーア円盤、旭川に出現在！」を参照。

また昨年九月十四日には札幌市の西円山病院で長期療養中の吉田邦子、ゆう子さんの姉妹が、午後一時頃に五階の病室

このようにしてスペース・プログラムは現代まで続いている。だからUFOの目撃や撮影事件があとを絶たないのだ。なかにはまやかしもあるだろうが、れっきとした円盤撮影事件は今まで日本ですら発生している。

本年三月九日、北海道旭川市の高校生津田頼明君（当時十七歳・二年生）が午後一時頃に自宅の写真を撮るためにカメラを持って屋外で撮影をすませた直後突然黒い円盤が音もなく上空を通過するのを目撃し、とっさにシャッターを切つて見事にキャッチした。提供を受けた北海道タイムス旭川本社の写真部が大きく伸ばしたところ、アダムスキーライフ円盤と呼ばれるものと同型であることが判明した。撮影者はそれまでアダムスキーライフなどをほとんど知らなかつたという。

後日、筆者の旭川に住む代理が本人と一緒にインタビューして徹底的に調査した結果作為的なものは全くなく、きわめてじめな生徒であることがわかり、写真の信憑性については太鼓判を押してきた。この撮影事件を疑問視する向きもあるようだが、批判をする前にまず直接に本人と接触して調査するのが妥当であろう。

（注）この事件の詳細については本誌、78号の「アダムスキーライフ円盤、旭川に出現在！」を参照。

また昨年九月十四日には札幌市の西円山病院で長期療養中の吉田邦子、ゆう子さんの姉妹が、午後一時頃に五階の病室78号の「アダムスキーライフ円盤、旭川に出現在！」を参照。

の窓から円盤を目撃した。これもアダムスキーモードと同じもので、約十秒間空中に静止してから南の方角へ飛んで行ったという。(注)この事件も本誌78号に「札幌市アダムスキーモード円盤、目撃される」と題する詳細な記事が出ている)

信頼のおける目撃・撮影事件はまだ他にも沢山ある。これらの一連の現象は驚くべき事柄であって、無視するわけにはいかない。なぜなら地球外文明の一端を我々は地上にて、かいま見ていることになるかもしれないからだ。このことを大にして主張した人がいる。いわゆるアダムスキーモード呼ばれる大気圏外物体を撮影したジョージ・アダムスキーモードの人である。

### ケネディー大統領とアダムスキーモード

アダムスキーモードの宇宙的体験なるものについて、ここで詳述する余裕はないけれども、信ずる信じないは別として、UFOに関する心をもつて一度はその体験記に目を通すといわれるほど有名である。要約すれば、地球以外の近隣惑星群から偉大な進化をとげた人類がひそかに地球を援助しているので、地球人もそれに気づいて彼らの活動に協力し、地球のレベルを引き上げねばならぬというもので、その物的証拠として彼は多数の円盤や母船の写真を撮って発表した。

これは一九五〇年代の前半のことである。當時は世界中ですさまじい論争の的となり、賛否両論の渦巻く中を彼は敢然として「事実」を訴え続けていたが、一九六

五年四月に米東部で講演旅行中に急逝した。

その後宇宙開発が進展し、月や近隣の惑星に探査機を打ち上げるようになつて

彼の体験がフィクションであったかのごとく喧伝されるようになつた。というのには、金星は七氏四百八十度の高温のために人間の住めるような状態ではないとか、火星の大気には酸素がほとんど含まれていないだの、もろもろの「発見事」が彼をいちじるしく不利にしたというのだ。

しかし大衆の知らない重大な事実がある。それは、故ケネディー大統領がアダムスキーモードを持ち、ホワイトハウスへの通行証を手に入れたばかりか、ケネディー自身がカリフォルニア州のアダムスキーモードを訪問して親交を結んでいたという事実である。しかもさらに驚くべきことは、

ワシントン市郊外のラングレー空軍基地にひそかに着陸した土星の大母船に、アダムスキーモードの先導によりケネディーから乗り込んで異星たちと会談したという情報もある。このとき基地は厳重に警備され、警戒にあたった兵士たちには極端な絶口令がしかれたという。

以上的情報が事実とすれば、一般大衆

の知覚する世界の裏面で、全く次元の異なる動きが何者かにより展開していたと考えざるを得ない。宇宙開発にしてもその目撃証人が遠くからこの光景を凝視していた。この金星人こそ二千年前にこの地で没したイエスの転生した姿であり、迎えたアダムスキーモードはゴルゴタの丘で最後まで師を救出しようとしたヨハネその人であった。上空には五千機の円盤が出現した。

アダムスキーモードは決して抹殺されなかつた。なぜなら彼が撮影した円盤——それはアメリカの生んだ偉大な映画監督セシル・B・デミルまでが本物の円盤を撮影したのだと確証したのだが——と全く同じタイプの円盤が、彼の死後十七年を経過した現在もなお世界各地で目撃され、撮影されているからである。この円盤た

つた仕事)に立ち返るのである。このようにして歴史は形成され、月日が流れできた。

だが一方では、探査機の報告結果を分析し、他の惑星上の人工建造物などを探知した驚異的な情報は少数の科学者により巧妙に隠されて、ディレイド・システム(都合の悪い部分を抜き取りながら一定の時間をおいて放送する仕組)により、あたりさわりのない部分だけが公開され、放送されて、世界の茶の間のブラウン管に流れているということになるらしい。

本当は地球以外の惑星群に偉大な文明が築かれていることを大国政府の少数の為政者や科学者は知っているのでなかろうか。惑星探査が本来軍事目的を有するがゆえに、別な惑星の人類存在に関連する大気圏外の情報類を秘密にすることとは当然であろう。それは近頃流される大國同士の陰謀だという説よりも、もつと政治的な意味をもつものかもしれない。

聖職布の物語は意外な方向へそれてしまつたが、あの一枚の布に秘められた隕石は大気圏外文明にかかわりがあつたと主張すべき根拠はあるのだ。いつかこのことは証明されるだろうが、やはり大衆には知らされないかもしれない。

一九五二年(昭和二十七年)十一月一日、アメリカ西部の広大なモハービー砂漠の一隅、デザートセンターで、ジョージ・アダムスキーモードは着陸した円盤から降り立った一人の金星人と会見した。六名の目撃証人が遠くからこの光景を凝視していた。この金星人こそ二千年前にこの

地で没したイエスの転生した姿であり、迎えたアダムスキーモードはゴルゴタの丘で最後まで師を救出しようとしたヨハネその人であった。上空には五千機の円盤が出現した。

「今度は、あなたを援助してあげましょう」

金星人は優しく言つた。

(『歴史読本』臨時増刊82-9より転載、了解済。記事中一部加筆)

この一連の空中現象はイエスの聖職布と同じほどに隕に満ちているように見え

るけれども、裏面をひっくり返せば意外に単純明白な解答が現れるかも知れない。

# 聖書とUFO

10

連載第7回 セイウチバシテ飛ぶ円盤

ジョージ・アダムスキー  
久保田八郎訳

「飛来する円盤の真相」改題・改訳

## ヘブル人の手紙

聖書を注意深く研究すると、宇宙から訪問者たちに関する多くの報告が明るみに出てくる。実際、ある牧師が私に語ったところによると、彼はそのような記事三百五十カ所以上も発見したという。

聖書ばかりでなく、他の偉大な記録類もその訪問者たちの来訪に言及している。なぜ訪問者たちのことが記してないのかと質問を寄せた人々のほとんどは、実際に記録に関して知らされていなかつたにすぎない。宇宙からの訪問者が聖書の中でどのように記されているかを私がお伝えしようとして、現代でも異星人がそうしようとしているように、古代でも世界の各種民族に指導の手を差し延べることは多いからだ（私は多くの心靈的な自称コンタクトマンのことを言っているのではない。私の言うコンタクトマンたちは自分の体験を公表してはいないのだ）。

こうした他のコンタクト事件類は世界のいろいろな政府に知られている。そして現在「円盤」は嘲笑的な考え方で見られており、その人種のことが聖書に記されていないかというのだ。異星人は聖書時代における彼らの来訪について何度も私に語ってくれたので、私はこの問題をかなり研究してきた。

そこでいま我々に思い出させる最初の数節の一つが「ヘブル人の手紙」一一二に見い出される。

（訳者注）「ヘブル人」というのはヘブライ語の「ヘブル人」である。これはユダヤ人のこと。日本語訳聖書には奇妙な訳語が多い。ヘブライ人はアブラハム、イサク、ヤコブの子孫であると称する。古代パレスチナに住んでいたセマ族の一派。「ヘブル人への手紙」は身許不明の一信徒が紀元八〇年頃にローマ教会の団体に宛てて書いたといわれるもので、新約聖書に含まれる一篇。

「私の父の家（大宇宙）には娘（惑星）が沢山ある。もしかしたら私は

私がはじめに出した二冊の書物「空飛ぶ円盤は着陸した」と「宇宙船の内部」（注）以上の二点を一冊にまとめた日本語版「宇宙からの訪問者」は昨年来絶版となっていたが現在某社に出版を依頼中）を読んだ多くの人々が次のような質問を寄せてきた。つまり他の惑星に人類が住んでいるとするなら、なぜその人類のことが聖書に記されていないかというのだ。

私は他の惑星にも人類がいると教えてきた。これは私が円盤を見たりその乗員と個人的なコンタクト（接触）の喜びにあづかるよりもかなり以前のことだった。私と異星人との会見をきわめて異常な事だとみなされではない。私と同じタ

イブのコンタクトを体験した人は他にも多くいるからだ（私は多くの心靈的な自称コンタクトマンのことを言っているのではない。私の言うコンタクトマンたちは自分の体験を公表してはいないのだ）。こうした他のコンタクト事件類は世界のいろいろな政府に知られている。そして現在「円盤」は嘲笑的な考え方で見られており、その人種のことが聖書に記されていないかというのだ。異星人は聖書時代における彼らの来訪について何度も私に語ってくれたので、私はこの問題をかなり研究してきた。

そこでいま我々に思い出させる最初の数節の一つが「ヘブル人の手紙」一一二に見い出される。

（訳者注）「ヘブル人」というのはヘブライ語の「ヘブル人」である。これはユダヤ人のこと。日本語訳聖書には奇妙な訳語が多い。ヘブライ人はアブラハム、イサク、ヤコブの子孫であると称する。古代パレスチナに住んでいたセマ族の一派。「ヘブル人への手紙」は身許不明の一信徒が紀元八〇年頃にローマ教会の団体に宛てて書いたといわれるもので、新約聖書に含まれる一篇。

「私の父の家（大宇宙）には娘（惑星）が沢山ある。もしかしたら私は

これまでに得た知識を大衆に伝え始めだろう。そして大衆は突然目覚めて、世界にたいして正体を現す日にそなえて研究を準備をしているのである。彼らはこれまでに得た知識を大衆に伝え始めたセマ族の一派。「ヘブル人への手紙」は身許不明の一信徒が紀元八〇年頃にローマ教会の団体に宛てて書いたといわれるもので、新約聖書に含まれる一篇。

十三章から成る論文と勧告文。イエスが「大祭司」と呼び、その十字架による贖

罪により、旧約の儀式や祭司制度などで象徴される契約は新たな救いの契約に代わったと脱き、當時としてはかなり進歩的な思想を示している。

「この終わりの時には御子によって私たちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また御子によってもろもろの世界を造られた」

これは一つ以上の多くの惑星に関する明確な引用である。同様の概念が「ヘブル人の手紙」一一三に示されている。「信仰によって、私たちはこの世界が神の言葉で造られたのであり、したがって目に見える物は現れている物から造られたのではないことを悟るのである」

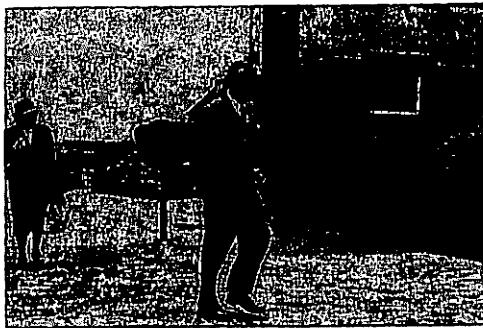
ここでもまた我々は一つの世界以上の惑星に関する別な引用を見い出すのである。これらの別な世界に人類が住んでいるとは言っていないけれども、しかしそれは聖書時代に他のもろもろの世界が知られていたという証拠となる。

聖書時代のこれらの人々は、各世界が結果になつたのである。この考えは気づいていた。各惑星は不可視な状態から可視的な状態に——すなはち原因から結果に——なつたのである。この考えは太陽系の起源に関する今日の最も進歩した概念と一致する。

## ヨハネによる福音書

「ヨハネによる福音書」十四一二に次のような記事がある。

「私の父の家（大宇宙）には娘（惑星）が沢山ある。もしかしたら私は



▲ありし日のアダムスキー。左後方の女性は往年のド・イツGAPリーダー、マリア・クーレンカンプ女史。

あなた方にそう言つておいたであろう。  
私はあなたの方のために場所を用意しに行  
くのだ」

「これは、もし我々が別な世界へ行ける  
ほどに進歩して、主が（イエスが）述べ  
たとおりに生きることができるならば、  
主はそうしてくれるのだということを明  
確に示すものである。このことは次の第  
三節にも示されている。

「そして私が行つてあなたの方のために場  
所の用意ができたならば、また帰つて来  
て、あなた方を私の所に迎えよう。私が居  
る所にあなた方をも居らせるためであ  
る」

キリストが彼の世界の唯一の住人であ  
つたと考えるのは不合理である。彼の惑  
星には無数の幸福な人々がいて、それら  
が定期的に地球へやつて来たときは天使  
とみなされたにちがない。

イエスは現身のままで天空へ運び去られたと教えられているが、これこそ大気圏外のどこかに生命を維持することでのできる惑星が存在する証拠である。キリスト自身は彼が他の惑星から来たという十分な証拠を示した。「ヨハネによる福音書」八一二三に次のようない記事がある。「イエスは彼らに言われた。「あなたの方は下から出た者だが、私は上から（大気圏外から）来た者である。あなた方はこの世の（地球の）者であるが、私はこの世の者ではない」」

これは我々はこの世界の者でそこから生まれたことを示している。しかしイエスはこの世界で生まれたけれども、この世界の者ではなかった。彼は他の世界から（別な惑星から）ここへ来たのである。「」」これは程度の高い惑星の人間が志願してこの地球で生まれかわつたことを意味する証明の一つである。これは精神的進化の階段をまだ登りつたる人類を導き援助しようという特殊目的のためである。

惑星から惑星へと進んでゆくのだ。  
気づかないで  
天使をもてなしている

この地球でなおも進歩しようとしている人々を援助しようとして、地球へ帰ることを希望する人々がいる。これは我々が外国へ宣教師を派遣するのときわめてよく似ている。イエスがやつたように地球上で生まれかわることを選ぶ人もあれば宇宙船でやって来て地球人の一人として生活することを選ぶ人もある。

他の惑星に人類が住んでいるという直接の証拠が聖書にある。「創世記」六一と六一四には次のように述べてある。「神の子たちは人の娘たちのところには、娘たちに子供を生ませた。彼らは昔の勇士であり有名な人々であった」この神の子たちは当時地球の婦人たちに子供を生ませた地球の男たちと同様に明らかに人間であった。彼らは我々のように日本語を書いていた。豊富や

についての確実な証拠は、「ペブル人」の手紙の中で、地球人は彼らが天使、（別な惑星から来た人）であることに気づかないで彼らをもてなすことがあるという個所によつて示されている（十三一）。

我々は地球上に在住する異星人の男女についてこれまでに多くを聞いている。子供のときから教えられてきた物事から考へると、これは多くの人にとつて空想的なパカラらしいことに思えるだろうが、しかしかりにだれかが見知らぬ人をもてなして、しかもそれが天使（友星人）であることを知らなかつたとしても、「古代にそうであったから」といつて現代にはもうこれらの男女が我々のあいだにないのだ」と、だれが言えるだろう。読者自身も彼らをもてなしたか、または路上で会つたことがあるかもしれない。私をも含めて多くの人がそうであつたろう。多数の人がこの訪問者たちの正体に気づいているけれども、知らない人も多くいる。我々が歴史はくり返すと考へるならば、同様に聖書の歴史もくり返すと考えてよいのだ。

「エゼキエル書」

彼は多くの兄弟の長子であり、そしていつか我々の多くもキリストと同じ状態に達することができるとも教えられている（「ローマ人への手紙」八一二十九）。

これは宇宙からの訪問者が地球は小学校の第一学年のようなものだと書った内容と完全に一致する。我々が次第に高くて進化するにつれて一学年から二学年へ、更に三学年へと進級するよう、惑星間

たにちがいない。これは他の惑星に現在人間が住んでおり、しかも長いあいだ住んできたという明確な証拠である。

天使に関する聖書の記述はきわめてはつきりしている。彼らはまさしく地球人のように見える。彼らは“人間の堕落”に関係しなかつたという点を除いては、全く我々と同様なのである。彼らの外観

円盤が母船を離れて地上を偵察し、また母船へ帰つてゆくという報告がいかに数多く行われてきたことだろう。この種の活動の完全な描写は「イザヤ書」六十八に見られる。

「雲のよう飛び、ハトがその小屋に飛び帰るようにして来る者はだれか」

これは円盤群が母船に帰投する光景ではないだろうか。当時の語法は今日のそれとは異なっていた。今から五百年先も異なるだろう。しかし我々が似たような出来事を同一視し得る基本原理というものは常に存在するのである。

「エゼキエル書」の第一章はあまりに正確で、單なる偶然の一一致とはいえないほど、ありふれたUFO目撲報告に類似した驚くべき物語である。第四節には、

周囲に大いなる琥珀色の火の雲をもつて北から来た『旋風』として描かれた一個の機械が出て来る。その内部には人間の姿をした四つの生きものがいた(第五節)。

ここで私はこれら古代の文章の奇妙な特徴について注釈を加えたい。昔の原典には句読点が用いられておらず、語や文章のあいだに区切りがなされていなかつたという事実である。しかも各節や章の区切りもなされなかつた。こんなことはみな後世に校訂者や翻訳者によつて加えられたのである。

エゼキエルは彼の文章の中で物語の筋を急に飛躍させる癖があつた事実を学者は指摘している。これが生きものと船体の各部分を区別するのを困難にしているのだ。多くの例において人間を説明した節のあとは船体に関する節が続き、そのまま次の節はまた人間のことを語つているといった具合である。このことを念頭に入れて次を続けることにしよう。

第五節では人間のように見える生きものが強烈に輝く船体の内部にいたと述べてある。第六節では「おののおのの頭を持ち、またそのおののに四つの翼が

あった」と言つてゐる。たしかにその生きものたちが四つの頭と四つの翼を持つたとすれば、それらは人間のようには見えなかつたろう。この第六節は人間のことを書つてゐるのではなく船体そのものを語つてゐるのだ。これは旧約聖書の他の翻訳本でも明らかにされている。これら各種の翻訳本のなかには船体を円盤と述べているものさえある。

当時の古代の著述家たちは我々が持つているような方角をあらわす言葉を持たなかつた。たとえば彼らは世界の四隅として東西南北を用いた。第六節には「どれもが四つの顔」と四つの翼を持つて

たという言葉を用いて、丸くてあらゆる方向に面していると述べられている。これを言い替へれば、同時に四つの方向に面しているということになる。以上の各節の理解の困難さに加えて、次の節は急に人間の記述に立ち返つてゐる。そこを読むと、その人々は我々のようなまづぐな足を持つていたが、真鍮色の牛の皮で作られた、見たところ、ある種のサンダルかモカシン(注=アメリカインディアンが用いたシカなどの柔らかい一枚皮で作った靴)のような奇妙な靴をはいていたことがわかる。

第八節は、それら(の物体)が人々の手によつて導かれたということ、すなわちパイロットとしての人間がいたことを明らかにしている。第九節では、現代の「円盤」の特徴が次のように述べられてゐる。「行くときは回らずに、おののおのの顔の向くところにまっすぐに進んだ」。

この古代の記述者は例の人間の特徴を述べるのに、ライオンの強さを持つと表

現して相手の顔に現れた決心、雄牛のよな不動さ、ワシのような軽快などの表現法を用いてゐる。見たところ、これら生きものは動物のようには見えても人間のようには見えなかつたであろう。この文章の筆者は、我々がブルドッジのような顎を持つとか、ローマ人のような鼻をしているというように象徴的に表現したのだ。

第十二節は第十一節の「顔」が船体そな自体の一部であり、人間の顔でないことを明らかにしている。そこで我々は、「顔」という言葉が船体と人間との両方を意味するのに用いられていることがわかる。この混乱のほとんどはたぶん翻訳者たちが何も知らない物事を訳そうとしていたあいだに起つたのだろう。もし我々がその言語を理解して、もとの意味のままに読むことができたとすれば、その筆者が何を伝えようとしたかを正確に理解して用語の混乱は避けられたであろう。

これらの空飛ぶ機械は着陸した。そのとき起つた出来事は第十五節から二十八節にわたつて述べられている。停止しているときはこれらの機械は緑柱玉の色であつた。四つともみな同じようになれていて、「あたかも輪のまん中に輪があるように」建造されていた。

第十七節はそれらが円くて船体の向きを変えないで方向転換したことを再度言つてゐる。第十八節ではドームのまわりに高いリングがあることを述べ、四つ

以上の各節はエゼキエルの目を通して目撃された三つの球型着陸装置を持つタブレットの円盤に関する正確無比な描写なのである。

偵察型円盤の円型翼の下部には、これまで何度も報告されたように三個の金属製の回転装置がある。これはジャイロスコープ的な安定性を与えるばかりでなく、超高压静電気チャージ用の発電機として役立つてゐるが、この静電気は三個の球型着陸装置の内部にあるファンドグランプ蓄電池の中に貯えられる。この「輪の中の輪」を見た人はだれでもエゼキエルのように正確に言えるだろう。

第十九節と二十節は、船体の中の人々が乗つていて、絶えずその運動を完全にコントロールしてゐることをたいそう明らかにしている。この第一章の終わりの部分には「会見」のことが述べてある。船体から人間がエゼキエルに話しかけるのを聽いたとき、彼は顔を伏せて、その不思議な機械と出来事を天使や神のせにした。エゼキエルは円盤のフォースフィールドの多彩な色光の変化を覗れて、そのことを第二十二節から二十八節にかけて詳細に述べてゐる。彼の驚きは今日の多數の目撃者の驚きときわめてよく似ている。彼が理解できなかつた物の前でひれ伏したとき、彼はそれを神または未知なる物のせいにして、別な惑星から来た他の人たちと接触してゐるにすぎないことに気づかなかつたのだ。

## その他のUFO関係記録

予言者エレミヤは雲のように見える飛

ぶ戦車のことを記している（「エレミヤ書」四一十三）空飛ぶ円盤の出現以来、何度も人々は雲のように見える物を白昼に見たことを報告している。突然その雲の内部から円盤が飛び出ると、その雲はゆっくりと消滅して見えなくなるというのだ。この現象は船体のフォースフィールドによって起こる。それは空気を凝縮させて雲を作るが、この雲は船体の周囲かまたは真上にしばしば観測されている。

イスラエルの民は夜は火の柱で、昼は雲の柱で導かれた（「出エジプト記」三二二十一）。彼らがエジプト人によつて追跡されたとき、この雲と火の柱が、そのような現象についてよく知らなかつた追跡者どもを“悩ませた”と記されてゐる。

【出エジプト記】第十三章と十四章に用いられている“主”という言葉に注目する必要がある。我々が思い出し得る時代からずつと人類は地球こそ人間の住む唯一の惑星であるとさまざまの宗教団体から教えられてきたことを私は明らかにしたい。地面上——すなわち空——のあらゆる物は神々や天使たちや主たちの住み家であった。この人々が観察した上空から地上へ来るのは何でも神か天使か主であつた。彼ら自身がこのような輸送手段を持たなかつたからである。会見だけでなく同乗の実例が「列王紀下」に記録されている。

「彼らが進みながら語つていたとき、火の戦車と火の馬が現れて一人を隔てた。そしてエリヤは旋風に乗つて天に昇つた」（「列王紀下」二十一）。

まず火の戦車が見られた——大抵の円盤目撃報告によると、船体がオレンジ色か琥珀色の火球現象で囲まれていると述べてある——そしてそのすさまじい力は火の馬によつて象徴化されている。それが近くへ来たとき、旋風として感じられたのであろう。

### 古代のコンタクトの事実

エリヤは神の人であると考えられてゐた。そしておそらく彼は異星人であつて、その地域で自分の仕事が終わつたことを知つて、そこを離れて他の場所へ行くことにきめたのである。彼は連れて行かれることに気づいたので、出発するときにはエリヤへ魔力を持つマントをやろうと約束していた。だからこの出来事は彼を驚かさなかつた。とにかくエリヤを地上から拾い上げて別な地点へ連れて行つたのはエリヤ自身に似た人々であつた。

当時彼は地球から離れなかつた。といふのは、数年後にエリヤは別な土地からヨラムに手紙を出して、ヨラムが父の教えた歩まなかつたこと、その王座を危うくしようとした兄弟たちを殺したことなどを諫めていることがわかるからだ。これについてはエリヤが拾い去られてから（少なくとも）十年以上経過している点で学者たちの意見が一致している。エリヤは自分が学んだことを他の人々に教えべきである。人々は受け入れて自分自

るために、地上の他の場所へ連れ返されたのである。

このことは多数の人が不思議がつてゐる現代の謎の失踪事件のいくつかにたいする解答になるかもしれない。こうした事件の中心人物のなかには、おそらく地球人のあいだに混じつて生活していた、

「訪問者（友星人）」がいたのだろう。彼らは自分の惑星に帰ることにきめて、この人々を集めるために派遣された宇宙船に乗つて我々の中から姿を消しただけなのだ。

モーゼはしばしば火の球または光る雲から語りかける人物とまじわつた（「出エジプト記」三十三十九）。宇宙船に乗つた一人の友星人は幾度も幕屋の前に降り立つてモーゼと話した。それに続く節

はすべての人々がこの事件を目撃したことと示すものである。

類似の事件が「詩篇」第九十九篇に記録されている。次のようなくだりだ。

「主は雲の柱のうちで彼らに語られた。彼らはそのあかしと、彼らに賜わつた定めとを守つた」（九十九一七）

聖書を通じて注目しなければならないのは、地球人が軌道をはずれすぎたときには、これらの使節、すなわち宇宙船に乗つた異星人たちがやって来て、指導者か

または地域社会のだれかに話しかけたところである。いずれのたびも彼らは宇宙法則のいくばくかを伝えようとして、船の光景をあらわしている。

（この章未完。以下次号）

身の道を変えねばならなかつた。彼らがこれを抱んでみずから苦難を招いても、起こつた事にたいして他のだれをも非難することはできなかつたのである。

「ルカによる福音書」九一二十四と三十五に、雲に包まれた船体と、その雲から出てくる声の記事がある。船が接近したとき弟子たちは恐れた。同じような事件が起ると今日の多数の人々も恐れる」と全く同じことである。船体から声が出てきたという事実は、異星人によつて地球上に教訓が与えられたより大きな証拠である。

【使徒行伝】一一九はキリストの昇天の物語である。これは復活の後のことであり、キリストは四十日間以上も肉体を持つて現れていた。我々はキリストが肉体を持つたまま昇天したといつも教えられてきた。彼が宇宙船に入ったとき「雲に迎えられてその姿が見えなくなつた」のである。統く一つの節はこの事件の目撃者がいたことを示している。また、この同じキリストが昇天の際と同じ有様でふたたび天つなわち空中から帰つて来るだろうという約束がある。この特殊な部分に関してはまだ多くの参考例があるけれども、以上の記事だけでも十分に乗船の光景をあらわしている。



●ある偉大な哲人との対話

# 宇宙と愛について

（連載第三回）久保田八郎編



今世紀末人類絶滅の予言はウソ

一般に出まわっている予言の本など

によると、一九九九年に地球上にど

うことが起こるということですが、

これについて先生は以前に「そんなこと

はあり得ない」とおっしゃいましたが、

それについてはどうでしょうか？

「最もむづかしいことは、Aという人が

大事件だと思つてもBやCなどの他の人

はそう思わないという問題です。たとえ

ば私の家に車が飛び込んで、家族が

大ケガをした場合、私たちにとっては大

事件であつても、北海道の辺境に住んで

新聞を読んでいない人には全く大事件で

も何でもないわけです。だから何かの物

事を予言する人がいても、他の人が何と

も思わねばそれは大事件ではありません。大事件というものはマスコミなどが騒ぎたてて一般人に認識させないと大事件にならないんです」

—速からず第二次大戦が発生して全面

核戦争となり、世界中が地獄の火の海と

化すといわれていますが、これについて

は？

「そんな大戦争はまだずっと先のことです。はるか先のことです」

—何百年も先のことですか。

「現代の文明人は約六千年前に原始生活

にはいつています。我々の一步手前の文

明の破壊はいまから一万二千四百年前で

す。このときにはいわゆるノアの箱舟の例

の大洪水やその他の神話などに出てくる

大洪水、ムード大陸やアトランティス大陸

の沈没などがありました。それ以来、一

万一千四百年しか経過していません。いや一万二千四百五十年です。いや五十一

年目かもしれません、今年は——。

その大変動により寒水期となり、そし

てそれが溶けたために水量が多くなり、

火山の爆発により恐ろしい蒸気を噴出し

て、このためにやはり水量が多くなった

のです。そういうわけで全地球上に一時

期たいへん高い所まで水位が上がつたの

です。そしてそれは長い年月のあいだふ

たたび下がってきます。地下へも落ちま

す。

その大変動が発生するまでの地球は現

在よりももっと文明が進歩していました。

科学、医学、道徳など——。人間にとって生きるために必要なものは今よりも高

度であつたと考えてよいでしょう。しか

し我々がそのなかでパロメーターにした

がるのは科学水準です。人間の尊厳さには目を向けません。だが当時の大文明は科学ばかりでなく、あらゆる分野のレベルが高度であったのです。そしてそれがピークに達するときがきました。もちろんその頃でも現在UFOといわれる物がいたわけです。

ところであらゆる物事が最高に発達して、人間が全く何不自由なしに暮らせるようになり、無欲になりますと、人間の内部から自然に偉大な力が引き出されます。このようになり、いわゆる超能力が出てきます。このように、修行や努力をしないで、あらゆるもののが満たされた状態で人間の内部から自然にわき起こる超能力こそ本当の意味での超能力なのです。

一万二千四百五十年以前の大文明の頃に、こうした超能力者は星の数ほど存在

していて、未来の予知がザラにできたものですから、それにより木製の船を建造することを計画し、大洪水からのがれる準備をしたわけです。

しかしその頃は木の船を作る人はいませんでした。あまりにも満ち足りて科学的に高度に発達していたからです。新しい合金なども沢山ありましたからね。木で物を作るという原始的な方法は存在しなくなつていたのです。いまでも木製の巨大なタンカーを建造せよといふ造船会社は困るでしょう。施設はすべて鉄板を用いるようにできていますから――。

それで沢山の人が木造船の建造案を聞き流したのですが、何人かの人が挑戦しました。世界中の各地で木造船を作ったのです。やがて大変動が発生し、大洪水となつたとき、その船に乗つた人々は助かりました。ただしそのときから原始生活が始まりました。もちろん飛行機で脱出した人もありますし、当時の最高の乗り物で逃げた人もありますが、その人々はすべて助からなかつたんです。こうした科学的な輸送機関は条件がすべてそろわないと機能を果たしませんからね。むしろエンジンを持たないで、水上漂流できる原始的な木造船が最高によかつたわけです。現代よりも立派なビルや地下鉄などがあつたのですが、そういう所へ逃げ込んだ人はみな自然界の猛威によりふるいにかけられました。

そしてあちこちで土地の隆起が起り、一方では陥没するという現象が続いたのですが、日本や中国はいつたん沈んで浮上した場所です」

——それがノアの箱舟ですか。

「ええ、ノアの箱舟は大変動の一部分を断片的に伝説として伝えたもので、その他の地域にも大洪水が神話として残っています。

それで、木造船で脱出して助かった人々は原始時代に逆もどりし、年月の経過とともに、大文明の知識や科学技術を生きせる人々も次第に没してしまいます。代が交替して、どうしようもなく原始人もどつてしましました。

また高地へ退避した人々も生き残つたのです。ピラミッドはその高地を象徴したものです。つまり高地へのがれて助かったのですから高地に感謝するようになつて、それがピラミッドという形に象徴化していくわけです――

——そうすると、その人々がピラミッドを作ったのですか。

「いや、それから何千年という年月が経過したのですが、人々は当時のことを忘れないでおこうというのでピラミッド建設が素朴ながらスタートしていくわけです」

### エジプトのピラミッドの謎

——そうしますと、エジプトのピラミッドを建設したのはいつ頃ですか。

「うんと昔です。その前にもっと多くのピラミッドが作られました。これは高地へのがれた人々がすぐにお守りのように感謝の心をこめて作ったピラミッドで沢山ありました。これらはやがて発掘され

れであちこちから出てくると思いますがね。あまりにも素朴で小さい物ばかりであります。あまりにも素朴で小さい物ばかりであります。あまりにも素朴で小さい物ばかりであります。

しかし次第に初期の人々の感謝の念が権力その他に付着しながら、ピラミッドはますます巨大化していくのです」

——いまエジプトのギザに大きなピラミッドが三つあります。あれを実際に作つたのは今から何年ほど前になりますか。「今から六千年前です」

——あの石を積み上げるのに、人々が引つ張り上げたのではなく、別な方法を用いたのですか。

「そうです。その頃は現代の力学よりは違う方法を用いたのです。人々がどんどん退化していましたからね。今は自然の力に依存するよりも唯物論的というか、人間の考える機械的な力、または素朴だけれども人間の労力というものを応用するようにおちぶれてしまつたわけです。

人々が原始生活から進歩して、素晴らしいといわれる段階に達するまでに八千

年から九千年かかります。これ以上は維持できません。自然界が許さないからです。自然といふものはそれぐらいの周期で作用しています。つまり自然界は九千

年から一万年ぐらいのサイクルで呼吸作用をするのです。

大自然といふものは大きな目で見ると生きものなんですね。大変動というすごい感じがするけれども、人間が惑星にたいしてあまりに小さすぎるために、人間の目から見れば、ごくたまに起こる惑星の地殻変動などは大変な状態に見えます。地殻変動といふものは毎日の天候の

変化ほどに激しくはない、緩慢に発生しますが、やはりサイクルがあるのです。

だから人々はどれだけ高度に成長しても、いつかは蒸発と消えるという状態は続きます。どうあがいても、最高の状態になつても人々は惑星という自然界の上にあぐらをかいているのだから仕方がありません。これはすごい緩慢なサイクルですが、時期がくれば必ず起ります。

しかしその一周期のあいだに人々は最高の状態に達します」

### 全面核戦争は起ららない

——現代は人々が最高に発達する段階の終わり頃ですか。

「いいえ、まだまだ進歩します。だから一九九九年に何かが発生するというのは、かりに何かがあつたにしても、地球といふ惑星が起こす周期的な大変化からみれば子供の遊びみたいなものです。

人々が個人の何十年間の生涯のあいだでも自然環境は大変化しますからね。現代の人類の成長期間はまだあと二千年もありますから、その間の環境や文化の変化は図り知れないものがあるでしょう。だから一九九九年の出来事などは、かりにそれが戦争であつたとしてもイギリスとアルゼンチンの紛争みたいな取るに足らぬものだと思います。人類の終末はまだあるか先のことですよ」

——実際に核兵器を使う時が来るでしょうか。

「来ます。ただし全面核戦争といふようなものではなく、散発的なものです」

——それは今世紀中ですか。

「いや、今世紀中ではありませんね」

——じゃ、百年後ぐらいですか。

「そんなに先でもないですけどね。それも戻り物のものであつて、一般にはさほど影響はないでしょう。核兵器を使用すれば相手國からも仕返しを受けますから簡単に使えません」

——問題は三千年先ですね。

「早ければ二千年先です。それは人間の手による破壊ではなくて、自然の動きそのもので、地球の大掃除です」

——そのときには日本列島が海中に沈下して、太平洋に新しい陸地が出現するのでしょうか。

——「太平洋にはあまり陸地が出てこないので、材木を積み重ねた構造になつていて、大波にもまれてどんなにこわれても、下層部から順番にはずれでゆくように作られていました。次々と破損しても最後には板切れ一枚で助かるという方法をとったわけです」

——そうすると動力はつけなかつたのですか。

「動力をつけた船も作られたんですが、それは全部だめになりました。動力をつけようとなれば、それなりの精巧な構造が必要になりますし、燃料の貯蔵所、水の入らないような精密さなどが要求されます。それでこのような船に乗つた人たちみな助からなかつたんです。そして不完全な粗雑な船を作つた人々は助かつたわけです。

——こうした不完全さというものは、人間の目から見ると不完全に見えて、自然に対応しますから、自然にたいしては完璧だったのです。結局は生き残つたんですから——

——「その大洪水の発生地はどこですか。——やはり人間ばかりではなく動物を積み込んでいたのですか。

「そうです」  
——「その箱舟の大きさはどれくらいだったのですか。

「大きささまざまあって、しかも世界中で無数といえるほどに沢山建造しました。それが世界中に浮いたんです。旧約聖書では一隻だけ例をあげて語っているから

話がややこしくなるのです。もちろん、これらの木造船のすべてが助かつたわけではありません。当時の人々は海水の水位が上がるところしか考えず、波にもまれることは想像しなかつたんです。

ノアの箱舟は結果的には完璧な船だったのです。これはイカダの深いと舷側とをつなぎ合せたものです。これはいわゆるイカダよりももっと粗っぽいもので、材木を積み重ねた構造になつていて、大波にもまれてどんなにこわれても、下層部から順番にはずれでゆくように作られていました。次々と破損しても最後には板切れ一枚で助かるという方法をとったわけです

——日本にはノアの箱舟のような船はなかったんですね。

「やはり、あつたんです。だけど日本列島は海水でひとなめにされたんです」

——そうすると、現代の日本人の祖先はそのあとに来たわけですか。

——「そうです」

——それはどこから来たのですか。

「方々から助かつた人たちが集まつて来ました。そのときには世界中に人種が散つてしましました。波まかせですからね。その海水の流れも非常に速くて、ものすごいスピードですから、動力つきの船などはだめで、やはり頑丈な大イカダ式の船でないと耐えられませんね。それは材木を一メートル二十七センチほどの間に並べた大ざつばな船で、どこから波が来ても耐えられるように設計されています。

物体を水の中へ入れると比重の関係で軽くなりますね。あの原理を応用して、石を水の中につけたままで仕事をしたわけです。つまり石を水中で動かしたん

——今は砂漠のまん中にピラミッドが建つているんですから、あの石をどうして動かしたんだろう、と人は首をかしげます

——もう一つは高山へ避難した人たちです。この人たちは助かりました。この人たち

は水が引いたときに船で下がつて行きました。いわば船で降りたわけで、たどり着いた所で感謝の気持をこめて高山の象

したために縋るにされたわけです。しかしその寄つた水が元へ返つて、それが蒙古の方まで行っています。だから日本には太古の歴史が残っていないんです

——日本の人間もみな流されたのですか。

「そうです。島は船と逃つて動きませんからね。地上の人間や物が流されるだけです」

——日本にはノアの箱舟のような船はなかったんですね。

「やはり、あつたんです。だけど日本列島は海水でひとなめにされたんです」

——そうすると、現代の日本人の祖先はそのあとに来たわけですか。

——「そうです」

——それはどこから来たのですか。

「方々から助かつた人たちが集まつて来ました。そのときには世界中に人種が散つてしましました。波まかせですからね。その海水の流れも非常に速くて、ものすごいスピードですから、動力つきの船などはだめで、やはり頑丈な大イカダ式の船でないと耐えられませんね。それは材木を一メートル二十七センチほどの間に並べた大ざつばな船で、どこから波が来ても耐えられるように設計されています。

物体を水の中へ入れると比重の関係で軽くなりますね。あの原理を応用して、石を水の中につけたままで仕事をしたわけです。つまり石を水中で動かしたん

——今は砂漠のまん中にピラミッドが建つているんですから、あの石をどうして動かしたんだろう、と人は首をかしげます

——もう一つは高山へ避難した人たちです。この人たちは助かりました。この人たち

は水が引いたときに船で下がつて行きました。いわば船で降りたわけで、たどり着いた所で感謝の気持をこめて高山の象

微としてピラミッドを作つたわけです

## ピラミッドの建造法

——現在エジプトのギザに残つてゐる三

大ピラミッドは、それぞれ二百万個以上

の石を用いて建造されたといわれています

——実際にはどのようにして築き上げたのでしょうか。

「あれは水位を利用したんです。水を順番にせきどめたんです。水の流れにたい

して順番に防波堤を高めたわけです。

現在のナイル川のあたりは大昔は森林地帯だった所で、鉄砲水でない緩慢な水

が今のように砂漠でなかつた一帯を流れています。そこで、現在ピラミッドが建立されている地点に長い堤防を作つて

水をせき止めたわけです。そして水の表面に石を並べてゆき、一定の平面の建設が終わると、また水位を上げてゆきます。

そして完成してから高く築いた堤防を今度は順番に崩していったんです。

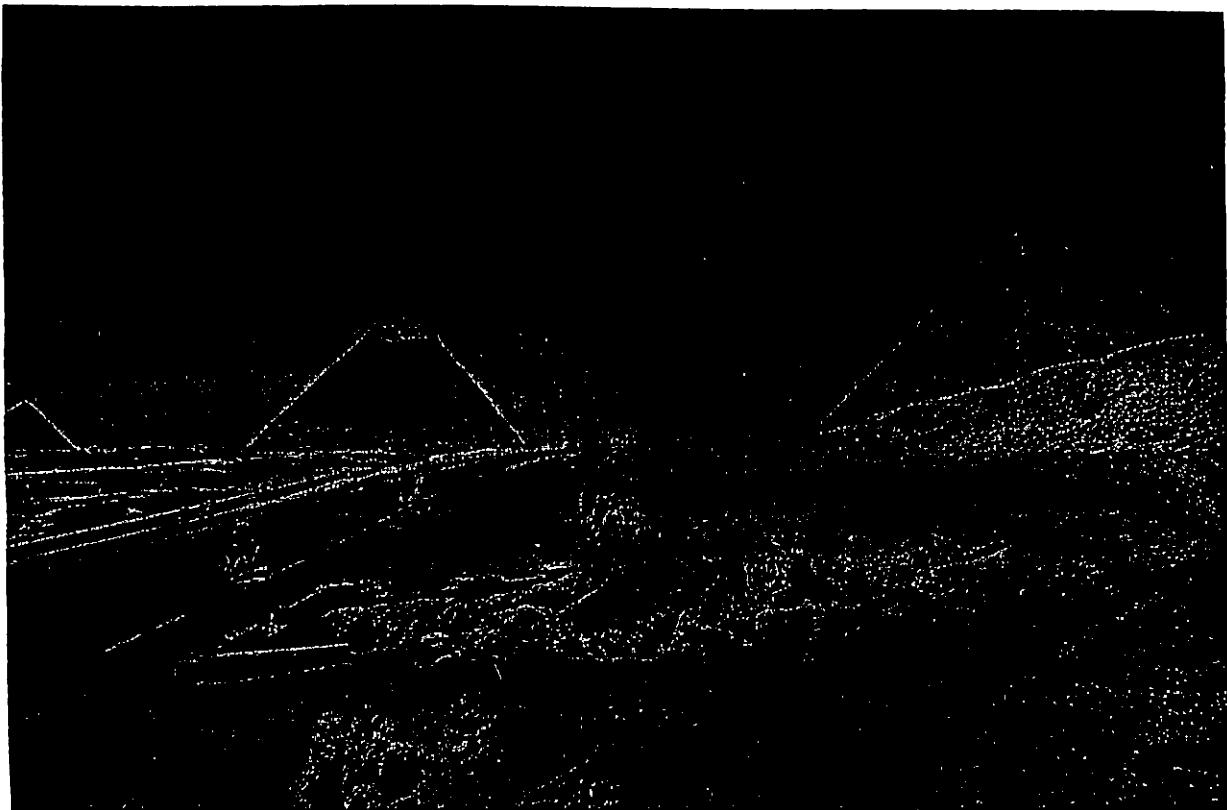
物体を水の中へ入れると比重の関係で軽くなりますね。あの原理を応用して、

石を水の中につけたままで仕事をしたわけです。つまり石を水中で動かしたん

——今は砂漠のまん中にピラミッドが建つているんですから、あの石をどうして動かしたんだろう、と人は首をかしげます

——もう一つは高山へ避難した人たちです。この人たちは助かりました。この人たち

は水が引いたときに船で下がつて行きました。いわば船で降りたわけで、たどり着いた所で感謝の気持をこめて高山の象



沙漠化したために、現在のように平らになつたのです。もとはあそこは丘陵地帯で岩盤だつたんです。

水をせき止めるのは丘陵と丘陵とのあいだの谷間でやつたのですから簡単です。まず上流から石を切り出して流し、それを谷間に並べて最下層のダムを作つて水をせきとめます。次にその水の中を更に石を流してダムを高くし、このようにして次第に石を高く築いていったんです。

御母衣ダム（おほろいだむ）というのが日本にありますがあれはピラミッドを作つたのと全く同じ原理で作られています」

——あのピラミッドのある地域は、広漠たる砂漠の平野になつてゐるんですが。

「現在はそうです。しかし上流へ行きますと、年間百キロずつ砂漠が拡大しているんです。ナイagaraの滝にしても昔はずつと手前にあつたんです。滝というものは毀山現象といつて、だんだん山へ帰つてゆきます。水の勢いで滝の岩盤が少しずつ崩れて上流へ移動するのです。ピラミッドの地域もやはり毀山現象によつて現在は丘陵が削られてなくなりました。だけど昔は丘陵があつたんです」

——昔の石切場は今も残つてゐるんですね。

「その石切場も谷の中だつたんです。今は風化して樹木もなくなりました」

——するとピラミッドは古代エジプトの王の墓でもなんでもなかつたわけですか。

「王は後世になつてピラミッドのなかへ自分の権力をミックスしていくんです。

だから最初のピラミッドというのは小さな墓石みたいな大きさで始まつたんです。それは感謝のシルシだったのですからね。高山で助かつたための象徴です。日本でも忠魂碑というのがよくあります。が、これは墓石よりも大きくしてありますね。あれと同じで、もとはほんの小さなピラミッドが、次第に大きく作られるようになつたのです」

——あのピラミッドの石を持ち上げるのを別な惑星の宇宙船が助けてやったという説がありますが、そんなことはやらないといったのですか？

「水を利用することにして、水を流すピラミッドを構築する場所に斜めに橋かけをするわけです。そうするとスキーディヤンプをするのと同じで全く手がかからないんです。スキーデ高い所から降りて来て、ジャンプ台でこんなふうに角度をつけるでしよう。そうすると人間は空中へ飛び上りますね。それと同様に、石切場から出した石をそのかけ橋の上ですべらせれば、いとも容易に石がすべり落ちてきます。こうすれば至つて簡単にピラミッドが作れるのです」

——そのピラミッド建造の光景を先生は透視されるのですか。

「そうです。私が言つたことを確かめようと思えば、あなたがピラミッドに関して多くの書物を調べてみれば、もとその場所は丘陵地帯だつたとかいろいろな事実がわかつてくるでしよう。

そして最後にあれだけの物が残つたのです」

# 円盤の誕生日

七月四日、日本GAP静岡支部と名古屋支部合同の東海地区大会が開催された。この日は久保田先生の誕生日という記念すべき日でもあり、大会、そして誕生記念パーティーも大盛況のうちに終了した。

翌五日は雰囲気をガラリとかえて、静岡、清水方面へ観光である。この観光の日のちょうど一ヶ月前の六月五日の朝方、母船が現れた夢をみました。そして大会の何週間か前、観光のコースをあれこれ考えていた時、ある光景をイメージしておきました。それは日本平からロープウェーで久能山に行く途中のゴンドラに乗っている時、それと平行して円盤が現れ、円盤の丸窓からこちらに向かってニコニコして手を振っている、そしてゴンドラの中の私達も手を振つている光景を描いておいたのでした。当日偶然にもゴンドラの中から松山支部の伊藤さんが近づいてくる円盤を目撃されたのでした。またその前の見学地の登呂遺跡でも会員のみなさんが集団で円盤を目撃した。私のとなりにいた高梨氏も双眼鏡でバッチリと確認した。

三保の羽衣の松の海岸では、波打ちぎわに着き、空を見上げると、海岸に向つて右側の上空に線条の細い雲が三本東西にたなびいていた。その一番長い雲のすぐ下に白銀色の物体が二~三秒水平飛行した。近くにいた高梨氏に声をかけ、

（松山支部代表）伊藤達夫

七月五日の静岡での市内観光で、たびたび円盤を目撲しました。日本GAPを励ますかのように現れた円盤の方々に心から感謝し、スペースプログラムに協力する意欲と自信を深めることができます。

七月四日、日本GAP静岡支部と名古屋支部合同の東海地区大会が開催された。この日は久保田先生の誕生日という記念すべき日でもあり、大会、そして誕生記念パーティーも大盛況のうちに終了した。

翌五日は雰囲気をガラリとかえて、静岡、清水方面へ観光である。この観光の日のちょうど一ヶ月前の六月五日の朝方、母船が現れた夢をみました。そして大会の何週間か前、観光のコースをあれこれ考えていた時、ある光景をイメージしておきました。それは日本平からロープウェーで久能山に行く途中のゴンドラに乗っている時、それと平行して円盤が現れ、円盤の丸窓からこちらに向かってニコニコして手を振っている、そしてゴンドラの中の私達も手を振つている光景を描いておいたのでした。当日偶然にもゴンドラの中から松山支部の伊藤さんが近づいてくる円盤を目撲されたのでした。またその前の見学地の登呂遺跡でも会員のみなさんが集団で円盤を目撲した。私のとなりにいた高梨氏も双眼鏡でバッチリと確認した。

三保の羽衣の松の海岸では、波打ちぎわに着き、空を見上げると、海岸に向つて右側の上空に線条の細い雲が三本東西にたなびいていた。その一番長い雲のすぐ下に白銀色の物体が二~三秒水平飛行した。近くにいた高梨氏に声をかけ、

（静岡支部代表）野口敏治

再度見た時には姿は無かった。このあと清水次郎長の墓などを見学し、静岡に帰る途中、橋口氏がバスにずっとついてきた二機の円盤を目撲している。

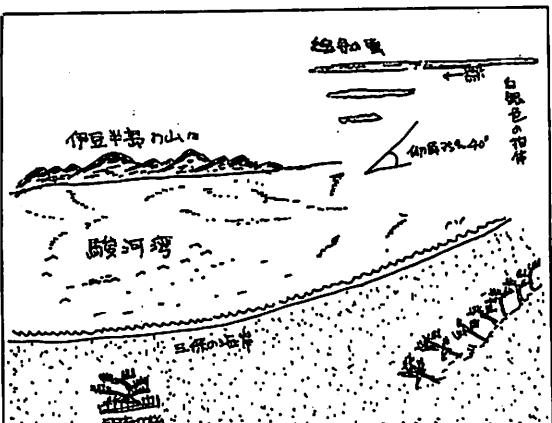
登呂遺跡 日本平、三保の松原、そして帰路と、ずっと上空から見守られた一日であった。そしてGAP活動への信念がますます強固になった一日でもありました。

天下の絶景、三保の松原を真近に控え海を眺めていると、海上からこちらに向かって一羽の大きな鳥が翼をピンと伸ばして近づいて来るのが見えたので、レンズを向けると、それは鳥ではなくて、登呂遺跡で見たのと同じタイプの円盤でした。

ゴンドラの中から眼下に開けた駿河の海を眺めていると、海上からこちらに向かって一羽の大きな鳥が翼をピンと伸ばして近づいて来るのが見えたので、レンズを向けると、それは鳥ではなくて、登呂遺跡で見たのと同じタイプの円盤でした。

天下の絶景、三保の松原を真近に控え海を眺めていると、海上からこちらに向かって一羽の大きな鳥が翼をピンと伸ばして近づいて来るのが見えたので、レンズを向けると、それは鳥ではなくて、登呂遺跡で見たのと同じタイプの円盤でした。

▼野口氏による三保海岸のUFO出現図

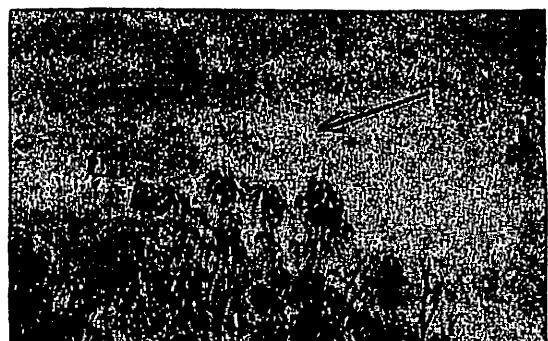


このように、終始二機の円盤が行く先々で私たちを見守つて下さるという素晴らしい市内観光でした。さしつめ「日本GAPとスペースブラザーズとの合同ハイキング」ではなかつたかと思います。

静岡支部大会の翌日にこのような素晴らしい体験をすることができて本当に幸運でした。久保田先生とスペースブラザーズが協力させてスペースプログラムを遂行している現実の姿をこの日ではつきり確かめることができたのは貴重な体験で、勇氣と自信、喜びと希望があふれて静岡をあとにすることが出来ました。

三保の松原は私が子供の頃から一度は訪れたいと思っていた憧れの場所でした。浜辺に座つて、しばし打ち寄せては返す太平洋の大波とたわむれている間も、ずっと「見つめられている」という温かいフィーリングを感じていました。

終着の静岡駅に着く直前に、バスの中から会員の方々が高空を飛び去つて行く丸い白色の円盤を目撃しています。あとで知ったのですが、バスが清水の次郎長のお墓のあるお寺から静岡駅に向かう途中、二機の円盤がバスを追つかけて来るのを見た人がいたとのことで、びっくりしました。



▲登呂遺跡上空の円盤。(伊藤達夫氏撮影)

日本GAP東海地区大会が七月四日に開催され、八十二名のみなさんが参加されたなかでの久保田会長の大講演は、すばらしい内容でとても感動しました。夕食会も大勢のみなさんが参加され、この日は久保田会長の誕生日で、誕生記念パーティーということでお祝いが催されました。翌日は静岡、清水方面に超豪華の観光バスで出掛けました。

最初は登呂遺跡に行き、二千年前の弥生式時代の水田跡、復元された穀物倉庫、住居跡などを見学していました時計を見るひまがなかったのです。この日は一日中私達を上空から見守つていただろうか? とにかく視界から消えないようになると見るのが精一杯だったのに見えなかつた。何分間か、何十分間位だけだろうか? とにかく視界から消えられたような気がしました。私は、UFOをよく目撃されるという橋口氏の横に座らせていただきました。氏と一緒にいればUFOを見る事ができるのではないかなどと思つたからです。

最初は登呂遺跡を案内していただきました。バスから降りる時に懐かしい印象が湧き起つてきました。大学の頃、それからGAPの総会の時などによく湧き起つた、うまく表現できませんが、

それでもどつてきました。まわりにいた人達がカメラでとつたり、双眼鏡で見たりしていました。

そしてバスで日本平へと向かう。日本平からの展望は素晴らしい。ここからロープウェーで久能山東照宮に行き、家康の遺愛の品々を集めた博物館などを見学しました。松の向こう側には駿河湾が見え、その向こう側には伊豆の山々がかすんで見え、とても美しい海岸に感動しました。それからバスで清水次郎長で有名な梅蔭寺に行き資料館を見学する。次郎長さんがとても進歩的な考え方をもつていたことが驚きました。この日の見学コースはすべて終了し、梅蔭寺をあとにして静岡に帰る途中バスの左側の窓から外をながめていると、白く光る物体が二機見えた。ビルや家の影で時々見えなくなったりするが、バスの進行方向と同じ方向にずっとついてくる。バスの速度にあわせていいみたいだ。静岡駅に着くころにはもう見えなかつた。何分間か、何十分間位だけだろうか? とにかく視界から消えないと見のがすのが精一杯だったのに見えなかつたのです。この日は一日中私達を上空から見守つていただけました。

そして翌日は七月五日、静岡市内見学の日でした。ホテルのロビーで皆で待つてみると、素晴らしい豪華なバスが来たので、まずこのことに驚いてしまいました。そしてバスに乗りこみました。私は、UFOをよく目撃されるという橋口氏と一緒に座らせていただきました。氏と一緒にいればUFOを見る事ができるのではないかなどと思つたからです。

最初は登呂遺跡を案内していただきました。バスから降りる時に懐かしい印象が湧き起つてきました。大学の頃、それからGAPの総会の時などによく湧き起つた、うまく表現できませんが、

それでもどつてきました。まわりにいた人達がカメラでとつたり、双眼鏡で見たりしていました。

### 〈千葉県〉遠藤昭則

静岡支部大会の次の日に出現したUFOについてお伝え致します。

まず静岡支部大会の当日の七月四日、丁度先生の御講演の時です。それまで先生のお話を興味深く聞いていたのですが、

ふと右側の窓から見えている空が気になつて、というよりもそこに母船がいるのではないかなどという感じがしたので、

外を見てみました。しかしブラインドを通して見た景色は、建ち並ぶビルディングとその上に浮かんでる様な形をした雲だけで、母船らしいものなどどこにも見あたりませんでした。

それで、きっと感違いだろうと思つていたのですが、母船が近くにいるという感じはまだ続いていました。

そして翌日は七月五日、静岡市内見学の日でした。ホテルのロビーで皆で待つてみると、素晴らしい豪華なバスが来たので、まずこのことに驚いてしまいました。そしてバスに乗りこみました。私は、UFOをよく目撃されるという橋口氏と一緒に座らせていただきました。氏と一緒にいればUFOを見る事ができるのではないかなどと思つたからです。

最初は登呂遺跡を案内していただきました。バスから降りる時に懐かしい印象が湧き起つてきました。大学の頃、それからGAPの総会の時などによく湧き起つた、うまく表現できませんが、

青い中に金色があるような、そんな印象でした。きっとこれはGAPの人達の素晴らしい印象のためだろうと思つていました。

そして色々な住居跡を見学して、復元された住居の前で皆で写真を撮つたりして、そのまわりに数人が集まつて、いた時のことです。先生が空を指さして何事かと行つて見てみました。初めは何事かと行つて見てみました。初めは何か解らなかつたその二つの物体は、よく見てゐるうちに二羽の鳥であることが解つて、残念、UFOではなかつたかと思つました。するとその二羽の鳥の進んでいる後方から、空気を切つて飛ぶというよりも水の上をスルスルとすべつて行くような、スイカの種のような形の楕円形をした真つ黒な物体が飛んで、その二羽の鳥を追い抜いて行きました。

双眼鏡で見ている方、カメラで撮ら

れていた方等、色々おられました。

そして向こうへ行つたかなと思つて、まつたら、今度は戻つてきました。その時は私には見えませんでした。

この物体が二羽の鳥の後方から現れて追い抜いて行つた時、二羽の鳥とは違う、バスから降りた時に感じた様な印象が一瞬湧き上がつてきたので、あれはきっと宇宙船だと思います。

それからバスの方へと向かつて歩いて行つたのですが、昨日母船がいるような感じがしたのを思い出して、ひょつとしたら母船が遠くにいるのではないかと思いました。

そしてバスに乗つて日本平へと向かいました。このころになると細長い尾を引

いたような雲がたくさん出ていました。カーブの多い道を登つて、景色は最高で、清水港だつたと思ひます。ちらの方でもよく見えていました。

私は外を見ながらUFOが飛んでいないかと探していたのですが、一つの細長い雲の下に、白い糸のような雲があるのを見つけてました。橋口氏から双眼鏡をかりて見てみると、その細い糸のようない雲は左側に少しずつ伸びているようでした。あたかもその先頭に物体が飛んでいるように。しかし自然現象かも知れませんので、よく解りません。

日本平で昼食をとり、清水次郎長の墓等を見てから静岡駅へと帰ることになりました。

途中眼くなつてうとうとしていたら、橋口氏が外をさつきから見ていることに気が付きました。そこでそちらの方

を見る、バスは家が建ち並んでいた近くを走つていたので何も見えず、はてなと思つてました。そして家の並びが切れ大きな丁字路になつた時、バスの進行方向に向かつて左側の遠くの山の横に、白く丸い物体がバスと同じ速さで飛んでいるのが見えました。

「あれ? なんだろう?」  
と言ふと橋口氏も、「うん」

と語りました。氏はさつきからその物

体に気付いていたそうでした。

それから遠くの山々に隠れてその物体は見えなくなつてしましました。もしもUFOだつたらまた見えるのではないかと見ていた所、山々が消えて海が見える場所を通つた時、さつきの白く丸い物体

が二つ、私達の乗つたバスを追い抜いて飛んでいました。そしてすぐにまた建物で見えなくなつてしましました。

それから五、六分でバスは静岡駅に着きました。

以上が大会翌日の様子です。

今回の静岡支部大会とその翌日の見学会に参加してとてもよかったです。私はスペーズ・プラザーズは私達を注目している。その信念をこの二日間で新たにしました。



千葉原 山口 緑

印象深き静岡での大会の翌朝は、野口さんはじめ静岡支部の方々の手厚きもて

なしを受け、豪華大型バスに乗り込み、三十余名の会員と共に市内観光に加わらせて頂く好機に恵まれた。当初は仕事の都合上、大会翌日の七月五日を休むわけにはいかないと想ひ込んでいたが、大会には近づくにつれ、何としても休暇をとつた方がよいという感じがして、思い切つて休みをとり、参加させて頂いたのだ。

午前十時過ぎにホテルを出発、最初に訪れたのは有名な登呂遺跡であつた。幾

分なりとも興味はそぞられたけれども、それよりもはるかに大きな期待、——何

かが起こる——という気がしてしかたがない。空は薄曇りだが暑過ぎることはなくとても軽快である。月曜日とあってほ

とんど他の観光客らも見当たらぬ。

ガイドさんの説明やら、お互に記念

にトシヤッターを切り合つたりした後、見事に復元されたかやぶきの住居をみ

なが見たり、中に入つたりしている時、私はふと上空を何気なく仰ぎ見た。二羽

の鳥が黒く目に入ったが、ちょうどその

二羽の鳥の中ほどに黒点があるのに気づいた。「あれ、あれも鳥なのだろうな

と心中で思いつつ、同時に「もしかして……」と瞬間盤ではなかろうかという

印象を受けたけれども、それをすぐに打ち消して、しばらくその二羽の鳥ともうひとつ黒い物体を注視していた。それはあまりも鳥の飛行コースと一致してお

り飛行状態も似ていたために、やはり同じ鳥がより高い上空を飛んでいて小さく見えるのだろうと解釈し、近くにいた笠原さんにも伝える勇氣も起こらずにいた。しかし、気にかかるてしまうがない。

みんながそろそろ復元された住居を見学し終わつて外に出た頃になつて、私もひとつ中に入つてみようと思い、池谷さんらと共に中に入り、しばらく中を見た後、五分ほどして再び外に出てみると、みんなが空を見上げ、「あれはなんだ? 田盤らしい!」という声がし、みんなの指さす方に目を向けると、先程私が見た物体であった。「ああ、やっぱりそうだつたのか!」と思い、目を凝らした。久保田先生も「あれは鳥じゃない」と言わ

れるので確信を持つと同時に、自分もこうして円盤を目撃できることに対してとても大きな歓喜と興奮が体じゅうに走るのを感じた。

最初に私が見た位置は、私たち一行のほぼ真上にいたが、こうしてみんなで目

撃したものは、かなり仰角の低い位置にまで来ていて次第に遠ざかっていくようだった。そこにいたほとんどどの会員の方々がその物体を確認した様子だった。皆さんがその物体を見失つてしまふと再び別方向に同じ物体が出現した。私たちの宿題のアンコールに応えてくれたようである。その間約五六分だったと思われる。

後になつて考えてみると、私が最初その物体を発見した時には、完全に彼らアザーズが私たち一行を観察していたのだ、という強い印象を持った。

## 円盤に注目された日

〈日本GAP会長〉 久保田八郎

七月四日の静岡支部大会は八十二名も

の出席者を得て大盛況であった。けだし

支部代表の野口氏の高徳と地の利によるものだ。夜のディナー・パーティーは特に私の誕生日として開催され、支部の皆さん方のお心尽くしに感動した。この歳になるまで他人様から誕生日を祝つてもらつたのはこれが最初である。

翌五日は野口氏のお話で三十二人乗りの豪華観光バスを借り切つて静岡市と清水市の観光に出かけた。参加人員が三十二名だからびたり。

午前中、まず静岡市内の登呂遺跡へ行く。二千年前の弥生式の水田跡を見学し、円型の縫穴住居の中へ入つて外へ出た頃から、空中が気になりだした。何かが出現しているのではないか? しきりに空を見上げていると、鳥が一羽飛んでいる

まで来ていて次第に遠ざかっていくようだった。そこにいたほとんどどの会員の方々がその物体を確認した様子だった。皆さん

がその物体を見失つてしまふと再び別方向に同じ物体が出現した。私たちの宿題のアンコールに応えてくれたようである。その間約五六分だったと思われる。

後になつて考えてみると、私が最初その物体を発見した時には、完全に彼らアザーズが私たち一行を観察していたのだ、という強い印象を持った。

付近を、別な黒い物体が直線状に右から左へゆづくりと飛ぶのが見えた。  
最初は鳥かなと思ったが、他の本物の鳥のように羽をばたつかせない。変だなと思つてゐるうち、円盤だという印象が強烈にわいてきた。右手を上げてその物体を指さしてはいたが、「円盤が出たぞーーー」と大声で叫ぶのはカッコわるいので、黙つて指さしたままではいる。皆さんは私の動作に気づいて空中を見上げた。「あれは鳥ではないな」と、つとめて冷静さをよそいながら私が發言すると、

左へゆづくりと飛ぶのが見えた。  
木越しに視界から消えていった。  
この日私が物体を見たのはこのときだけだが、あとで聞くと、他の場所でもときどき出現したらしく、大体に二機の円盤が見え隠れしながら私たち一行を空中からついてまわつたようだ。終日、円盤に見守られていたような素晴らしい一日だった。

橋口氏も合づちを打つ。「円盤だ、円盤だ!」という声が次々におこる。黒い物体はかなり遠くまで飛んで、樹木越しに視界から消えていた。  
物体は同じコースを一度にわたり、そして同じ速度でゆづくりと飛行してゆきました。あきらかに人工衛星とは違いましたし、ヘリコプターやその他の地球製のものとは違っていました。残念なことにカメラを持っていなかつたので撮影できませんでした。しかし、それを全員一致でUFOであると確認確認できたことは素晴らしいことです。

このUFOの特徴といえば札幌の西円山病院で療養中の吉田ゆう子さんが目撲した昨年の秋出現したというアダムスキーライ型の円盤と良く似たところがあります。黒っぽい万葉筆のキャラップ型であり、しかもピカーツ、ピカーツと乳白色に信号ブターで送り迎えすることがあるとのことです。しかし、その時の飛行状態ははつきりとヘリコブターであることが判明しました。ちょうど愛車を運転中のことだったのですが、通常のものとは異なっていたようでした。時間帯は午後一時頃。音もせず、それでいて戦闘機のように乱れることなく方向を変えて私の視界から消えてゆきました。

あとで確認のため陸上自衛隊にヘリコブターを飛ばせていたのかを問い合わせをしたのですが反応が悪くはつきりした解答が得られませんでした。ところが先月（八月末）上空にヘリコブターガ機が飛行しているのを発見、勤務先に自衛隊のサイクリング・ロードの下で和氣あいあいと語り合つていたところ突然、銀白

## 旭川市にまたもUFOが

〈旭川支部代表〉 石川公一

（その1）

去る六月二十日に開催された旭川・札幌合同支部大会の一週間ほど前、上空に黒い物体が四機飛行するのを目撲しました。ちょうど愛車を運転中のことだったのですが、通常のものとは異なっていました。音もせず、それでいて戦闘機のように乱れる

ことなく方向を変えて私の視界から消えてゆきました。

（その2）

去る八月八日（第一回曜日）旭川支部月例研究会が行われ、いつものように本部に於ける会長のテープを公開し座談会などを終え、会場も暑かつたせいか、多くの常磐公園を全員で散歩し、川沿いのサイクリング・ロードの下で和氣あい

色に光る黒っぽい物体が旭橋の上空を飛ぶのを見たのです。私はそれをUFOではないのでは? と疑問を投げかける人もいたせいか、物体は同じコースを一度にわたり、そして同じ速度でゆづくりと飛行してゆきました。あきらかに人工衛星とは違いましたし、ヘリコブターやその他の地球製のものとは違っていました。残念なことにカメラを持っていなかつたので撮影できませんでした。しかし、それを全員一致でUFOであると確認確認できましたことは素晴らしいことです。

このUFOの特徴といえば札幌の西円山病院で療養中の吉田ゆう子さんが目撲した昨年の秋出現したというアダムスキーライ型の円盤と良く似たところがあります。黒っぽい万葉筆のキャラップ型であり、しかもピカーツ、ピカーツと乳白色に信号ブターで送り迎えすることがあるとのことです。しかし、その時の飛行状態ははつきりとヘリコブターであることが判明しました。いずれも日昼の出来事でした。それから判断すると、やはり円盤らしいと言える可能性が大であると思います。

ちょうどその日、仙台支部の石田義雄氏が遠路はるばる旭川に見えられていたので激励を兼ねての訪問だったのでしようか。このことで私日本GAPがスペースラザーズの注目をあびてゐるらしいことがうかがわれます。

尚、UFO目撲時間帯は午後四時頃で飛行時間は五分前後の間に一度です。大きさは見かけ上直径十センチ位です。方向はおおよそ西から東にかけてだと思います。

尚、UFO目撲時間帯は午後四時頃で飛行時間は五分前後の間に一度です。大きさは見かけ上直径十センチ位です。方向はおおよそ西から東にかけてだと思います。

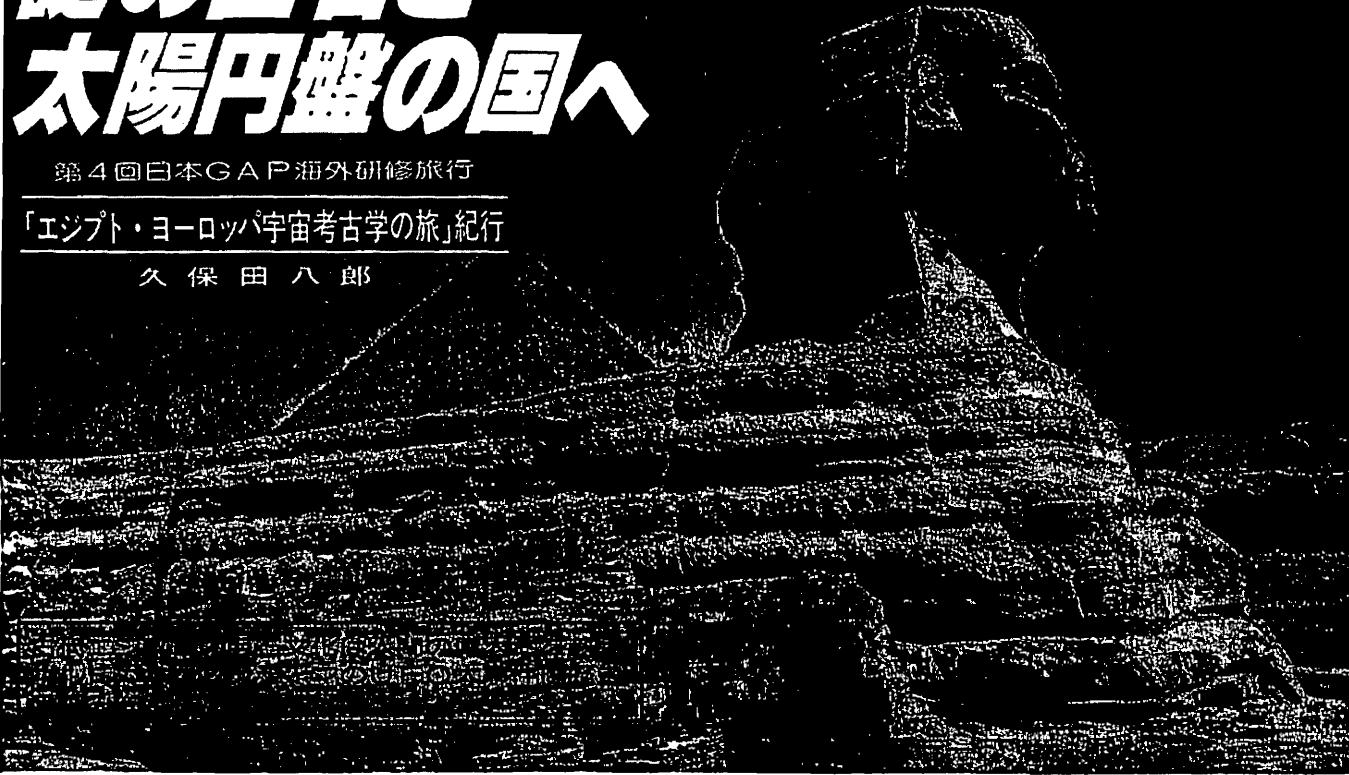
☆ ☆ ☆

# 謎の巨石と 太陽円盤の国へ

第4回日本GAP海外研修旅行

「エジプト・ヨーロッパ宇宙考古学の旅」紀行

久保田八郎



日本GAPは第四回目の海外研修旅行として既に満ちた古代エジプトの壮大な巨石文化と、神秘的なボルトガル・ファティマの大事件跡の視察を主体にしたヨーロッパ六カ国をまわる大旅行を実施。去る八月十五日に船員二十四名で成田空港を出発し、大成功裡に二十九日全員無事帰国した。ご支援を頂いた全会員の方々に衷心よりお礼を申し上げる次第である。

以下はその紀行だが、繁雑を避けてエジプトとファティマをおもに懐しかった旅の日々を回想してみたい。

## 不思議なGAPの旅行

一年前より提携旅行社会社の田中正氏と十数回にわたる打合せを経て練つた企画がついに実現。八月十五日午後、六時十八分にアリタリア航空のジャンボ機七八九便で離陸した。当初応募人員が少ないために実施が危ぶまれたが、旅行団がカイロ市内を歩いている光景を五月中旬に透視したというテレバシストの田中さんの予言が見事に達中して一行は勇躍壮途についたのである（参加者氏名は左頁写真説明を参照）。

私自身の海外旅行はこれで計九回目、私が企画した海外団体旅行は通算六回目になるのだが、いつも全く支障なしに成功するので不安感はかけらもない。「危険をのがれる特殊な運命を持つ私」が随行する旅は本当に危険な状態が発生しないのだ。「久保田先生が同行されるGAPの旅行ほど不思議なものはありません。

## 親日的なエジプト人

機は途中、香港、バンコック、ニューデリーに各一時間ずつ立ち寄って、現地時間で朝の八時十五分にギリシアのアテネ空港に着いた。出発以来ちょうど二十時間目で、長い夜だった。乗り継ぎの便がわるく、この空港内で約八時間待機し

私は過去數十回団体旅行の世話をしましたが、大抵はとにかくトラブルが発生するのに、GAPの旅行だけは何の支障もないにスムーズにいくのですからねえ。これは全く不思議ですよ」と添乗員として案内された田中さんも旅行中に語つておられた。これは私の「特殊な運命」というよりもむしろ参加者全員の抜群の協力ぶりがものをいつているのだろう。いつも集合時間に十分と遅れる人はいないし、荷物の集積なども整然としており、わがまま勝手なことを言つて添乗員や団長をてこづらせたりする人は皆無だから、毎回現地在住の日本人ガイドさん方から「こんな立派な旅行団は見たことがない」と称賛の的になる。宇宙哲学は実践してこそ生きてくるのだ。これまでのGAP旅行に参加された方々の名前のために、このことを特筆大書しておきたい。そして毎回添乗員として世話をされる田中さんの奉仕的なご尽力にも衷心より感謝したい。普通の添乗員は事務的に飼いて夕食頃から姿を消すものだが、田中さんは毎日一同が就寝するまで面倒を見る人で、今回も並々ならぬご配慮を頂いた。この点でも私たちはずいぶん恵まれている。

たが、不平を音う人は一人もいない。

四時三十五分にT.W.八四〇便で出発し、

飛行時間一時間三十三分後にカイロ空港に到着。ただちにバスでカイロ郊外のギザに近いホテルを目指して出発する。エジプトへは五年前に来たことがあるので初回ほどの感動は起こらないが、五十年の歴史を秘めたこの国の原始的な風景からかし出されるエキゾティシズム（異国情緒）にはこたえられない。

途中、サダト大統領が暗殺された現場を見る。スタジアムのような観覧席がある中央のまん前に座っていた大統領が倒れたという位置をのぞき込む。広い道路をへだてて真向かいにピラミッドを見る。

ジブトへは五年前に来たことがあるので初回ほどの感動は起こらないが、五十年の歴史を秘めたこの国の原始的な風景からかし出されるエキゾティシズム（異国情緒）にはこたえられない。

▲成田空港に集結したG.A.P旅行団。前列左より高野マチ子（秋田県）、

野島隆子（高知市）、大橋博子（北海道）、細谷富美子（大阪）、原美佐子（新潟市）、原永庫（東京）、森森孝雄（京都）、南部理佳（金沢市）、田中正（添乗員・神奈川県）、久保田八郎（団長・東京）。

後列左より吉瀬康美（大阪）、津野田俊行（熊本市）、荻原昭彦（神奈川県）

高橋美保子（青森県）、鈴木芳美（静岡県）、高平圭子（和歌山県）、日山良一（新潟県）、安藤選雄（宮城県）、渡辺康英（横浜市）、中山正紀（横浜市）

南部外茂治（金沢市）、能登春美（富山県）、品野友一（埼玉県）。

ド型の大きな記念碑があり、その前には大統領の遺体を収めた石棺が安置されて、統を持った数名の兵隊が警戒している。

夜九時十五分にホテル「ホリディ・イン・ピラミッド」に着いた。まだ外は明るい。ふと見ると雄大なピラミッドが眼前にそびえているではないか。「また来たのだ！」と心がときめく。

到着が遅くなつたために、この日の合

同夕食会は中止して、各自で食事をしませ、そのあとホテル内のバーへ数名で入

ると、一人の日本人が元気よく話しかけてビールをすすめる。話を聞くと、この

人は五年前に団体でカイロへ来たとき、夕食会を開いた日本料理店「岡本」の経営者、岡本氏だった。愉快な人々で、エジプトに関する有益な情報を提供してくれたが、特にエジプト人の対

日感情に関する話は興味深かつた。

氏によると、太平洋戦争の発端（昭和十六年十二月十日）日本海軍航空隊がイギリス海軍の不沈戦艦といわれたプリンス・オヴ・ウェールズやレバルスを沈めたときはカイロで大騒ぎになつて、エジ

プト人たちは日本軍の勝利を祝つて提燈行列をやつたという。これはイギリスの圧政に苦しめられた歴史を持つエジプトが酒飲をさげたからだ。戦争をやるからには勝たねばだめだという簡単な法則が意外にも遠い外国で生きている。

以来エジプト人は日本人を英雄として慕敬し、親日になつた。現在もエジプト人が最も好むのは日本人、ドイツ人、アメリカ人で、これらはエジプトに経済援助をしているからで、最も嫌つてゐる

のはソ連だという。かつてナセルの親政策当時、ソ連は狡猾な手段でエジプトから金塊その他の貴重な資源を持ち去つた。現政府はサダト路線を継いで自由世界の一員としてうまくやつてゐる。エジプト人は心から平和を愛する民族で、他人と争うことを好まない等々、岡本氏との会話をうんと聞いた。英語の達者な支配人はピラミッドの起源について語り合つたが、彼は「王の墳墓」説を支持してい

た。

## 謎の大ピラミッドへ

翌十七日は九時にバスでホテルを出発してギザのピラミッド見学に行く。五十分で三大ピラミッドのそばへ到着。ただちに左端の最大の建造物、クフ王の大ピラミッドの内部トンネルに入る。

紀元前三千年頃のナルメル王による第一王朝の成立以来悠久五千年的エジプトの歴史は大変複雑なのでここに詳述する余裕はないが、古王国時代、第四王朝のスネフェル王がダハシュユールに断面の型が二等辺三角形である真正ピラミッドを建造した。次にその息子のクフ王がギザに一辺の長さ三三〇メートル、完成時の高さ一四六メートルという途方もない大ピラミッドを建立し、これにならつて後繼者のカフラー王、メンカウラー王の二人

もピラミッドを並べて建造したといわれている。紀元前二七二三年から二五六三年までの百六十年間で、今を去る四千六百年昔だ。これがギザの三大ピラミッド

ド型の大きな記念碑があり、その前には大統領の遺体を収めた石棺が安置されて、統を持った数名の兵隊が警戒している。

政治的立場としてうまくやつてゐる。エジプト人は心から平和を愛する民族で、他人と争うことを好まない等々、岡本氏との会話をうんと聞いた。英語の達者な支配人はピラミッドの起源について語り合つたが、彼は「王の墳墓」説を支持してい

た。

である。クフ王のものが最大なので、これを大ピラミッドという。エジプトには八十数基のピラミッドが存在するのだが、この三つはとび抜けて大きい。建造の動機や理由は判然としないけれども、大体に王の墓という説が一般的である。王の権力を誇示するために巨大にしたのだというが、ここで素朴な疑問が生じる。いくらなんでも王の墳墓や権力の象徴にしては大きすぎるのだ。また現代科学の粋を集めた建築技術をもつても建造は困難だというこの大ピラミッドを、実際には、いつ頃、だれが、どのような方法で作ったかは全くの謎である。建設法に関しては古来無数の書物が出現



▲大スフィンクスの前で。右はクフ、左はカフラーのピラミッド。

したけれども、いざれも憶測の域を出ない。それらの図書や資料の内容をいま紹介するのも煩瑣になるので省略しよう。

しかしこれについては本身掲載の記事「宇宙と愛について(3)」に述べられているので参照されたい。

私たちのガイドはエジプト人のシェハブ・ファリス氏。まだ二十三歳という若さで、名門カイロ大学で二年間日本語を勉強しただけというが、日本語はおそらく遙者で、多少の訛りはあるものの文法の誤りは全くない。大阪外大から来た三人の日本人教授から学んだという。ファリス氏もさることながら教えた先生方もよほど優秀だったのだろう。

東京へ遊びに来たことのあるファリス氏は大の親日家で、将来は日本人女性をお嫁さんにするのだと言っていた。色白の白人系の好青年である。

エジプトは七世紀なかばにアラブ人が侵略し、ビザンチン帝国にかわって支配権を握つて以来アラブ人を主体とする各種民族の複合体となつたが、紀元前最後の王朝たるブトレマイオス朝の興亡に関する記述でギリシア人やローマ人が入植したために現在も白系エジプト人がかなりいる。しかし言語はアラビア語を用いている。

### ロマンティシズムの極致

大ピラミッドの大井の低いトンネルは西暦八一二年から四三年まで在位したアラブ人カリフのアル・マムーンが盗掘用に掘つたもので、その後、正規の入口が

上方に発見されたけれども見学者用の入口としては今もこの盗掘用トンネルが用いられている。五年前ここへ入ったときは前夜一睡もしなかつたためにえらい目にあったが、今日は体調がよいので、四つん這いになりながら元気よく登つて行く。

やがて正規の大回廊に出で更に登ると王の玄室といわれる部屋にたどり着く。内部はむし暑くて汗が流るように流れる。奥の方に花崗岩製の石棺といわれるものがあるが、中はからっぽだ。むかしアル・マムーンがここで遺体を発見したという伝説があるけれども確証はない。

この玄室では奇妙な事実に気付く。エジプトのあらゆる地下墳墓の壁に彫り込まれているヒエログリフ（象形文字）や壁画類が一切見当たらないのだ。これについても種々の説があるが、その内容も省く。とにかく玄室というにはあまりに殺風景である。

ピラミッドの外へ出てからスフィンクス神殿へ行き、クフ王の遺体が入つていたという四角い穴を見たあと、大スフィンクスと二つのピラミッドをバックに全員で記念撮影をする。午前中なので日差しあはほど暑くはない。

十一時にバスでカイロ市内のエジプト考古学博物館へむかつて出発。この頃からピラミッドへ各国の見学者がどつと押し寄せて来た。

世界有数の大博物館に着いて中へ入る大ピラミッドの大井の低いトンネルは西暦八一二年から四三年まで在位したアラブ人カリフのアル・マムーンが盗掘用に掘つたもので、その後、正規の入口が



▲カイロ博物館蔵のツタンカーメン王の玉座（椅子）の背もたれに描かれた絵を現代のエジプト人が、パビルスに模写したもの。王妃が香油を塗っている。

時代のメンカウラー王と二女神像、ジェセル王座像、カフラー王座像、書記像、

ラー＝テバとネフェルト夫妻の座像、その他溜め息の出るような世界の至宝ともいふべきおびただしい出土品をざつと見

学してから、圧巻である二階のツタンカーメン王の大秘宝室へ入つた。

五年前にここへ来たときは驚異と感動で打ち震えたが、今回も変わらない。前回見落とした物を今度は徹底的に見よう

右奥には十五~六歳だったと思われる

大な扇子、金と宝石の優美な装身具、王

が身につけていた下着など約三千四百年

前の豪華な副葬品が山のように展示してある。

王妃が最後に棺の上に供えたという矢車草の花束がガラスケースに収めてある。

右奥には十五~六歳だったと思われる

王妃が最後に棺の上に供えたという矢車草の花束がガラスケースに収めてある。

かなり黒ずんでいるけれども、數千年前のものとは思えないほどに形がよく保たれている。千七百点に及ぶ王の出土品のなかでこの花束が最高に価値のあるもの

だと大槻博子さん（北海道）に話す。こ

れこそ地上世界における男女の絆の象徴であり、ロマンティシズムの極致である

う。その花束が三千四百年後まで見事に残つてその幹を我々の目に示したからだ。

十八歳の王にしてこれほどに贅をつくしたのだから、他の有名な王になると死亡時の副葬品は想像を絶したものであつたろうが、ほとんど盗掘されてしまい、完全に出土したのはツタンカーメン王のものだけである。この部屋だけでも一ヶ月三日かけて見学しないと頭に残らないだろう。わずか三十分やそこらではどうしようもない。後髪を引かれる思いで出て行つた。余裕があれば単身でも一度エジプトを訪ねたい。そしてあの矢車草をいつまでも凝視したい。

### 横暴なラムセス二世

カイロ市内の日本料理店「岡本」で昼食をとつて四時すぎ、メネス王によつて造営された古代の都メンフィスの廢墟へ行き、あお向けに倒れたラムセス二世。（第十九王朝の王。三千三百年前）の巨大な像を見る。建物で覆われた石灰岩の十八トンもある像は地震でひっくり返つたという。この王はきわめて自己顕示欲の強い人物で、暴君だったらしい。エジプト中あちこちに自分の像を建立している。モーゼがイスラエル人の大部分を連れてエジプトから脱出を敢行したのはこの王の治世下といわれている（本誌前号の映画「十戒」解説参照）。

九時半にバスで出て十分後にサッカラへ着いた。ここは古王国第三王朝時代建立のジェセル王の階段状ピラミッドで有名な場所だ。大臣のイムヘテブが設計し

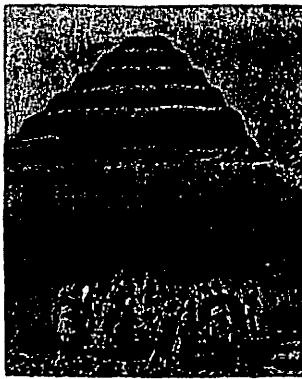
たもので、四十七七年前の遺跡である。

この階段状ピラミッドがギザの三大ピラミッド建設技術の基礎になつたというが、どう見てもそうは思えない。両者は全く異質な物だと五年前にもここで感じたのだが、今回も同じフィーリングがわき起ころ。

この付近にはマスター場群があり、ピラミッドの北側の丘へ上ると遠く北方にギザのピラミッド群が広大な砂漠の彼方に夢のように浮き上がつてゐる。素晴らしい光景だ。

この夜ホテルで最初の全員合同夕食会を開催した。

▲サンカラの階段状ピラミッド。  
野島哲浩氏（高知市）撮影。



豪壮なカルナック神殿と  
ルクソール神殿

翌十八日は早朝五時すぎに起床し、七時二十分にカイロ空港を離陸、八時五十分に砂漠の中の小さなルクソール空港に着いた。ここはナイル河畔の新王国時代の大都市テーベが繁栄した所で、東岸に

ルクソール神殿が建立している。

八時五十分にエタップホテルへ入つて休憩。広い立派なロビーで座つてゐるうちに、五年前にもこのホテルで休憩したこと思い出した。前回と違つて今夜はここで一泊するので気は楽だ。

九時三十分にホテルを出て、まずカルナック神殿へ行く。途中の風景は五年前と少しも変わらない。ガラベイヤといふエジプトの民族衣装を身にまとつた貧しいエジプト人たちが往来し、ロバに乗つて兩足を振りながら通行する男や、頭上に物を乗せて歩く女など、原始的な風景が展開する。

五年前は午後の猛烈な暑さにへばつたので、今度は涼しい午前中を選んだのだが、これはよかつた。神殿のおびただしいスフィンクスに迎えられて第一塔門を通り、第一中庭へ入つてから気温を計つてみるとセ氏三十四度。たいしたことない。日中の温度差が三十度にも達するこの地方では午後になると四十度を超えるのだ。

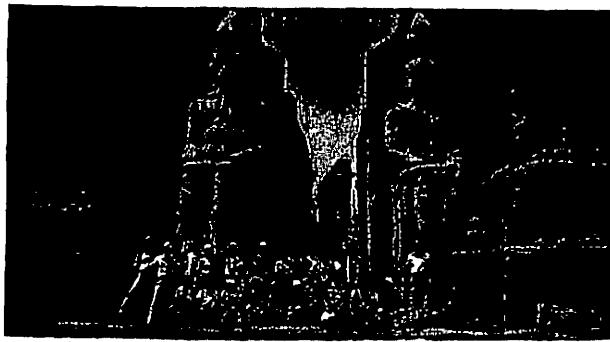
第二塔門入口の所で全員の写真を撮る。入口の両側にはまたもバネジュームと呼ばれるラムセス二世の巨像と、別なラムセス二世の巨像が向かい合つてゐる。更に奥へ入つて大列柱の間を通り、トトメス一世のオベリスクやその娘で男まさりのハトシエースト女王の高さ三十メートルに達するオベリスクなどを仰ぎ見る。

このカルナック神殿は中王国時代の第十二王朝以降、アメン神崇拜の神殿がここで造営されるようになり、以来グレコ・ローマン時代に至る二千年間歴代の王

が建築を寄進してふくれ上がつた複合体である。十数トンもある巨石をどうして積み上げたのかと首をひねりたくなる大

列柱のあいだを通過すると、圧倒され残されており、これが現実なのかと眼を瞬きながら歩く。まるで白昼夢だ。

十一時にバスで三キロ離れた南方のルクソール神殿へ行く。これはカルナックの付属神殿として建立されたもので、前回はあまりに暑いのでここへは寄らなか



▲ルクソール神殿のラムセス二世の巨像の前で。





▲ハトシェプスト女王葬祭殿

がつて来る。腹が出てるので金持ちに見えるらしい。彼らが売る石灰板の浮彫を見ると、五年前よりも技術は進歩している。十ドルというのを値切って五ドルで一枚買った。市内の土産物店で買うよりは安いだろう。

一点の雲もない快晴下の砂漠地帯をバスは疾走する。爽快な日だ。

まずアメノフィス三世のメチャヤメチャに破壊された二対の座像を見てから、次にデル・エル・バハリ地区のハトシェプスト女王葬祭殿へ行く。ボーランド調査による復元作業は五年前よりもかなり進行して美しく整備されている。

第十八王朝の女王の寵臣ゼンムウトが設計したこの神殿は古代エジプト建築の最高傑作といわれるもので、巨大な岩山

に燃えている。壁にはオシリス夫のトトメス一世とのあいだに子供ができなかつたので、妾膜の子を跡継ぎにしてトトメス三世とし、みずから攝政として全エジプトに采配を握る、交易に力を尽くした偉大なこの女王を、成長した三世はひどく憎悪して彼女の名をすべて抹殺しようとした。葬祭殿内の壁に描かれた女王の絵の首の部分は跡形もなく削られている。こうした人間関係は二千五百年前も今も変わらないようだ。

ちなみにファリス氏はハトシェプストをハチエブセットと発音していた。

### 壮大な王家の谷へ

そのあと王家の谷へ行く。五年前の土の道路はアスファルトで舗装されて快適だ。案外に日本の経済援助で開発されているのではないかと考えるうちにツタンカーメン王の地下墳墓に到着する。見ると各國の見物人でごった返しており、入口でしばらく待たされる。五年前はカメラも自由に持ち込めたのに、今は警備が厳重になつて入口でカメラを預ければならない。まだ午前中だから外気温度はさほど高くなはない。

預けたカメラが気になつてしまふがな

いけれども、とにかく中へ入つた。

一九二二年、イギリス人のハワード・

カーターが劇的な発見をして一躍有名になつたこの墳墓の千七百点の副葬品のほとんどすべてはカイロの国立博物館へ送られ、玄室には石棺の中の黄金の人型棺

をバックに四角の列柱が朝の陽光をあびて燐然と輝いている。

夫のトトメス一世とのあいだに子供ができなかつたので、妾膜の子を跡継ぎにしてトトメス三世とし、みずから攝政として全エジプトに采配を握る、交易に力を尽くした偉大なこの女王を、成長した三世はひどく憎悪して彼女の名をすべて抹殺しようとした。葬祭殿内の壁に描かれた女王の絵の首の部分は跡形もなく削られている。こうした人間関係は二千五百年前も今も変わらないようだ。

ちなみにファリス氏はハトシェプストをハチエブセットと発音していた。

### 壮大な王家の谷へ

そのあと王家の谷へ行く。五年前の土の道路はアスファルトで舗装されて快適だ。案外に日本の経済援助で開発されているのではないかと考えるうちにツタンカーメン王の地下墳墓に到着する。見ると各國の見物人でごった返しており、入口でしばらく待たされる。五年前はカメラも自由に持ち込めたのに、今は警備が厳重になつて入口でカメラを預ければならない。まだ午前中だから外気温度はさほど高くなはない。

預けたカメラが気になつてしまふがな

いけれども、とにかく中へ入つた。

一九二二年、イギリス人のハワード・

カーターが劇的な発見をして一躍有名になつたこの墳墓の千七百点の副葬品のほとんどすべてはカイロの国立博物館へ送られ、玄室には石棺の中の黄金の人型棺

だけが残されて、この中には王のミイラが今も安置されている。壁にはオシリス神の形をしたツタンカーメン王に後繼者のアイ王が口を開けの儀式をしている場面と、左方には王が天の女主人のスウト女神に迎えられて、再生のためにオシリス神と抱擁している場面が描かれている。

この壁画は古代エジプト美術関係の図書に必ず出てくる有名な絵画だ。

私は今それをまたも目撃した。三千四百年前にこれを描いた宮廷画家、最後に棺上に矢車草を置いた若き王妃などの体

が空間にえがいた軌跡と私のそれほどこかで交錯しているにちがいない。憂愁に満ちた王妃がいまにも棺のかげから出て来そうな気がする。そして空想よりも時空を超えた過去透視能力への欲求が油然と湧き起ころう。

外へ出ると暑い。カメラが無事に返ってきたことを喜びながら、続いて隣のラムセス六世の地下王墓に入る。これは第二十王朝王墓の典型的なもので、通路から玄室までが一直線並ぶ奥深い墳墓である。もとはラムセス五世が造営を始めたけれども、その後繼者であるラムセス六世に横取りされてしまった。どうもラムセスを名乗る王にロクなのがいらないらしい。壁面や柱には象形文字がぎっしりと彫られて壯觀だ。

### 古代エジプト人と現代人の死後観

古代エジプト人と現代人の

ここを出てから近くのセティ一世の墳墓へ入る。五年前にはくたびれてここへ入らなかつた私に遠藤昭則君（千葉県）

が、「羽毛あるヘビの壁画を見ました」と語っていたので、今度は見ようと思つて入つてみたら、あつた！

奥に向かう壁の右面に大蛇と羽が見事に彫られている。メキシコの古代マヤのケツアルコアトルとは少々違うけれども、とにかく大きなヘビに羽が生えているのだ。意味不明だが、これで拾い物をした

ような感じがする。

王家の谷は死んだ歴代の王を埋葬する場所で、副葬品の盗掘を恐れて地下の岩窟墳墓の形式にされた。現在までに五十基の王墓が発見されている。いずれも遺体はミイラにされ、豪華な日用品が添えられた。ミイラは靈魂が宿つてあの世で生活ができるようにとの配慮にもとづいている。この思想を嗤うわけにはゆかない。現代でもこれに似た葬儀が結構行われているのだ。現代の人間の死後観も三千数百年前のエジプト人と大差はない。

帰途アラバスター（一種の大理石）の加工工場へ寄り、十二時にホテルへ帰つた。

四時五十五分発の飛行機に乗り、約一時間後にカイロ空港へ着いたが、上空から見るエジプトは茶褐色の大沙漠の連続だ。国土の九十パーセントは沙漠だといふ。

### 美しい西ドイツの風景

翌二十一日はエジプトを離れて西ドイツへ向かう日だ。早朝五時にバスでホテルを出て七時五十三分に離陸。疲労のため機内でよく眠つたが、このとき飛行機

がまう逆様に墜落する夢を見た。我々の飛行機ではないらしい。

十一時四十五分に巨大なフランクフルト空港へ着陸。一時すぎにバスで空港を出る。七年前に出版界の圖書見本市視察旅行で来て、西ドイツの合理主義と科学精神の植化ともいべき完璧な都市作りや田園作りに驚嘆した私は、まずフランクフルトの都市を皆さんに見せたかったが、コースの都合によりバスはいきなり郊外の田園地帯へ入り、アウトバーン（高速道路）を走るので、皆さんにはピンとこないだろうと気をもみながら風景を眺める。

運転手に尋ねると、このアウトバーンは昔第二次大戦前にヒットラーが建設した道路で、いまは片側四車線になつてゐるけれども、中央寄り二車線は昔のままだという。

母り空のため天候は憂うつだが、田園風景は素晴らしい。我々日本人が欧米の風景を見て美しいと感じるのは、実は自然の景色ではなく、まるでスタイルの異なる“美しい家屋”が存在するがゆえに美しいと感じるのであるというのが私の持論だが、これは間違いないようだ。自然界自体なら日本もひけをとらないのだが、如何せん家屋のスタイルにまるきり品がないのだ。これは決して皮肉ではなく事実そのものである。赤い屋根に淡い色の壁の重厚なドイツの家屋は、どの一軒でも日本へ持って来れば超高級な文化住宅と映るだろう。内部の様子は私にもわかつている。日本人は逆立ちしても及ばないほど合理的近代的でできているの

だ。このメンタリティー（ものの考え方）の相違を思うと、世界のいざこも人間は皆同じとは考えられない。

また、ドイツのいかなる民家といえども屋外に洗濯物を干している家は皆無である。乾燥機の普及度はよくわからぬが、大体に白人は「他人の目につく所へ下着などをララさげたりするものではない」という観念に徹しているらしい。だから日光の強いアメリカ西部でも屋外に洗濯物をつり下げている家は全くない。洗濯物を平氣で屋外へ干したがる民族ほど劣等民族なのだという私のもう一つの持論も誤ってはいないだろう。

### GAPを知つていた婦人たち

私はハイデルベルクの駅前で休憩した。すると一人のドイツ人の少年が接近しながら「あなた方は日本人ですか？」珍しいですね」と日本人そつくりの發音で話しかけてきた。聞くと日本に十三年いたという。外國語の習得はアタマではなくて“慣れ”なのだとということを痛感した一幕だった。

やがてハイデルベルクの町へ入り、由緒あるハイデルベルク大学を見学する。十四世紀に創立されたドイツ最古のこの大学は学生数一万五千人。昔はビールと歌と恋の渦巻く若者の町だったというが、今もその雰囲気をとどめているらしい。

大学構内の学生監獄に入る。壁と天井が落書きだらけの古い部屋は私にはあまり関心がない。“稚氣”を感じさせるからだ。

次にハイデルベルク城へ行く。ここも七年前に来た。十三世紀中葉に神聖ローマ帝国のライン選帝侯の居城だったが、十七世紀にフランス軍に破壊されて以来廃墟と化した。地下には二十二万リットル入る巨大なワインの酒樽があり、ここで二マルク（約二百円）出すとワインを一杯くれる。これは今もやつていて。このグラスは各自記念に持ち帰るのである。

小雨がバラつかなかを中庭で大急ぎで全員の記念写真を撮り終えると、山中正紀君（横浜市）がそばへ来て言う。「あそこにある白人の婦人たちが私たちの胸につけている金星のシンボルマークを見て、「GAP、GAP」と言つていますよ！」

見ると、たしかに白人の老婦人數名がカメラをたんんでいる私の方を不思議そうな顔をして見ている。おそらくむかし珍しいですね」と日本人そつくりの發音で話しかけてきた。聞くと日本に十三年いたという。外國語の習得はアタマではなくて“慣れ”なのだとことを痛感した一幕だった。

ちなみに十五日間の旅行で雨にたたられたのはフランクフルトの夕方とハイデルベルクだけで、あとは快晴が多かつた。

六時頃ホテルへチェックインして、七時に全員でハイデルベルクの町へ夕食と散歩に出る。外気は冷えて寒い。北緯五十度あたりのフランクフルトやハイデルベルクは日本でいえば北海道を通り越し湘太の中心部に相当するから、八月下旬ともなれば寒気が強くなるのだ。真

冬のきびしさが思いやられる。

ハイデルベルクで最も有名なレストラン「ローター・オクゼン」に入る。この店は一六〇〇年代から続く名門店で、学生の溜り場となつており、今でもビールを飲んでは放歌高吟するという。安いド

イツ料理とビールを飲みながら店内を見まわすに、いい年をしたドイツ人のオッサン連がピアノの演奏にあわせて民謡か校歌みたいなものを大声で齊唱している。驕然として話もできない。わがグループ以外に日本人もいるようだが、みなおとなしい、というよりも雰囲気に圧倒されているようだ。

あまり上手ではない老人のピアニストにリクエストしてみた。往年のドイツ映画「会議は踊る」の主題歌「ただ一度の賜物」を演奏してくれと、とつときのドイツ語で頼むと老人は気軽に弾き始めた。

しかしドイツ人たちはだれも歌わない。ナチス以前の大昔の映画で可憐なりアーチャーのことを説明したかたが、なにせ雨は降るし急いでいたので、そのまま立ち去った。

ちなみにハイデルベルクの町へ入り、由緒あるハイデルベルク大学を見学する。十四世紀に創立されたドイツ最古のこの大学は学生数一万五千人。昔はビールと歌と恋の渦巻く若者の町だったというが、今もその雰囲気をとどめているらしい。

大学構内の学生監獄に入る。壁と天井が落書きだらけの古い部屋は私にはあまり関心がない。“稚氣”を感じさせるからだ。

### 愉快なライン川下り

二十一日は前夜とは打つて変わつて快晴となるも気温は低くてセ氏十九度。上衣を着ていればちょうどよい。

またもアウトバーンをバスで飛ばしてフランクフルトの中心部にある「市場広場」へ着いたのが十時五十分。この一角で聖ニコライ教会をバックに全員記念写

の中にゲルマニア大記念塔とかラインシュタイン城、ライビエンシュタイン城、ヴェルナー教会などの古城や旧跡が望見できる。七年前にもこれを経験したのだが、あのときは快晴で、気分は最高だった。今日はとにかく風が寒い。こんな場合は熟爛の酒をグイ飲みするに限るのだが（これを内式暖房という）、異國の川の上ではそうもゆかぬ。すると仲間の野島氏（高知市）が船内でワインを買ってきて飲ませて下さったが、これはうまかった。沸かして飲めばもっとよかつた。

名高いローレライの岩の下の河畔に横文字と並んで日本文字のかたかなで「ローレライ」という大標識がつけてある。



▲ライン川下りの船上でドイツ人家族と共に

真撮影したあと自由に散策する。ライン川の支流マイン川にかかるアイゼルナ橋の上では学生たちが市を開いて日用品を売っている。女子学生に英語で聞いてみると、毎週土曜日にやるのだという。日本人なら見向きもしないような安物を並べており、大変な人出だ。

十二時にバスで出発し、美しいヴィースハイムの町に着き、ここで昼食後、遊覧船に乗つてライン川下りを始めた。各

国の観光客が乗つた大型船の船尾へ出る

と風がめっぽう冷たくて寒いので、白タオルで首を覆う。両岸の風景は素晴らしいが、曇天のが残念。広漠たるブドー畑



▲フランクフルトの市場広場にて

の中にゲルマニア大記念塔とかラインシュタイン城、ライビエンシュタイン城、ヴェルナー教会などの古城や旧跡が望見できる。七年前にもこれを経験したのだが、あのときは快晴で、気分は最高だった。今日はとにかく風が寒い。こんな場合は熟爛の酒をグイ飲みするに限るのだが（これを内式暖房という）、異國の川の上ではそうもゆかぬ。すると仲間の野島氏（高知市）が船内でワインを買ってきて飲ませて下さったが、これはうまかった。沸かして飲めばもっとよかつた。

名高いローレライの岩の下の河畔に横文字と並んで日本文字のかたかなで「ローレライ」という大標識がつけてある。

かたわらのテーブルに中年のアメリカ人女性がいて手紙を書いている。見ると、横書きするべき横文字を縦に書いているではないか。つまり我々が縦書きにする日本文字を横倒しにして横書きするのと同じ理屈で、一種のジャグル（見世物的な特殊才能）なのだ。だから人の目につきやすいレストランでやっているのだろう。

このあと大きなディスコへ入つた。大劇場のような広い店内にはロックバンドの轟音が鳴り響き、多数の老若男女のドイツ人が踊り狂つている。食事も飲物も出るのでビールを少し飲んでから正面ステージ下の溜り場で原美佐子さん（新潟市）と踊る。群衆にもまれるので正規の社交ダンスのステップは踏めない。見る

と元気の原永輝君（東京）も高橋美保子

さんとえらく活発な踊りをやつしている。

失業者が二百万いる国とのに然狂と喧嘩の始発――。

二階の自席に引き揚げて休憩している

と、調子のよいリズムの曲が流れ始めて、

数組の若いドイツ人男女が激しく踊り始

めた。ビールの酔いで思い出せない曲だつたが、高野マチ子さんと踊つてゐるうちに思い出した。なんとタイケ作曲の、

「旧友」ではないか。世界の行進曲のト

ップをゆくこの名曲はナチスのイメージ

と結びつくのかと思っていたが、そうでもないらしい。依然としてドイツ人に愛

好されているようだ。自國の行進曲で興奮して踊るとはいかにもドイツ人らしい。

この頃から自分がいかに「目」や「耳」

や「舌」の感覚器官に振り回されて旅し

ているかを痛感するようになつた。しか

かも疲れるので宇宙瞑想から速きかり、夜

は丸太のように眠るだけ。マインドと意

識との一体化を図つて内部の印象を感知

始めた。ビールの酔いで思い出せない曲だつたが、高野マチ子さんと踊つてゐるうちに思い出した。なんとタイケ作曲の、

「旧友」ではないか。世界の行進曲のト

ップをゆくこの名曲はナチスのイメージ

と結びつくのかと思っていたが、そうでもないらしい。依然としてドイツ人に愛

好されているようだ。自國の行進曲で興奮して踊るとはいかにもドイツ人らしい。

この頃から自分がいかに「目」や「耳」

や「舌」の感覚器官に振り回されて旅し

ているかを痛感するようになつた。しか

かも疲れるので宇宙瞑想から速きかり、夜

は丸太のように眠るだけ。マインドと意

識との一体化を図つて内部の印象を感知



▲フランクフルトのディスコにて。左より筆者、高野マチ子、大橋博子、高橋美保子の諸氏。  
渡辺康英氏（横浜市）撮影。

する宇宙哲学の実践の困難さがよくわかる。

だが、ときには空中からだれかに見られて、いるようだ。

二十一日の午後一時十五分にフランク

食堂で全員正装して夕食会を開催した。ボルトガル人の若いウエーテレスたちが珍しそうに我々を見ている。同じ海外旅行でも日本人がめったに訪れない土地へ行くところに妙味があるのだ。

三人の牧童の家

翌十三日は朝八時三十分にホテルを出て、すぐ隣にある大聖堂へ見学に出かける。霧がたちこめて寒い。気温は七度十五度という低温で、上衣を着用する。聖堂は巨大な建物で、内部へ入ると正面のベンチの前方、祭壇の両側にフランシスコとジ・ヤシンタの遺体を収めた墓がしつらえている。

大聖堂前広場の左方には三人の子供が

大型堂を離れてから次にアル・ジュヌ  
トレルという土地の三人の牧童の生家を見学する。この地名はファティマ村の大字みたいなものらしい。

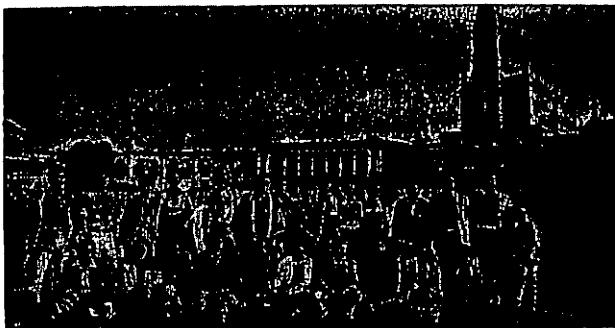
リックの坊さんが書いた伝記では、両方の家の隣同士となつてゐるが、現地へ行ってみると二百メートル以上は離れている。とかく聖職者の書く本は極端に美化した非実証的な内容のものが多いので注意を要する。しかもルシアをルチア、ジヤシンタをジンタ、コーヴァ・ダ・イリアをコーワ・ダ・イリア、と書いたりしている。日本で出ているファティマの予言に関する本にもこのような書き方がしてある。おそらくカトリックの坊さんの本をまる移しにしたものだろう。

ルシアの生家にも粗末なベッドが残されていた。現在彼女は老齢なるもコインブラの修道院で健在だという。リスボン

壁に赤屋根が多いが格別そうではない。オリーブやブドーの畑が多く松の植林も多い。これは樹脂をとつてベンキの材料にするためだという。五時すぎに途中のレストランで休憩。さすがに日本人は来ないと見えて土地の人たちが物珍しそうに我々を見る。

こんな山奥かと思われるファティマの町へ着いたのは六時頃で、まだ日は明るい。まず大聖堂へ行く。一九一七年五月十三日の昼すぎ、ルシア・サントスとイ・トコのフランシスコ・マルト、その妹のジャシント・マルトの三人の子供が美女の幻を見るという劇的な大事件の発生したコーヴェ・ダ・イリアその地である。

昔の大牧草地は跡形もなく舗装されて  
大きな広場となり、大聖堂が夕日に輝き  
その前で群衆が礼拝式に参加している。  
今日は日曜だからミサが行われたのだろう。



#### ▲ファティマの大聖堂

ていた老婆が私の持つ大判カメラを見て  
たいしたカメラだという意味のことをつ  
ぶやき、ボルトガル人のガイドさんが日  
本製だと話していたのは記憶している。  
ボルトガル語はスペイン語に似ているの  
で、なんとなくわかるのだ。

ルールドのベルナディットの生家であつたボリの木車小屋みたいに大體に改装されるよりも、まだこの家のほうがオリジナルな様子を残していく興味深く參観できる。

次にルシアの生家へ行く。日本のカト

生家の裏側にまわると林に囲まれた広い空地があり、隣に井戸があつて、この生水を飲むと病気が治るというので、ボルトガル人のカトリック信者の婦人たちが水を容器につめて持ち帰る光景が見られる。

しかしこの空地には別な意味で危険がある。一九一七年五月十三日の最初の三ヶ月が始まる年の前年に、三人の子供たちに“天使”が三度出現して、「来年になつたら重大な出来事が発生するから

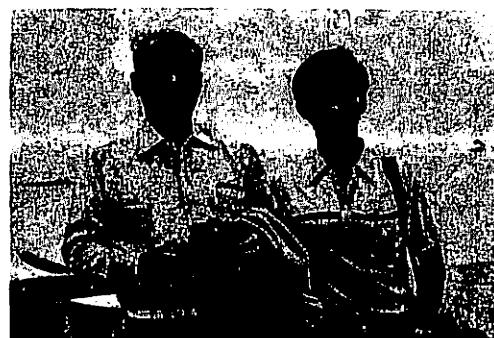
ここはその二度目の場所なのだ。つまり遠からぬヴァリニヨスという土地へ行つた。ここは八月十九日に第四回目のアーヴィング（幻）が出現した場所で、八月だけはコーヴァ・ダ・イリアでなく、この場所にコンタクトが移されたのだ。ヒイラギの林に囲まれた空地で、現地にはマリア像を収めたコンクリートの小さな礼拝堂が屹てである。

とかく見ると聞くとでは大違ひなのでファティマもルールドと同様に大宗教センター化しているのかと思ったが、そうでもないで安心した。ファティマの事件については拙著「七つの謎と奇跡」（主婦の友社刊）に詳細が出てるので参考されたい。本誌次号でも宇宙的見地から考察する予定。

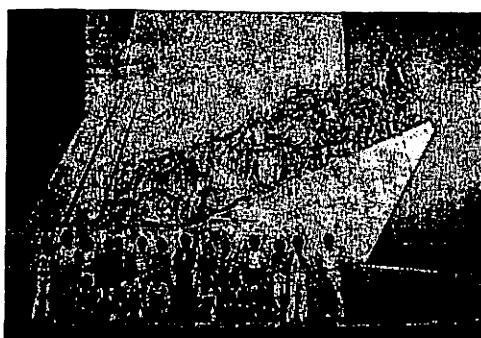
堂々たる大都市リスボン

ピイラギの林に囲まれた空地で、現場にはマリア像を収めたコンクリートの小さな礼拝堂が屹てある。

とかく見ると聞くとでは大違ひなので、ファティマもルールドと同様に大宗教センター化しているのかと思ったが、そうでもないの安心した。ファティマの事件については拙著「七つの謎と奇跡」（主婦の友社刊）に詳細が出てるので参考されたい。本誌次号でも宇宙的見地から考察する予定。



▲筆者と原永寧君。ナザレにて妹の美佐子さんが写す



▲「発見の記念碑」前にて

撮影写真の内、撮影者名を明記したもの以外はすべて筆者撮影。集合写真はセルフタイマー使用。

見学。翌二十六日は、パリへ飛び市内観光二十七日は午前十時すぎにローマ着、市内の史跡とサンピエトロ大寺院内を見て、夜ローマ泊。翌二十八日の昼すぎローマを出発して南回りで帰国の途につき、二十九日の三時すぎに無事成田空港に帰着した。

最初に述べたように今回も全くトラブルのない素晴らしい旅行だった。ご協力頂いた参加者の皆さんに重ねて厚くお礼を申し上げる次第である。

二度目はノブで沿岸沿いの高速道を南下して五時半にリスボンへ着く。まだ日が明るいのでテージョ河畔のエンリケ航海王子を記念した「発見の記念碑」をパックに全員の写真を撮る。次にジエロ・モス大修道院へ入つた。石灰石の大建築内部にはヴァスコ・ダ・ガマの遺体を收められた大きな棺がある。

二十四日は昼すぎまで自由行動なので各自リスボン市内を歩きまわる。そして五時五分にイベリア航空機で出発して隣国スペインのマドリードへ向かった。紙数が尽きたので以下簡単に書くと、夕方マドリードに着いてここに泊し、

る。楽しい感じというものは自分で創り出すものだ】

今回の旅行団が今までにないほどにおとなしくて、いさか枯槁気に欠ける感みがあつたので、バスの中でこれと似たような演説をやつたが、これは理解してもらえたと思う。つまり他人が楽しい雰囲気をつくってくれないから自分は面白くならないというのは間違いで、楽しさは自分から創り出すものであるという寸法。

そのあと市内の日抜き通りや種々の広場などを通つてホテル・フロリダへ着いたのは夕方の七時二十分だった。

## 付記

■ボルトガルは別としてどこの国へ行っても日本人観光客が驚くほど多い。海外を視察して国際感覚を高めるのは結構なことだが、失礼ながら見知らぬ同胞が貧弱に見えるのは性格のせいでもなく、粗雑なマナーと落ち着きのない態度のせいだろうか。それとも白人コンプレックスから抜け切れないのか。特に若い人がひ弱に見えて仕方がない。

■ローマのレストランで別な日本人観光グループが食事をしていたが、五一六十四の男二人は白い登山帽を脱ぎもせずに、口の音をペチャベチャさせて食っていた。すべての日本人がこんなに狂っているわけでもあるまいが、それにしても多くの優秀な製品を作り、世界中の白人に使用させている日本人が本当に抜群な民族になるには、もつと国際的なマナーを身につける必要がある。学校でマナーの正課を設けて教えればよいと思う。

一方、わがGAP旅行団の全メンバーは事前に配布された食事その他のマナーに関するテキストを熟読して実行しているから、まるで質が違う。

■ヨーロッパであらためて気づいたのは、どこの国でも白人女性や日本人以外の東洋人女性はストッキングをはかず、素足にクツ（主としてサンダル型）をはいているという事実である。聞くところによると、各都市の街娼がストッキングをはいてるので、それと区別をするためだという。一年中ストッキングをはく女性は日本人と黒人だけということだ。これ

は大変興味深い習慣である。

■日本人は学校で英語を学んだせいか外国ではやたら英語を使う。これは実習になつてよいだろうが、あれほど大勢の日本人がヨーロッパ各国へ押しかけるのだから、買物などで英語がうまくゆかねば、いつのこと堂々と日本語でやればよい。そうすれば先方も商売だから片言の日本語を覚えて応待するようになる。事実この傾向はヨーロッパの随所でみられた。

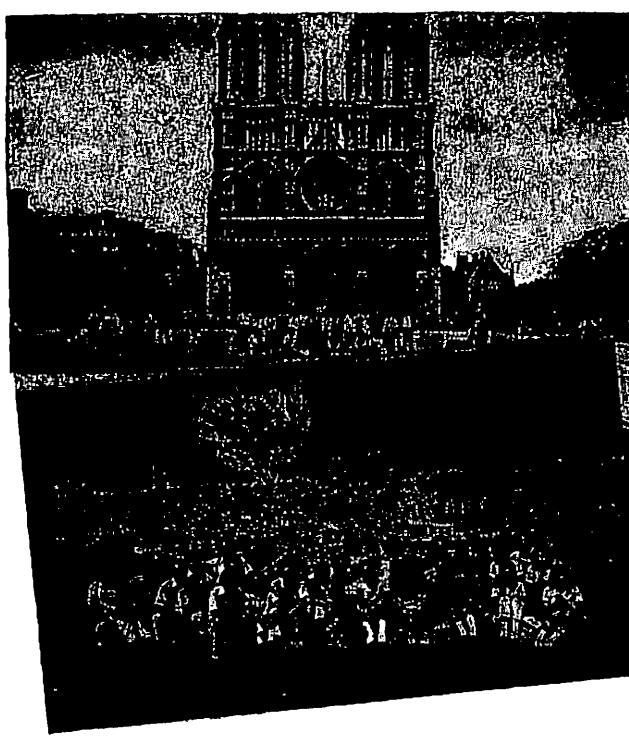
■今回の旅行でも全員記念写真撮影用に国産のホースマンVH-IRを携行した。重たいけれどもレンズが優秀でボディーもアオリ皿が多く、西ドイツのリンホフを負かすほどの万能機と考えているので、おおつびらに振りましたが、これは大いに国威発揚に役立った。ドイツ人さえもこのカメラを目を丸くしてのぞき込む。日本製だと説明するとまた驚く。ちなみにヨーロッパで白人の持つカメラは百パーセント日本製だった。三十七年前の敗戦後の悲惨な国状を回想すると想像を絶した現象としか言いようがない。

旅行中、私の重いカメラバッグを安藤君その他の方が助手としてついて下さつて大助かりした。大型三脚は渡辺君（横浜）が運搬した。おかげで立派な全員記念写真集が作製できた。あらためて厚くお礼を申し上げる次第（毎回の海外旅行で筆者は全員記念写真集を作製して参加者に頒布している）。

■日本にも比類のない長所はある。まず国内の治安の良さと高度な秩序。あらゆる事が迅速正確に行われており、でたらめさがない。しかしユーモアも乏しい

ので、ときとして息づまるような屈辱を感じるけれども、無秩序で危険におちいるよりはよい。東京は世界の大都市なかで最も安全な町である。そして良質な物資が豊富である等他にも長所はあるが、こうしたことでも海外を歩いてこそ実感できるし、それに気宇広大となる。まさに旅行こそ宇宙的なレッスンの場であろう。来年も別掲予告どおり第五回目の素晴らしい海外研修旅行を実施するので多数ご参加下されば幸いである。

▼上はパリ・ノートルダム寺院、下左はスペイン・トレドの町をバックに。  
下右はローマのサンピエトロ大寺院。



# 第十一回 エジプトとヨーロッパ宇宙考古学の旅に参加しました

〈到着順〉

## 憧れのエジプトへ

富山県 能登春美

樹碧の空の下、涼として沙漠にそびえるピラミッドを夢みて、ついにエジプトにまで行って来たのです。私の頭の中には憚れの遺跡や遺物のことしかなかつたので、カイロ市内の想像を絶するような車の列や人の群れやロバが行きかう雜踏にはびっくりしてしまいました。

車中より見る風景は何もかも汚れようがないほど汚れているとても貧しい国ですが、子供達がキャーキャーさわいで遊んでいる姿はとても幸福そう見えました。アラーの神のお蔭なのでしょうか。ルクソールでの光と音のショーの素敵なものナレーションが今でも耳もとにささやいてくるようです。あの時私はちょっとロマンチックになり、神秘なロマンに没つてしましました。

久保田先生はじめ田中様、GAP会員の皆様にはたいへんお世話になり、無事に帰宅できることを感謝申し上げます。

## 生涯の宝として

宮城県 安藤道雄

企画をなさり、ご尽力いただいた久保田会長や田中氏に改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。さて、今回の旅行で私が一番強い印象を感じたところはスペインでした。スペインの街並は見た瞬間からすべて好きになってしまったほどです。しかしそのスペインのなかで最も感動的だったのはそういう“物質”ではなく“音”でした。8月25日にマドリッドでフランメンコを見に行きましたが、それはテレビで見て想像していたものよりもはるかに素朴で親しみやすいものでした。あけのけたたましいカスタネットではなく、ギターと手拍子によるメロディーは、私にとっては意味不明の歌声にびつたり合っていました。

それが多勢の手拍子だけによる舞台になつたとき、ふとある光景が浮かびました。夕ぐれの草原でテントを張り終えたジブシーたちが、たき火を囲んでまさにこの手拍子のフランメンコを奏しているのです。そして、私のフランメンコに関する知識は皆無に等しいのですが、フランメンコはもともとジブシーたちが移動中またはキャンプ中の楽しみとして手拍子だけで始めたものではないかという気がしたのです。ギターや踊りがついたのはずつ後になつてからのように感じました。

ともあれ、旅の疲れが出始めたころではありました、とても懐かしく聞き入ったが、いかがでしょうか。

## ピラミッドに感動

東京 原 永庫

昨年11月ニューズレター第75号でエジプト・ヨーロッパ宇宙考古学の旅の広告を見た時、これは絶対に行かねばならないのです。そして、私のフランメンコに関する知識は皆無に等しいのですが、フランメンコはもともとジブシーたちが移動試験の準備に追われている真最中。日本

旅行で一番の楽しみは人ととの出会いです。遺跡等の建築物にあまり興味のない私にとって、二回とも(55~57年の研修旅行)新しい友人ができたことが何よりも贈り物でした。旅行團の方々はもちらん、現地の人々も非常に多くのことを教

つしていました。

話は前後ますが、8月17日にエジプト博物館を見学した際、人間は何物をも所有できないことを痛感しました。あん

えてくれました。このよだな素晴らしい企画をなさり、ご尽力いただいた久保田会長や田中氏に改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。さて、今回の旅行で私が一番強い印象を感じたところはスペインでした。スペインの街並は見た瞬間からすべて好きになってしまったほどです。しかしそのスペインのなかで最も感動的だったのはそういう“物質”ではなく“音”でした。8月25日にマドリッドでフランメンコを見に行きましたが、それはテレビで見て想像していたものよりもはるかに素朴で親しみやすいものでした。あけのけたたましいカスタネットではなく、ギターと手拍子によるメロディーは、私にとっては意味不明の歌声にびつたり合っていました。

それが多勢の手拍子だけによる舞台になつたとき、ふとある光景が浮かびました。夕ぐれの草原でテントを張り終えたジブシーたちが、たき火を囲んでまさにこの手拍子のフランメンコを奏しているのです。そして、私のフランメンコに関する知識は皆無に等しいのですが、フランメンコはもともとジブシーたちが移動試験の準備に追われている真最中。日本へ帰国することさえ決定していなかった時点で出来る事と留つたら、ただただイメージを描くこと。自分が既にエジプトの地にGAPの皆さんと共に歩いている光景を書き、強烈な信念を自分自身に叩きつけた。それから9ヶ月、希望通りになりました。

全てが実現してしまい、やはり持つべきものは信念であると更めて実感した次第。旅行のハイライトは何と言つてもエジプト・ピラミッドをまじかに見た時「これがアトランティスだ!」と心中で叫び、中南米の遺跡を見た時以上に感動しました。しかしただ無感動にヨーロッパ各国を回つたのではなく、自分が今まで8年間暮らしていたサンパウロのルーツをボルトガルとイタリアで発見し、非常な親近感を覚えると同時にブラジルという國がヨーロッパの混合文化によって形成されたものであるという実感等、我が祖國日本と第一の祖国ブラジルを多角的に比較する素晴らしい機会になつたと思う。

ボルトガルでは通訳を仰せつかりながら通訳不足で満足な結果を得られなかつたことを、この場を借りて旅行に参加された皆さんにお詫び申し上げる次第。そして全行程を通じて献身的に我々旅行團の世話を下さつた田中さんに最大の敬意を払うと共に、団長としての重責を果たされた久保田先生に感謝の意を持げたといいます。本当に有難うございました。

## 皆さん方から何かを学ぶ

新潟県 日山良一

久保田先生、田中さん始めみなさんお元気ですか。旅行中はたいへんお世話になりました。

二週間の旅行もあつという間に過ぎてしまいほんとうに早く感じました。今回

の旅行で2週間という長期旅行は一応最後だということで、今回申込んでもよかつたと思いました。今までの旅行も行きたかったのですが、いろいろなことを心配して申込みませんでしたが、自分の心をそういうものから解放できて、それから第四回目の旅行案内が来て、それを見てすぐ、今回こそは行ける!と思いました。旅行そのものよりもGAPの会員の皆さんと一緒にやって何かを学んでくることが第一の目的で申込んだのですが、いろいろと勉強になりました。

事です。エジプトでは年中青空が当たり前とか。ロンドンやパリでは冬は太陽が出ない事に決まっているそうです。天候以外にも驚きました。フランス、イタリアでは市民の90%がアパート住いだそうです。五階建てに統一されたアパートのベランダの豊かな花々に心なごむ物がありました。

麻と幸福を折つてマスと音つてくれた。  
「ア・イ・ズ・ビ・ユ・テ・イ・フル」貧しい  
人はばらうと音うマザー・レサの言葉  
ですが私は少しだれど解った様な気が  
がした思いでした。夏のクイーンのよう  
にエジプトでもヨーロッパでも咲いてい  
た花があつた。俠竹桃の花である。白と  
ピンクの可憐な花、まだ咲いているだる  
うか。私達の願いが花の種となつて咲か  
したいのです。ファティマの夜の質疑  
応答の時間はとても有意義でした。久保  
田会長、田中さん、そして皆様心から感  
謝申し上げます。

思うこと多き旅

横浜市 山中正紀

これといって特別に感じた所はなかつたのですが、それぞれの国での感じたことやいろいろな思い出が自分の中に残っています。参加してみて、これからもできたら又参加したいと思います。その時はよろしくお願ひします。

大好きなエジプト

秋田県 高野マチ子

一年中雨の降らない国がある事を異國へ旅をして初めて知つた。二日と同じ天氣が続かない日本では天候は重大な関心

旅の一步であつたエジプトが一目で好きになつた。持参したフィルムの半分を使つた。被写体は貧しい素朴な人たちがほとんどで古代遺跡は数枚だけだった。貧富の差の激しいこと、戦場と化す危機感が在るのに彼らの表情が明るく笑顔がとても美しい。視線が会えば必ず微笑んでくれた。一枚一枚熱い想いを込めてシャッターを押したけれどアレと露光オーバーが目立ち接氏四〇度の熱気にA4〇〇を選択したのは失敗でした。そんな中でたつた一枚だけ心打たれる写真が撮れていた。メムノン巨像の近くで農夫の手が巨像の足元を洗っていた。

作業していた20歳前の青年と幼い弟、そして牛が草を食べている牧歌的なスナッチだが、貧しい者は金持よりも美しい笑顔で笑うという。青年の笑顔は素敵で、環境が貧しくとも心の豊かさが私を感動させたのかも知れません。エジプトを去る朝、ガイドさんの言葉が忘れられない。それはアラーの神へ私たちの健康と幸福を祈つてマストと書つてくれた。「ア・イズ・ビューティフル」貧しい人はすばらしいと畠うマザーテレサの言葉ですが私は少しだけれど解った様な気分がした思い出した。夏のクイーンのようにエジプトでもヨーロッパでも咲いていた花があった。狭竹桃の花である。白とピンクの可憐な花、まだ咲いているだろうか。私達の願いが花の趣となつて咲かしたいものです。ファティマの夜の質疑応答の時間はとても有意義でした。久保田会長、田中さん、そして皆様心から感謝申し上げます。

う。其他、ピラミッドの数々の不思議。  
侮れない要素は数多くあるが。

エジプト。悠久なる歴史の巣。巨大な遺跡建築群をナイル河沿いに建設した民の末裔は何处に。

はつきりと区分け出来るナイル沿いの  
オアシスと、ナイルの水の届かぬ砂漠、  
また砂漠。その渺茫たる光景は、はかりに  
知れぬ眺めなり。水の流れた跡だけある川

は、ナイルに向かつて注いでいた。台地は初期の侵蝕作用のまま取り残された。まるで教科書の如く。

カルナック神殿は巨大な藝術であった。そこには、多神教であったキリスト以前の王族、貴族、神官そして人間に生まれながら歎の扱いを受け、一生を過ごした多くの無名の奴隸達。キリストは彼等を解放した。その後一度と再び、このようないに神殿は造られなかつた。

エジプトの歴史の深淵さは、私の心を震撼させた。

ギザのピラミッド。思つていたより規模が小さかつた。現在ならP&H百八十メートルクレーン一機で、何拾箇月で完成するだろうか？ 石の重量の平均は拾噸ぐらいいと仮定して、問題は右の切り出しである。面白い問題なので、暇があつたら計算してみたい。あれだけの重量をきさえて、何千年後の今日、傾きもせず、崩れもせざ残つてゐること。當時、岩盤といふものを完全に理解して建立したのだろう。其の他ピラミッドの数々の不思議。悔れない要素は數多くあるが。

西ドイツ。あまり印象がわかない（欧洲すべて、印象がうすかつた）。しかし日本、エジプト等に比べると、玲瓏な国であります。大学時代、ドイツ語の時間に、「アルト・ハイデルベルク」というのを教わったので、ハイデルベルクの地名は知つていた。ハイデルベルクの城の中庭では、春兵衛な体つきの、等身大につくられた、歴代の王様達が、我々を睥睨していた。ファティマ。あまりにもヨーロッパではキリスト教が強く根ざしている為、事

実をも弯曲して彼等の生活習慣にあわせて、解釈してしまう事実は、日本と些か変りない。ヨーロッパとは名ばかりの、建物は北アフリカを彷彿させる田園地帯。事件は、キリスト教の聖地として、観光地化してしまったのが残念。

リスボン。サン・フランシスコに似た街。ゴーランゲートブリッジに似た赤い大きな吊橋がかかっていた。これ程美しい街は、地球上と雖も、数少ないことだろう。

り盗み出した銀を加工して作った銀製品が、マドリッドの王宮に展示してあつた。その王宮には、重き二題のシャンデリアをはじめ、室ごとに掛けられた数多くのシャンデリアだけ見ても、曾て、英國と競合した國力を偲ばせている。

トレド。中世の城、戦いの跡を見た。ああここも、過去に於て、幾千、幾万の兵士の尊い命を、犬死にさせたことであろう。キリストが救い主として生まれ、世の中を大変革させたにもかかわらず、ここでは救い主の為に身を捧げた宗教戦争。争うことは、勝っても負けても互いに傷つく。戦争などやめればよいのにと

パリの建物をみると、フランス建築は女性的。建築学的にすぐれたものでなく、表面着飾りでゴマかしている。ローマ市内の一般の建物（古代でなくゴシック以降）は、それに比べ、すぐれている。見た目は、フランスの如き派手ではないが、芸術的に非常に優れている。むろんどち

らも、日本の建築物とは比べようもない程、高次元での比較であるが。とにかく蒼惶と、パリ、ローマを見た人間に何が比較など、おいそれとできることか」と言われてしまえばそれまでである。

の向こう側でとても素朴な音楽が聞こえ  
てきました。人懐こい少年(?)が、私た  
ちに、私のヒヤリングに間違いなければ、  
あれは結婚式の音楽だと教えてくれまし  
た。

とても大切なことだと思いました。  
日本では知らない人にはほえむことは  
考えられないことですが、ヨーロッパで  
は挨拶やほほえみをすると、必ず返って  
きます。とても素晴らしいことだと思い

毎回お世話になつた久保田先生と田中さん、今回一緒だつたみなさん、どうもありがとうございました。

400

和歌山県 高平妻子

旅は人生、人生は旅。私はこの旅行で  
人生のステップを踏んだ気がします。  
やはり、GAPの方と行つてよかったです。  
今つくづくそう思います。

今でも感動して心に残っている事、それはルームメートの音葉です。彼女は物

に執事心がない物を持たないことに決めていると言うのです。必要以外の物はない。そして、彼女の部屋は何もなく

ガランとしていると教えてくれたのです。  
それにくらべ私はなんて物に執着するの

でしよう。どうして、すべててしまうことができないのか。以前子供が見ていたテレビ

レビ番組で、金の鳥が宝物をたくさん持  
ち、それの重みで飛ぶことができなかつ  
たのですが、最後にやつとすべての宝物

をすててしまい身軽になつて大空へ飛び、  
本来の鳥の幸せをつかんだのを見たこと

ホルトガル

「この様なすばらしい旅行を企画した久保田会長の御努力、目だつたトラブルは一つもなく、旅行を遂行してくれた田中さんの御苦労に、心から感謝致し候ふ。心に残るボルトガル

のですから、ガイドさんの説明はほとんど記憶に残っていません。興味のあったのは建築、食事、習慣、ファンション、etc……です。

建築と町の美しさは、ドイツが一番でした。空から見ても陸から見ても、おどぎの国のように美しく、全体に均整がとれています。特にハイデルベルクは永遠に続く田園、魅力的な家並み、美しい道路、緑が多く無駄のない生活、ああその何もかもが私を魅了してしまいました。もう一度ドイツへ行きたい。そして住んでみたい。強く強くそう思いました。

### 壮大なカルナック神殿

京都府 萩森孝雄

この度はすばらしい旅行に参加させて頂き誠に有難うございました。エジプトは以前から行きたかった所の一つでした。あの壮大なクフ王のピラミッド、カフラー、メンカウラのピラミッド、そしてスフィンクスなどは脳裡に焼きついてはなれません。一方、対称的なサッカラの階段状

ピラミッドは、広大な砂漠にひつそりと過去の歴史を物語っているようで大変気に入ったすばらしい所でした。またカルナック・ルクソール神殿においては、ギザのピラミッドなどにも勝るともおどらぬほどに実に壮大なスケールでラムセス二世の巨大な石像、パビルス、ロータスの柱頭、巨大な石柱群、オベリスク、塔門などの迫力で圧倒させられました。夜の光と音のショーではナレーションも加わり、量にも増して過去の記憶を思い出させるかのように演出効果もすばらし

いものでした。このような古代遺跡群をながめていると、人間という生きものについて考えさせられます。

今まで何度文明が破壊されてきたか?

レムリア、アトランティス、エジプト、ローマなど偉大な文明はみな過ぎ去つてしましました。何度繰り返せばよいのか?

? 崩壊とそして誕生のくり返し「徳性は、どん欲と利己主義のなかに失われてしまう」。現在もその選択の岐路にさしかかっているに違いないと……。過去の過失をくり返さないためにも各人がますかん欲と利己主義であるエゴを支配しなければならないと思います。

十五日間の旅行もあつという間に過ぎ去つて楽しかった思い出やいろんな思い出、エジプトそしてヨーロッパ。今回の旅行で最大の収穫は「自由に生きる」とへの大きな目覚めではなかったかと思っています。

GAP旅行団の方々から「自由に生きる」ことの楽しさが教えられたように思います。「どの花も他の花の顕現を通じて自分を知る」と語られているように参加された素晴らしい会員の方々と接することにより、自分を見つめ直す機会が与えられたことは大きな収穫となりました。

最後に久保田先生、そして田中さん、参加された会員の方々、そして皆様に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

(以下次号)

## 本年五月一日より四日間実施 「沖縄支部大会と南国之旅」に参加して(2)

### 沖縄の方々の純粋さ

山形県 清水 正

沖縄。そこは美しい青い海と美しいカツブリの島。太陽かどうかわからなければ、とてもまぶしい。しかしこの間までいまわしい戦いの場でもありました。現在はアメリカの軍事基地でひつきなしにジェット機が発着する。いついた時の流れはどんなふうに変えてしまうのだろうか。四日間の滞在であつても何かを学んだ。

このたびの沖縄支部大会に参加できまして、沖縄の方々の熱心さ純粋さに触れて良かつたと思っています。とても素晴らしい体験ばかりで、さすがGAPのやることは高揚感があり人生充実してきました。

思い出すことはいっぱいあります、その中で海洋博記念公園から帰りのバスで暗くなつて思ったのですが、回りがすぐ海のためか街明りが遠く見えず空がおそろしく奥深く見えたことでした。こんな所では円盤も見えやすいのではないでしょうか。

沖縄支部大会では田中義則さんと久保田会長の講演も内容深く、特に田中さんの「慈愛の精神」については、「人には多く自分にきびしくではなく、自分にもあまくといった所から、ある失敗を人に乘

対してして、それを自分をクヨクヨ責めてなんにもならないこと、普通、人間は他人を許すことはできません。自分を許せないで、こだわることが多いのではないか。過去は過ぎ去つたことであり、それには生きよう」といった内容だと思いますが、私の記憶に残りました。

沖縄の方々の御親切には深く感謝いたします。この大会にあたつて、どのようにに本土の会員を迎えるかといったことには本土の会員を迎えるようかといったことで様々な話し合いやご苦労をされたと思いました。遠く離れていても宇宙哲学を志す人たちが、今生、初対面であつても旧知の仲のように迎えてくださつたことが心に残ります。本当に沖縄の皆さんどもありがとうございました。

そして、この旅に共に参加された皆さんは、宇宙的な開拓のもとに過ごせましたこと、久保田会長、旅行社の田中さんにはいつも素晴らしい企画をありがとうございました。

### 忘れられない沖縄の旅

栃木県 大山ひろみ

はじめての沖縄支部大会。でも私にとつては二度目の沖縄。青い海と満天の星空が再び見られると思って降り立つた沖縄は雨。そこしがつかりしたのだけれど雨の沖縄はめつたないことだと聞いてきっと忘れられない旅になると思いました。

空港で沖縄支部のみなさんはじめてお会いして、うわさどおりのもの静かな人達だと思います。そのままバスに乗

り、南部戦跡、姫百合の塔などを見て回りました。これらは私が以前見たところですが、とてもなつかしく思いました。

こんな美しい沖縄で悲惨な戦争がくり広げられたとは、とても信じられない思いがします。その夜は沖縄の人達の招待で夕食会をひらいていただきました。東京から行つた人達の方が多いのに、沖縄の人達は心よくもてなしてくれて感謝の気持ちでいっぱいです。

支部大会もすばらしいものでした。先生の一時間以上にわたる講演、東京ではなかなか聞くことのできない話もあり、質疑応答の時間もたっぷりと、盛況のうちに終わりました。途中新里さんと関係証明になりました。

沖縄が日本に復帰して今年で十年になります。この十年間決して暮らしやすい状態ではなかつたということを聞きました。私は沖縄を代表する支部のみなさんと今回はじめて話す機会をもつたわけですが、彼らはもの静かで、純粋で、誠実で、まさに見習うことばかりです。私自身かなり多くのものを吸収できました。沖縄の気候や土地がらなども影響するのでしょうか、あまり時間にとらわれないのびのびとした生き方をしたいと思いました。

沖縄支部大会と沖縄の旅は私にとって決して忘ることのない最高の旅となりました。四日間にわたりて私達をお世話してくださいました沖縄支部の方々、久保田会長、田中さん、ほんとうにありがとうございました。

## スペースブラーーに会う?

神奈川県 関 高明

今回の「沖縄支部大会と南国之旅」はほんとうに楽しく、かつ有意義なものでした。今年になつてから時間と金銭に余裕がある限りできるだけ地方支部大会に出席し、多くのGAP会員の方々と親睦を深め、お互いに知識の交流を図つてゆきたいと考えています。この点については旅行中、参加された会員の方々から貴重な御意見をいただき、心から感謝しています。

沖縄支部大会は講演、質疑応答、夕食会ともに充実した内容だったと思います。特に田中義則さんの御講演から、他人、自分共に過失を許すことの大切さを教わり、また久保田先生からはGAP創立活動の経緯とそれにまつわる体験談、及び深遠なる哲学についての迫力ある御講演を拝聴し、感銘を深くした次第です。質疑応答においても重要な質問が続出し、沖縄支部の方々の純粋で熱心な姿にあらためて感心させられました。

さらに支部大会の昼食時間に沖縄支部会員の新里さんとUFOを目撃することができました。今回の旅行でもUFOが出現するのではないかと期待していたため、ほんとうに嬉しく思いました。

また確認はもとめませんが、ホテルにスペースブラーー(友星人)が来ていたよう思います。五月五日の朝、ホテルのソファに座つておられる方がいました。私が新聞を取ろうとしたとき、こちらを振り向いたのですが、そのときスペース

ブラーー!という印象を受けたのです。しかし、まさかと思い、そのときは気にしませんでした。旅行から帰つて二日目に俄然強いフィーリングが湧き起こつてきました。その

人は上品で澄んだ目をしていて、何か温かい感じのする人でした。

島内の見学においては沖縄支部会員の方の御好意によりマイクロバスで案内していただき、深く感謝しています。支部大会の前日に見学した平和祈念資料館では沖縄戦の悲惨な激しい戦いを初めて知り、また車内で沖縄支部会員の方から戦争当時の体験をお聞きし、一度とこんなことがあってはならないと思いました。

支部大会後の島内見学は天気も良く、澄んだ空気と美しい海に接し、とてもさわやかな気分ですごせました。こんなに美しい海はもう何年も見たことがなかつたため、すごく感激しました。嘉手納基地、海洋博覧会場の見学、同会場のビーチでの海水浴、今帰仁城跡等、今も鮮明に脳裏に浮かんできます。

最後になりましたが、沖縄支部会員の方々の並々ならぬ歓待と御配慮に対し、心から御礼申し上げます。また久保田先生、田中正さんをはじめ、旅行に参加されたみなさん、本当にありがとうございました。今回の旅行で得られた知識と体験を糧にこれからも頑張りたいと思いま

際しましては有意義かつ楽しいひとときを過ごさせて頂き大変ありがとうございました。今大会に携わられました方々のご苦心ご心労はいかばかりかとご推察申

ます。

五月一日から那覇空港出発までの四日間に亘り、大会のみならず観光の際にもご多忙中にもかかわらずお世話下さり心

より感謝申し上げる次第です。

私は幸いなことに東京月例会には毎回出席し、久保田先生のお話やご指導を直接に仰しておりますが、今大会時は特に新たな貴重な内容ある教えをいたくことができました。これはひとえに沖縄支部の皆様方の熱意の賜物と嬉しく思っております。

さて私は表面的には一見平和な日々のなかにありますが、三十数年前の悲惨な出来事を忘ることはできません。沖縄のひめゆり部隊の哀しさを想うとき、広島の原爆ドームを見たとき私達には一番の説明も必要としません。私はこの愚かさ、みにくいエゴから脱却することは申すまでもありません。

五月初旬にかかわらず青い海での海水浴、独特なメロディーの沖縄民謡、ヤシの並木路、南国情緒をたたえた東南植物園、みずみずしいパイナップル、五階建てのビルがすっぽりとおさまることができる鍾乳洞の玉泉洞など。そして沖縄支部の会員の一人一人の顔、東京から同行された各地の会員の方々が今なつかしく想い出されます。

## 楽しかった南国沖縄

東京 野本俊次

先日の「沖縄支部大会と南国之旅」に

樂しかった今大会の為に尽力された皆様、本当にありがとうございました。

# 旭川・札幌合同支部大会

36

- 六月二十日(日)

去る六月二十日(日)に開催した旭川市  
札幌合同支部大会も大盛況をもって終了  
することができました。今年で第二回目の大

本大会は出席者二十七名と少人数ながらも大変高次元な波動をもつてアダムスキーリー哲学の真髄を語り合いました。

希望者による旭川近郊見学には十八名の有志がマイクロバスに乗り込み、鍾乳洞と田舎の小さな森林公園で時間を過ごしました。

されているようでした。また、帯広市の大橋博子さんは昨年大会の十勝ワインに続き今年はホワイト・チョコレートとめずらしいケーキのようなお菓子を頂き大変恐縮しております。また、札幌支部の櫻田晋吾<sup>さくご</sup>氏には夕食会の抽選会で立派な品を寄贈して頂き大変感謝する次第です。それと、岩手県の会員、柴田仁<sup>じん</sup>氏は今大会のために夜も眠らないでずっと残菜をし、オートバイでかけつけてくれたとのこととジーンと熱いものを感じない訳にはゆきませんでした。本当に御参加ありがとうございました。

誠にはゆきませんでした。本当に御参加  
ありがとうございました。

じみと感じとつてゐる様子でした。その後いつたん休憩し、全員記念撮影を終えてから座談会形式の質疑応答に入りました。会員の熱心な質問に会長も時間を使長して応えられ、よいよピークに達しました。とにかく今大会は会員すべての総力の結集が成功に導いたと言えます。

大会終了後の夕食会も紳士・淑女の柔和なフィーリングによつて美しいハーモニーを奏で、楽しく愉快なものとなりました。そのあと二次会、三次会と続きましたが翌朝は元気はつらつオロナミン？とでも言うように、みんな明るくさわ

(石川公一  
著)



# 東海地区大会

●七月四日(日)午後一時～五時  
●静岡交通ビル大ホール

●出席者 八十二名

晴天に恵まれた七月四日、待ちに待つ名古屋支部と静岡支部の合同の大会が、久保田会長をお迎えして開催された。

大会の前日は東京本部月例会で、久保田先生には月例会終了後、ただちに助手の松村氏をはじめ十数名の方々と共に新幹線で来静された。その夜は歓迎夕食会を行い、夜遅くまで先生を囲み宇宙問題に花が咲いた。

大会当日は、両支部のみなさんが朝から会場の準備に汗を流し、昼前にはすべて整った。そのころから、全国から、ぞくぞくと熱心な方々の姿が見えはじめた。北海道や九州からも参加して下さり八十二名という多くの方々が参加された。林国宜氏の司会で始まり、私そして武田充弘氏の支部代表挨拶、そして会員の体験講演、まず川谷定義氏、次は予定していた黒田保夫氏が都合で欠席されたので私がピンチヒッターで講演した。

そして久保田会長の「アダムスキー哲学とUFO問題」と題する講演が始まつた。この日は久保田先生ご自身の誕生日でもあり、最初から講演の一言一言に熱をこめられておられ、私達の胸にジンジンと響いてきた。参加者に、勇氣と激励そして信念を植えつけて下さった大講演であった。休憩時間に全員の記念写真をプロ写真家筒井徹氏にお願いした。統いて質疑応答があり、久保田先生は非常に丁寧にわかりやすく答えて下さった。五時すぎ盛況のうちに大会は終了した。



▲大会当日、プロ写真家・静岡支部会員・筒井徹氏が本格的に撮影された会長のポートレート。

夕食会は久保田先生の誕生記念パーティとして開催し、こちらの方も六十名をこえるみなさんがご参加下さい、みんなで久保田先生の誕生日を祝福し、これからも益々のご活躍をお祈りした。このあと二次会、三次会と続き、久し振りに会った方々と大いに語り合った。

翌日は、静岡、清水方面に大型バスで全員和気あいあいと観光に出掛けた。最初の見学地、登呂遺跡では円盤を団団で目撃した。そして日本平、久能山東照宮、三保の羽衣の松、清水次郎長の墓や資料館などを見学し帰路についたが、帰りのバスにずっとついてきた二機の円盤を橋口眞市氏やその他の方が目撃するなど、この日は上空から熱い視線がそそがれていた日でもあり、生涯忘れることが出来ない素晴らしい思い出の日となつた。

東海地区大会が大成功裡に終了しましたのも、久保田先生をはじめ、全国から参加されたみなさんのおかげであり、多くのご協力をいただいた方々に心よりお礼申し上げます。  
(野口敏治)



# 第1回 青森支部大会

●八月一日(日)

●青森県教育会館

●出席者 三十三名

大会前日の七月三十一日夕刻、三沢空

港に着かれた久保田先生と松村氏をお迎

えして、既に青森入りされていた十数名の会員の皆様と共に田村嘉彦氏宅での歓迎夕食会に臨み、再会を喜び合ひながら青森の夏の夜を楽しむ過りました。

翌八月一日、第一回青森支部大会は秋田、山形、仙台をはじめ関東方面からも多数の会員の皆様の御出席を頂き、盛大に開催されました。

会員による講演は、予定されていた鈴木武男氏が数日前より体調を崩されたため、急きよ六月より青森へ酪農実習に来

られていた広島市の近藤久美子さんと私とで行われました。近藤さんの率直な素晴らしい体験講演、そして私の拙い体験講演が後に続きました。

その後、映画「アメリカ・メキシコ宇宙考古学の旅」の上映、昼食をはさんで久保田先生の「日本GAPの使命と宇宙の法則について」と題する大変意義深い講演が展開されました。地方支部大会に

出現する円盤のことや、GAPを暖かく見守っているプラザーズたちのことをお聞きし、彼らに協力し、彼らと共に歩まなければと思つた次第です。

続いて記念撮影、自己紹介、質疑応答とプログラムは順調に進み、盛況裡に閉会となりました。

大会終了後は隣室にて夕食会を開催し、久保田先生御持参のラテン音楽や沖縄民謡のBGMの流れる中、愉快に友好を深め合いました。

翌日は清水正氏の運転するマイクロバスに二十五名の参加者が乗り込み、八甲田山へのドライブに出かけました。強風のため予定していたロープウェーには乗れませんでしたが、青森市と陸奥湾が一望できる展望台や映画「八甲田山」で有名な雷中行車の遭難跡等を回ることができました。

この後青森空港で十数名の会員の皆様と共に、久保田先生、松村氏、松本氏を乗せた飛行機を見送り、三日間にわたる大会の幕を閉じました。



初めての大会ということでいろいろと不手際がありました。多くの方々に支えられ盛況に終えることができ大変嬉しく思います。お忙しい中をお越し頂いた久保田先生、また遠方よりお越し頂いた会員の皆様、無力な私をしっかりと支え奉仕的に御協力頂いた青森支部の皆様に心から感謝致します。  
(中根豊)



# 大阪支部大会

●九月十二日(日)

午前十時三十分～午後五時

●KBSびわ湖教育センター

●出席者 四十数名

久保田先生は、十一日夕刻山形支部代表の清水氏と一緒に新幹線で京都駅に着かれ、出迎えの会員と一年ぶりの再会をされました。今回の大会は都会の雑踏から離れ、滋賀県のびわ湖畔に会場を移し開催されました。その夜は同センター内で、地元の会員有志による夕食会に臨まれて楽しいひとときを過ごしました。

翌十二日、ついに大会の日がやってきました。台風が近畿地方に接近し朝から暴風雨が吹きあれ参加者の出足が心配されましたが、会場には北は山形、東京、静岡、名古屋、南は岡山まで総勢四十数名の熱心な会員が出席して下さり、交通不便な所ながら、その熱心さには圧倒されました。長浜富春氏の軽快な司会で始まり、前半は、会員有志二名による講演があり、日ごろから考えていることや、研究実践の話など貴重な発表をされました。

午後の部は、久保田先生の講演が始まっています。午後は、久保田先生の講演が始まり、宇宙哲学の本質とUFO問題の真相」というテーマを中心にはじめました。宇宙哲学を学ぶ上で、清らかな清純な生き方をし、常識豊かに、かつまじめに働き、宇宙の彼方に思いをはせることが大切であるということや、あらゆる全てのことを誠実に行うこと、GAPの活動は常にブラザーズからの援助を受けているということ、あらゆる混乱に惑わされず、内部の印象に従えば、目の前が開けて良い運命が展開するといった内容でしたが、出席者の方々は、改めて日常どうすれば良いかということに貴重なお話をとして感じておられた様子でした。

休憩をはさんで、質疑応答があり、ふだん先生とは直接質問できないので、活発な質問がありました。その後昨年の、「アメリカ・メキシコ宇宙考古学の旅」の記録映画が上映され、盛況のうちに大会を終わりました。

夕食会は約三十五名の方が参加下さり、美しいびわ湖の夜景を眺めながら歓談に花が咲きました。その後二次会、三次会と流れで行きましたが、そんな中で会員の皆さんは先生と親しく接し、人間味あふれる先生の一面を見ることができ、またGAP活動を通じて眞実を語り続けて来られたことに意義深いものを感じられていました。

翌日は台風も去り、すばらしい天候に恵まれ、十六名ほどの方々とびわ湖周遊の観光に出かけました。晴れあがつた空をながめたり、さわやかな涼風を胸一杯に吸い込み、GAPの旅行に見られる調和した雰囲気にはまされたすばらしい一日でした。このあと夕食をとった後、京都駅発午後八時半の新幹線で、地元会員のお見送りする中を横須賀の千田氏と共に帰京されました。

(仲間秀樹)





### 素晴らしかった

#### 静岡での大会

（松山支部代表）伊藤達夫

このたびは東京月例会と静岡の東

海地区大会に御一緒にさせていただきま

して誠に光栄に存じます。静岡で

前夜祭、当日の御講演と御懇親会バ

ーティー、そして翌日の市内観光に

おける円盤の度重なる出現と、まつ

たく三日間というものはかつてない

充実した時間を過ごさせていただき

ましたことを感謝致します。

先生の御講演は宇宙哲学の真髄を

述べられたもので深く感動いたしました。

私はこれまで色々な大会に出

席してまいりましたが、今回のお話を

ほど高揚感にひたり、GAP会員で

あることの喜びを感じたことはござ

いません。そして今後どんなことが

あっても先生との一体感を深めながら、この活動をやり抜く心が生まれが

出来ました。先生のお話には信念と

かつてない自信とがうかがわれました。

翌日の市内観光では登呂遺跡と日本平のゴンドラの中との二箇所で、それぞれ二機の円盤をこの日で確かめることができました。日本GAPが友星人に注目されていることは理屈ではなく、現実の身近な存在として、はつきりと自覚することができます。ることは、これから私の活動の大きな支えとなることでしょう。そして今回の静岡大会を通じて万感胸に



◆静岡大会の翌日の三保海岸

## いつまでも忘れられない GAPの交友

長野県 原 弘子

## 結婚祝賀パーティーへ の御礼

名古屋市 斎藤泰文・津多子

## 母船の中の自動車学校

東京 合田みゆき

思えばGAPに入会させて顶いて

から4年目、毎月の

月例会

ざいました。私たち一人として双方

の両親すべてが久保田先生はじめG

AP有志の皆様方に感謝いたしてお

ります。また翌三十一日にはわざわ

ざ羽田までかけつけでお見送り下さ

いました本当に有難うございました。

実に懇意の極みです。

おかげさまでハワイでの行程もす

べて順調に運び、正に天にささげた

いような気持です。加えて素晴らし

い写真をお送り下さいまして有難う

ございます。早速田舎の親せきへ送

付したところです。

十三日には名古屋月例会のあと、G

A P有志（名古屋在住）が又祝賀パ

ーティーを開いて下さいました。東

京でのような熱狂と興奮はありませんでしたが、有志の皆様のご好意に

感謝してもしきれないほどです。

全く良いことづくめで、果たしてこ

れでいいのかとほっぺたをつねりた

いような気持です。

このように暖かい待遇を受けた私

たちですが、今は何もおかえしき

るようなものはありません。でもき

つといつか近い将来何らかの形でお

かえできる日が来る確信してお

ります。

GAP活動を行つてゆくにはさき

ざきで難問が山積して待ち受けてい

ることとは思いますが、一人力を併

せて一つ一つ障害を乗り越えてゆく

付いてくれればと思っています。こ

れからもいつそうがんばって下さい。

私もいつまでもGAPの会員とし

て皆様とともに居させて下さい。

市へ帰られました）

東京月例会にも今まで同様にはできぬ乍らも、できるだけ出席していきたいと存じております。今後とも従来同様に御指導と御親愛を頂けますよう心から願っております。（注）原さんは七月十九日に多年住みなれた東京より故郷の長野県銀谷市へ帰られました）

本日は東京月例会で（八月七日）盛大に開催して下さいまして有難うございました。特に先生のものすごい、ちょっと表現しにくい様なパワーと言ふか、何と申しますか、本当にすこいと思いました。先生の行く所は進歩のみという感じがします。いつも私の家族をもよく見て回りの人達がこのすばらしい法則や生き方に気が付いてくれればと思っています。これからもいつそうがんばって下さい。

# 〈予告〉今年度 地方支部大会 (その4)

円盤を見る

愛知県 上井惠美子

一定方向に向かっている、テレビ等で時々放送している橢円形の黒い物体ですし、これは円盤だと思いました。

ジョージ・アダムスキー氏の「生命の科学」を読ませて頂きました。大変に興味深い高度な内容のもので驚きました。ジョージ・アダムスキーハ氏はただ単なる円盤発見者に過ぎない人だとばかり思つて居りましたので、本当に驚きました。又何か不思議な事に、この本を購入した帰り道、疲れていたのでただ家に帰り着く事ばかり考えて居りましたところ、急に私の目の前の上空で最初は鳥かと思いましたが、鳥が飛ぶにしては高すぎるし速度は一定で

続いてもう一機突然現れで——これは少し赤っぽい——一定の間隔を置いて同じ方向に向かって二機とも雲の中に消えてしまいました。カメラで写す時間は充分にあつたと思いました。円盤なんて考えてもいませんでした。円盤なんて参考していませんでしたので、カメラを持参していましたが、なかなか事、とても残念でした。その時道を歩いていたのも私一人、誰か一緒にいたら、あれはUFOだ、と語ってくれたと思います。残念です。今度は「テレパシー」も読むつ

## 委託販売で頑張ろう

（山形支部代表） 清水 正

たそうで、初めは五冊程度しか出でなかつたものが、今では一ヵ月五冊の売れ行きなのだそうです。ですからこうした販売方法も忍耐が好結果を生むと思うのです。私が思うに

「宇宙哲学とUFO」の内容は最高です。先生が書かれているように、この道の興味を持たれているかたは

見逃すわけはないはずです。しかし

こうした委託販売は始めよりも時期が過ぎれば少しだけ売れますといふことを本屋の方が話しておられました。どういふことはGAPより先にF

という車関係の雑誌が委託販売され

いた。山形支部月例会変更では大変ご迷惑をおかけしました。おかげ様で忘れられない良き思い出が体

験として残りました。内部の印象のもとに大会の前日、先生のもとに

	仙台 山形 合同支部大会	熊本支部大会
日 時	11月14日(日) 午後1:00→5:00	11月21日(日) 午後1:00→5:00
会 場	「東京第1ホテル仙台」内会議室。仙台市中央2丁目3-18。 ☎ (0222) 62-1355。 仙台駅より正面の青葉通りをまっすぐ行き、右側。徒歩5分。	「法華(ほっけ)クラブ熊本」8F会議室。熊本市西通町20-1。 ☎ (0963) 22-5001。 国鉄熊本駅前から市電「健軍」行き乗車、「慶徳校前」下車。 すぐ隣。交通センターより徒歩6分。
会 費	(希望者のみ全員記念 ¥2000 写真代¥700。 グランドキャビネ判)	(希望者のみ全員記念 ¥3000 写真代¥500)
プロ グラ ム	1:00 支部代表挨拶 笠原弘可(仙台) 清水 正(山形) 1:10 講演 久保田八郎 「アダムスキーは不滅なり」 2:10 休憩・記念撮影 2:30 全員自己紹介・質疑応答 5:00 閉会  ・座談会テーマ は「想念観察」「意識的意識」	1:00 支部代表挨拶 津野田俊行 1:10 会員体験講演 (有志2名) 2:00 講演 久保田八郎 「地球外生命と宇宙哲学」 3:30 記念写真撮影・休憩 3:45 全員自己紹介・質疑
夕食会	大会終了後6:00→8:00まで希望者による夕食会を別会場で開催(会場未定)。 会費 ¥4000	大会終了後6:00→8:00まで希望者による夕食会を神園山荘(同市長嶺町1-11。 ☎ (0963) 80-2511)で開催。
宿 舍	会場の「東京第1ホテル仙台」をお世話します。 シングル ¥5100より ツイン ¥8800より	会場の「法華クラブ」内の部屋をお世話します。 シングル ¥5000 ツイン ¥8000
夕食会と宿舎の申込	夕食会出席と宿泊希望の方は1週間前までにハガキに宿泊日と「夕食会参加」と記して下記へお申込下さい。 〒980 仙台市東十番丁一番地 国鉄アパート1-18、笠原弘可 ☎ 0222-95-0725 笠原宛電話申込可	夕食会出席と宿泊希望の方は10月末までにハガキに宿泊日と「夕食会参加」と記して下記へお申込下さい。 〒860 熊本市二本木3-12-45、常通寺内、津野田俊行。 ☎ (0963) 52-3381
備 考	晴天温暖ならば市内外の観光に出かけます。 ※11月の仙台・山形両支部の月例会は開催しますのでよろしく。	大会翌日は希望者のみで雄大な阿蘇山へドライブ。車は支部で準備。 ※11月の月例会は大会のため中止します。

たがい歓迎夕食会に参加したのがとても良かったと思っております。あの日の晩は朝方まで全国の熱心な方々と話をしておりました。

さて山形支部例会は七月十日に福祉文化センターで行われました。例会は素晴らしいファーリングに満ちていました。参加者八名と少数ながら、アラザーズが真近にいるような気さみました。皆さんもこの例会にとても来たかったと言い、なかには飛んで来たかったという人もいました。よくわからないのですが素晴らしい日を過ごせました。(いつも有難うございます。これからも益々ご活躍下さい。

## 大成功の大坂支部大会

京都府 中間発揚

日増しに宵空も澄んで空の雲も秋の気配をだよわせてきましたが、過日は大阪支部大会で親しく接することができました。大変有意義な三日間を送ることができて感慨深く感じております。

お蔭様で先生をお迎えしての大会は大成功に終わったものと思つています。本当にありがとうございました。大会での先生への心づかいはどう出でたか、又運営の点でどれほど協力できたかはよく解りませんが、こちらの方々からはなんとかうまくいったのではないかという感想を聞き、安心いたしました。

先生とは東京月例会や各地方支部大会でお会いし、そして私の個人的な相談にのつて下さつたりしてお話を聞いたり、アドバイスを頂いたりした中で、先生を理解しようと努力

じてきましたが、特に今大会終了後の二次会やホテルの部屋でのお話をお聞きして、ますます身近に感じられまして、生身の人間としての

## もつと多くのコンタクトが必要

岡山県 前田昌利

ファーリングを感じました。また過去にあったGAP活動にかかる諸問題についても理解が深まり、推測の域を出なかったことに対する疑問が解けました。

今回の大会では意見発表をさせて頂くという貴重な体験をいたしましたが、私のつたない話をしゃべり申し訳なく思っています。しかしこのことを踏み台にして、これからも個人的向上と、できる限りのGAP活動に対する協力と支援することを強く感じ、もっと積極的に具体的に協力をしてゆこうと思つています。

先生のお話の中で「誠実さ」について力説されました。このことはとても意義深く心に残りました。何を忘れていたようなものが思い起され、このような感じはお話の中のことばから何度も感じました。

会場でのマイク設置や8ミリ上映に関してはスムーズに行かなくて申し訳ありませんでした。

GAPの大会や月例会は何かとぞれにまつわる話題は多いのですが今回は台風の接近によって天候も思わずありましたが、すべてがうまくはこんだようです。三日間先生と一緒にできまして、学ぶべきとの多くが心に残りました。これからできる限りの協力を実行してゆきたいと思いますので、よろしくお願い致します。意をつくせませんがこのあたりで失礼いたします。毎日お話を聞いて、アドバイスを頂いたりした中で、先生を理解しようと努力

每夜空をながめてUFOを観測しております。幸い初めてたしかな、これはUFOだというのを見ました。

又、写真などにとることがあれば、

おひさしぶりです。お元気ですか。

前には色々と迷惑をかけて申します。

私は考えたのですが、この地球が

恥知らずにほとほとあいそがつきる

思いです。久保田先生みたいに絶対的信念と忍耐力はありませんが、なんとか毎日やつております。私にと

って久保田先生を尊敬する点は、「苦労人」という点です。何故なら私が

あんまり苦労していないからです。

私は久保田先生とか久保田会長とか、

あんまり言いたくありませんが、先

生の実質的努力に対して敬意を表

したいと思います。何故なら何もない

日本に宇宙的な(他の惑星の人類などを絶対的に信じて)事をよくもこ

こまでやつてこられたものだと、感心するというか、おどろくばかり

ません。私など時々ジョージ・アダムスキーフの話は本当なのだろうか

と、いまだに思つたりすることがあります。

最近感じることは、私も宇宙の中

にいるのだということです。

それでは先生、あんまり書きませ

んでしたが、お体に気をつけて、お

元気で生活をお送り下さい。

思います。そうすればしだいにみん

なが宇宙へ目を向けてくれると思

います。

私のことは自分自身が良くなつたりするとか悪くなつたりするとか

いうのはどうでもいい事なのでが、

できれば何がある前にこの地球上の皆さん気が気づかれて、どうにかし

て少しでも多くの人が助かってほしいと思つております。それには私はまだ多くのコンタクトが行われよう計画をたて、朝五時に新潟を出発し、七時間かかって(途中の休憩も含めて)秋田市に到着しました。

当日は天候に恵まれ、満んだ日本海の海岸を左手に見ながら快速なドライブが実現しました。

秋田市内へ入ると各種の建物

一月一日、船橋市の宇野嘉代子さん

とめでたくご結婚。御多幸を会員一同お祈りいたします。

ささやかながらではありますが、

## 調和と友愛の秋田支部

新潟県 星 富治

八月八日に新潟支部から平山、吉岡、岡田の各氏と私の四名で秋田支部の月例会へ参加しました。

クルマを使って日帰りで行ってこよう計画をたて、朝五時に新潟を出発し、七時間かかって(途中の休憩も含めて)秋田市に到着しました。

当日は天候に恵まれ、満んだ日本海の海岸を左手に見ながら快速なドライブが実現しました。

秋田銀行本店の高層ビルやNHK秋田支局の鉄塔、県庁、野球場などが

## ● お便りを下さい

岩手県内のGAP会員の方にお願いします。

盛岡市に支部を設立したいので

す。県内会員、特に同市在住の方で

ヤル気のある方、どうぞ連絡下さい。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

ブが流れ、久保田先生の近況報告、

参加各氏の自己紹介、ESPカード

によるテレパシーテスト、座談会と

続きます。その後場所を変えて参加

者全員による夕食会が行われました。

秋田へ来て感じたことは、秋田支

部のメンバー各氏のあいだに調和し

た雰囲気ができており、真剣な中に

も始笑いにみちたなごやかな状態

が保たれていることでした。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

ブが流れ、久保田先生の近況報告、

参加各氏の自己紹介、ESPカード

によるテレパシーテスト、座談会と

続きます。その後場所を変えて参加

者全員による夕食会が行われました。

秋田へ来て感じたことは、秋田支

部のメンバー各氏のあいだに調和し

た雰囲気ができており、真剣な中に

も始笑いにみちたなごやかな状態

が保たれていることでした。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

ブが流れ、久保田先生の近況報告、

参加各氏の自己紹介、ESPカード

によるテレパシーテスト、座談会と

続きます。その後場所を変えて参加

者全員による夕食会が行われました。

秋田へ来て感じたことは、秋田支

部のメンバー各氏のあいだに調和し

た雰囲気ができており、真剣な中に

も始笑いにみちたなごやかな状態

が保たれていることでした。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

ブが流れ、久保田先生の近況報告、

参加各氏の自己紹介、ESPカード

によるテレパシーテスト、座談会と

続きます。その後場所を変えて参加

者全員による夕食会が行われました。

秋田へ来て感じたことは、秋田支

部のメンバー各氏のあいだに調和し

た雰囲気ができており、真剣な中に

も始笑いにみちたなごやかな状態

が保たれていることでした。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

ブが流れ、久保田先生の近況報告、

参加各氏の自己紹介、ESPカード

によるテレパシーテスト、座談会と

続きます。その後場所を変えて参加

者全員による夕食会が行われました。

秋田へ来て感じたことは、秋田支

部のメンバー各氏のあいだに調和し

た雰囲気ができており、真剣な中に

も始笑いにみちたなごやかな状態

が保たれていることでした。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

ブが流れ、久保田先生の近況報告、

参加各氏の自己紹介、ESPカード

によるテレパシーテスト、座談会と

続きます。その後場所を変えて参加

者全員による夕食会が行われました。

秋田へ来て感じたことは、秋田支

部のメンバー各氏のあいだに調和し

た雰囲気ができており、真剣な中に

も始笑いにみちたなごやかな状態

が保たれていることでした。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

ブが流れ、久保田先生の近況報告、

参加各氏の自己紹介、ESPカード

によるテレパシーテスト、座談会と

続きます。その後場所を変えて参加

者全員による夕食会が行われました。

秋田へ来て感じたことは、秋田支

部のメンバー各氏のあいだに調和し

た雰囲気ができており、真剣な中に

も始笑いにみちたなごやかな状態

が保たれていることでした。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

ブが流れ、久保田先生の近況報告、

参加各氏の自己紹介、ESPカード

によるテレパシーテスト、座談会と

続きます。その後場所を変えて参加

者全員による夕食会が行われました。

秋田へ来て感じたことは、秋田支

部のメンバー各氏のあいだに調和し

た雰囲気ができており、真剣な中に

も始笑いにみちたなごやかな状態

が保たれていることでした。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

ブが流れ、久保田先生の近況報告、

参加各氏の自己紹介、ESPカード

によるテレパシーテスト、座談会と

続きます。その後場所を変えて参加

者全員による夕食会が行われました。

秋田へ来て感じたことは、秋田支

部のメンバー各氏のあいだに調和し

た雰囲気ができており、真剣な中に

も始笑いにみちたなごやかな状態

が保たれていることでした。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

ブが流れ、久保田先生の近況報告、

参加各氏の自己紹介、ESPカード

によるテレパシーテスト、座談会と

続きます。その後場所を変えて参加

者全員による夕食会が行われました。

秋田へ来て感じたことは、秋田支

部のメンバー各氏のあいだに調和し

た雰囲気ができており、真剣な中に

も始笑いにみちたなごやかな状態

が保たれていることでした。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

ブが流れ、久保田先生の近況報告、

参加各氏の自己紹介、ESPカード

によるテレパシーテスト、座談会と

続きます。その後場所を変えて参加

者全員による夕食会が行われました。

秋田へ来て感じたことは、秋田支

部のメンバー各氏のあいだに調和し

た雰囲気ができており、真剣な中に

も始笑いにみちたなごやかな状態

が保たれていることでした。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

ブが流れ、久保田先生の近況報告、

参加各氏の自己紹介、ESPカード

によるテレパシーテスト、座談会と

続きます。その後場所を変えて参加

者全員による夕食会が行われました。

秋田へ来て感じたことは、秋田支

部のメンバー各氏のあいだに調和し

た雰囲気ができており、真剣な中に

も始笑いにみちたなごやかな状態

が保たれていることでした。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

ブが流れ、久保田先生の近況報告、

参加各氏の自己紹介、ESPカード

によるテレパシーテスト、座談会と

続きます。その後場所を変えて参加

者全員による夕食会が行われました。

秋田へ来て感じたことは、秋田支

部のメンバー各氏のあいだに調和し

た雰囲気ができており、真剣な中に

も始笑いにみちたなごやかな状態

が保たれていることでした。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

ブが流れ、久保田先生の近況報告、

参加各氏の自己紹介、ESPカード

によるテレパシーテスト、座談会と

続きます。その後場所を変えて参加

者全員による夕食会が行われました。

秋田へ来て感じたことは、秋田支

部のメンバー各氏のあいだに調和し

た雰囲気ができており、真剣な中に

も始笑いにみちたなごやかな状態

が保たれていることでした。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

ブが流れ、久保田先生の近況報告、

参加各氏の自己紹介、ESPカード

によるテレパシーテスト、座談会と

続きます。その後場所を変えて参加

者全員による夕食会が行われました。

秋田へ来て感じたことは、秋田支

部のメンバー各氏のあいだに調和し

た雰囲気ができており、真剣な中に

も始笑いにみちたなごやかな状態

が保たれていることでした。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

ブが流れ、久保田先生の近況報告、

参加各氏の自己紹介、ESPカード

によるテレパシーテスト、座談会と

続きます。その後場所を変えて参加

者全員による夕食会が行われました。

秋田へ来て感じたことは、秋田支

部のメンバー各氏のあいだに調和し

た雰囲気ができており、真剣な中に

も始笑いにみちたなごやかな状態

が保たれていることでした。

例会では最初東京月例会における

「生命の科学」解説講義の録音テー

# 行こう！GAPの愉快な旅

—日本GAP第5回海外研修旅行—

## ニュージーランド・オーストラリア 大自然の旅

地上最後の楽園、信じられぬほど美しい島国

ニュージーランドの大自然と、南十字星輝く雄大な

オーストラリアヘリックスレた愉快な旅に出よう！

カメラと双眼鏡を持って、来年の8月6日に成田空港へ全員集合！

558年8月6日(土)成田発。15時間の長い飛行機の旅は楽しい。

- |        |        |   |
|--------|--------|---|
| イギリス以上 | 7日(日)  | シドニー着、市内見学後、一泊。(アリットクロフトB&B家を招待して合同夕食会開催)         |
| にイギリス的 | 8日(月)  | シドニー→ニュージーランドの美しい庭園の町クラリストチャーチへ。市内見学。             |
| にニュージー | 9日(火)  | クラリストチャーチから専用バスでマウントクックへ。オプショナルで氷河見学。一泊。          |
| ランドは、  | 10日(水) | マウントクックからクーンズタウンへ。湖畔の夢のような町で一泊。                   |
| ギリスのトマ | 11日(木) | クーンズタウンから氷河が作り出したヨルトの絶景シリアルド・サウス行き(最大の見物)。        |
| を紹介! 僕 | 12日(金) | クーンズタウンからノースザクラリストチャーチへ。一泊。夜の散歩を楽しむ。              |
| 誰ももつて  | 13日(土) | (アリットチャーチから飛行機で"オーグラント経由ロトルアへ。                    |
| 下り山平穏  | 14日(日) | マオリ村ヒワイトモ洞窟見学。ロトルア地熱地帯とマオリ文化で有名なウカレワレワを見学後オーランドへ。 |
| た國、ドリ  | 15日(月) | 午前中オランダ見学後飛行機でシドニーへ。夜、シドニー発。                      |
| のいたる國。 | 16日(火) | 成田着。日本へ帰るがイヤにならぬ旅ナタ。                              |

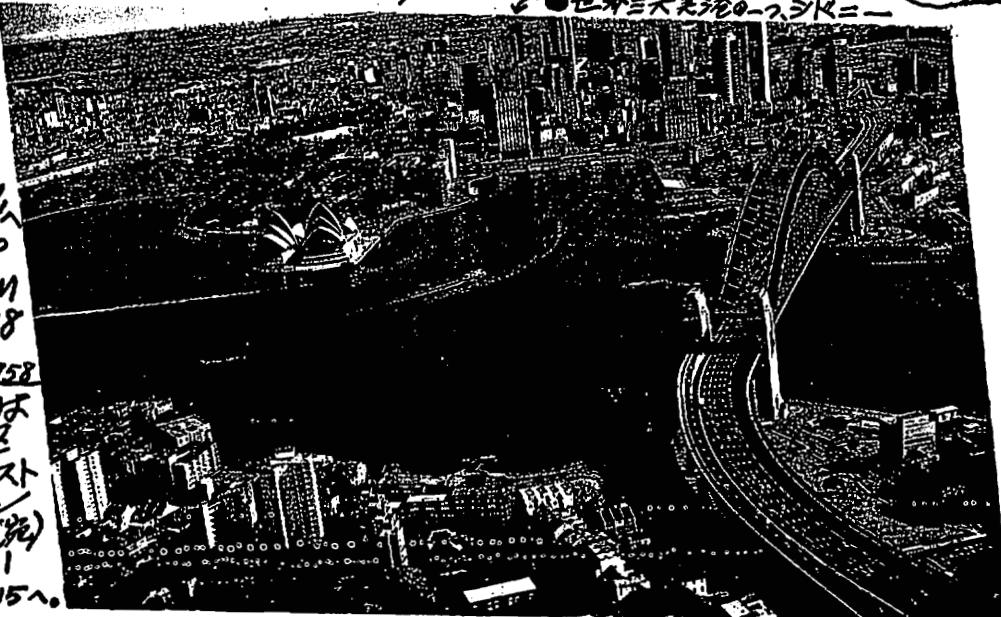
[この方面行きが旅行では最高の手作りの旅。余裕たっぷり!]

昭和58年8月6日から16日まで計11日間

¥498,000(ローン可能、最長24ヶ月払い。  
1ヶ月¥23,000位ずつおねがい)

窓は南十字星。緑の  
ミネラルを踏みしめて  
手足は穿たぬむ。家屋  
はアート純英國風。どこ  
を覗きたり思が出る  
ほどきれいだ。こんな  
国できれいな女の姿  
嬉しくて喜んでおねがい!

●世界三大美港のシドニー



\*旅行期間  
\*参加費用  
\*定員 40名

GAP会員の方  
でも参加できます。

詳細はパンフ  
レットにあり。下記へ  
ハガキで申します。

Tel. 東京都江戸川区  
日本一色町365-818

日本GAP Tel. 651-0758

旅行のお問い合わせは  
〒150 東京都渋谷区  
東3-24-9、サンイスト  
ビル2F、ワールドセブン  
トペル社、田中正(営業)  
Tel. 03(499)2461  
郵便番号 0462-63-0615へ。

# 日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日 時	会 場	会費	携 行 品 ・ 行 事
東京 本部	毎月第1土曜日 午後2:00→6:00 ※11月のみ第3土曜日(20日)に変更。12月は第2土曜日(8日)に変更。	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。 ☎03-828-2111。国電「上野駅」の「公園口」下車、改札口の真向かいスグ。	¥ 300	2:00→3:00会員による体験講演、 3:00→4:30久保田会長の「生命の科学」 講義と近況報告、テレパシー練習、休憩。 4:30→6:00自己紹介、意見発表、質疑応答。 ※58年度は「宇宙哲学」を講義の予定。
大阪 支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」☎(388) 7351。 国鉄または阪急電車「吹田駅」下車。連絡先=平塚和義 ☎ 06-436-3478	300	テキストとして「テレパシー」「生命の科学」(文久書林)を持参。東京例会における久保田会長の講演テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。
新潟 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟駅前「青年の家」☎ 0252-44-6766 連絡先=足立亘宏 ☎ 0252-62-0968	200	テキストとして「テレパシー」「生命の科学」を持参。東京本部例会における久保田会長の宇宙哲学講義録音テープを公開。テレパシー練習、座談会。
熊本 支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	熊本市二本木3-12-45 常通寺 連絡先=津野田俊行 ☎ 0963-52-3381	200	テキストとして「生命の科学」「テレパシー」(文久書林)を持参。久保田会長の東京例会における「宇宙哲学」講義録音テープ公開。座談と研究発表。テレパシー練習。
名古屋 支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30 ※12月は第4日曜日(26日)、58年1月は第3日曜日(16日)に変更。	名古屋市中区古沢町7-1 「名古屋市民会館」特別会議室。☎(052) 331-2141 国鉄・名鉄・地下鉄「金山桜駅」下車。 徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎ 0586-45-6468 武田充弘 ☎ 052-622-7339	300	テキストとして「生命の科学」「テレパシー」「宇宙哲学」を持参。久保田会長の講演録音テープ公開。研究発表、テレパシー練習、座談会。
仙台 支部	毎月第4日曜日 午後1:10→4:20	仙台市「市民会館」会議室(西公園内) 連絡先=笠原弘可 ☎ 0222-95-0725	200	東京本部月例会における久保田会長の講義録音テープ公開、テレパシー練習、座談会。
山形 支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※58年1月のみは第2日曜(9日)に変更。	山形市小白川町「社会福祉文化センター」 山形駅よりバスで貯金局前下車・徒歩3分。☎ 0236-42-5181 連絡先=清水 正 ☎ 0238-21-5441 ※11月のみは山形市立図書館 0236-24-0322	200	テキストとして「テレパシー」「生命の科学」を持参。東京本部月例会における久保田会長の講演録音テープ公開、テレパシー練習、研究発表、座談会。
札幌 支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※58年1月のみは第2日曜(9日)に変更。	中央区北一条西一丁目「札幌市民会館」会議室。☎ 011-241-9171 連絡先=伊藤重信 ☎ 011-742-0192	300	テキストとして「テレパシー」「生命の科学」と官製ハガキを持参。読書会、テレパシー練習、自己紹介。
静岡 支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※58年1月のみは第3日曜(16日)に変更。	ブラザー静岡ビル8階(静岡駅北口すぐ) 静岡市御幸町9-1 連絡先=野口敏治 ☎ 0542-86-7729	200	テキストとして「テレパシー」「生命の科学」を持参。東京本部例会における久保田会長の講演録音テープ公開。テレパシー練習、研究発表。
旭川 支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:00 ※12月の月例会は第3日曜日(19日)に変更。	※11月より下記の場所に会場を変更。 旭川市6条14丁目「大成市民センター」(ニチイ旭川店) ☎ 0166-24-1585 連絡先=石川公一 ☎ 0166-51-5699		東京月例会における久保田会長の講演録音テープ公開。研究発表。アダムスキー著「生命の科学」を持参。質疑応答(旭川支部独自で直接会長から回答を得る)別会場にて2次会。
松山 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30	松山市民会館会議室 連絡先=伊藤逸夫 ☎ 0898-22-3060 ※11月のみは島高市平和公園となりの中国新聞社7F会議室。	200	テキストとして「生命の科学」「テレパシー」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープ公開。質疑応答、座談会。
群馬 支部	毎月第2日曜日 午後2:00→6:00	群馬県太田市「太田市民会館」 第6会議室。 連絡先=服部 久 ☎ 0276-63-2163・2771	200	東京本部月例会における久保田会長の講義録音テープ公開、座談会等。
青森 支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	青森市松原「青森市民文化センター」 教養室(2) ☎ 0177-34-0163 連絡先=中根 豊 ☎ 01756-3-3386		テキストとして「生命の科学」「テレパシー」を持参。東京月例会における久保田会長の講演録音テープを公開。テレパシー練習、研究発表、座談会。
沖縄 支部	毎月第3日曜日 午後1:00→6:00	沖縄県宜野湾市真栄原80、下地算数教室 ☎09889-7-6478 連絡先=新里義雄 ☎ 09893-8-2511	500	テキストとして「生命の科学」久保田先生による宇宙哲学解説テープ公開。質疑応答。想念觀察とテレパシーの研究報告。自己紹介。座談会等。
秋田 支部	毎月第2日曜日 午後1:30→5:00 ※11月、12月、1月は日時、会場を変更。詳細問合せのこと。	秋田市山王7-3-1 「秋田市文化会館」和室会議室。☎ 0188-65-1191 連絡先=佐藤春雄 ☎ 01889-2-3284	200	テキストとして「生命の科学」「テレパシー」を持参。東京本部月例会における久保田会長の講演録音テープ公開。テレパシー練習、座談会。
(関東 支部 改称) 神奈川 支 部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※11月のみ第1日曜日(7日)に変更。	神奈川県川崎市川崎区富士見2-5-2 「川崎市立労働会館」第1研修室 ☎ 044-222-4416。国鉄京浜急行「川崎駅」下車。市バス・京急線・労働会館前。 連絡先=千田光明 ☎ 0468-36-7198	400	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープ公開。研究発表、座談会等。

わが国でアダムスキー問題を正しく伝える唯一の文獻である本誌は後世に残る貴重な資料となるものです。ぜひおぞろえ下さい。

No.75

主要記事「土星旅行記」(1) G.アダムスキー／「イメージ法で起こる奇跡」高梨和明／「太陽と神々の國慶歌」久保田八郎／「さらば空飛ぶ円盤」(3) 第3章 宇宙船と重力(続き)／第4章 最近の科学の発達／その他。

No.76

主要記事「土星旅行記」(2) G.アダムスキー／1981年度「日本GAP総会講演集」伊藤重信・山口 梨・武田充弘・足立良宏／「総会の日に UFOを目撃」伊藤道夫・仲間秀樹・横口真市・松村芳之／「さらば空飛ぶ円盤」(4) G.アダムスキー 第5章 わが太陽系内の変化・第6章 星雲人の象形文字／その他。

No.77

主要記事「金星には偉大な文明がある!」／「宇宙と愛について」(1) 久保田八郎編／「反磁場による超推進法」W.ラポート／「さらば空飛ぶ円盤」(5) 第7章 疑うる人に対する回答・第8章 デマとデマ流し屋／その他。

No.78

主要記事「火星に生命が存在」／「私は異星人から何を学んだか」G.アダムスキー／札幌市でアダムスキー型円盤目撃される／アダムスキー型円盤、旭川に出現／沖縄支部大会の日に葉巻型母船現る／「宇宙と愛について(2)」／「波よ静まれ、そして風も」久保田八郎

\*No.69より71までは各￥500。No.72から￥700。\*バックナンバーに限り送料は不要

## 「生命の科学」解説講義録音テープ

今年度東京月例会において

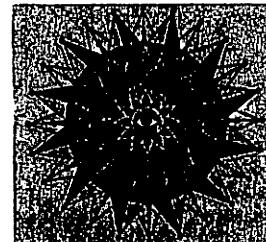
1月より毎月1課ずつ久保田会長が解説される貴重な録音テープ。アダムスキー哲學的理解を深めると重要な資料となるものです。会長の平易な説明と深遠な内容をぜひお聞き下さい。近況報告も含まれています。

テープ1本(90分) ￥1000 〒200

\*このテープの注文に限り××月分と記して必ず下記へご注文下さい(57年1月より毎月録音。1課より在庫)。

〒430 静岡県浜松市守島町221、小島国弘

TEL.0534-52-8502/振替名古屋7-51065



## ①オーソン肖像写真 ②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第2部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウェルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャビネ判)(カラー写真)

②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は“すべてを見透す眼”で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判)(カラー)

上記2点共、重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

①￥500円 ②￥200円 60—括注文の場合 〒120

## ③想念観察手帖

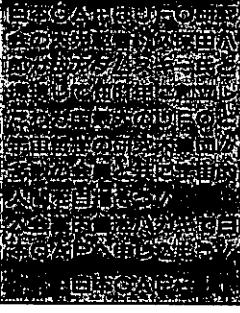
アダムスキーの宇宙哲学にまとめて自己の想念印象を觀察し、宇宙の想念と非宇宙の想念とに分類して記入する。宇宙的テラバシックな人間になるための必携品。1冊で1カ月分の記入が可能。￥500円 〒120

## ④テレパシー練習用ゼナーカード

アメリカで開発されて世界的に広まったテレパシー練習用カード。5種1組のカードを1箱に5組、計25枚収納。美麗箱入り。￥500円 〒120

日本GAP

# 会員募集



## 編集後記

★本号は本年度総会開催月と発行月とが重なったために発行が少し遅れました。執筆原稿整理・編集(割付デザイン・写真貼込等)をすべて編者一人で行うので手がまわらず申訳なく存じます。そのわりに本号は奮発して増頁し四十四頁としました。充実したと自負します。表紙デザインも一新しました。

★本号では「イエスの聖骸布の謎」とアダムスキーリーが庄巻です。これは「歴史読本」臨時増刊82-19に掲載された記事ですが、重要な内容なので全GAP会員に読ませよという声に応じて、同誌編集部了解のもとに一部加筆して掲載しました。「一味読の程」をし、「謎の巨石と太陽円盤の國へ」は長文になつて恐縮ですが、これでも予定原稿をかなり短縮したつもりです。海外旅行はたしかに宇宙的な学習の場になります。別掲告などおり五十八年度も第五回の晴らしい旅行を企画しましたので多数ご参加下されば幸いです。

★十月十日の日本GAP総会は予想外の大盛況でした。出席者各位に衷心より御礼を申し上げます。田中義則氏の科学的な講演の記録は次号に掲載の予定です。

★今年は全国各地で地方支部大会が活発に開きましたが、十一月十四日に仙台で山形支部と合同支部大会、二十一日に熊本支部大会が開催されます。ふるってご出席下さい。来年三月二十日(連休の初日)には松山支部が開催します。詳細は次号をご覧下さい。

★沖縄支部代表は八月より新里義雄氏(沖縄市)になりました。その他詳細は本号四十四頁の「全国月例研究会案内」をご覧下さい。

## 編集後記

それと各地方支部月例会日時会場の臨時変更がありますので同案内にご注意下さい。

★東京月例会は今年十一月のみ第一土曜日から第三土曜日(二十日)に変更しますので、お間違ひなきよう。五十八年一月の月例会も第二土曜日(八日)とし、終了後は別会場で恒例の新年パーティーを開催の予定です。

★前号で寄付募集をしましたら多数の方から御厚賀を頂きました。個々に領取券をお送りしていますが、あらためて厚く御礼を申し上げます。寄付者名簿は掲載しませんが、当方にファイルしてあります。多數ご参加下さい。

★本誌は発行ごとに約八十万円を要します。会員数減少の折から今後とも資金確保のため、会員のご寄付をたまわれば幸いです。

★本誌は約四十名の会員の方により全国の主要書店に卸されて店頭で販売されています。地方会員の方で地元の書店卸しに協力の意志ある方は編者宛てご一報下さい。説明書をお送りします。

★アメリカ・ピースタのアダムスキー財團はGAPの「本部」ではありません。また日本GAPがその「支部」でもありません。両者は全く別な組織です。むかしアダムスキーが創設したGAPの名称を二十数年間も使用していました活動を続行してきたのは日本GAPとアンマーティンのプリットクロフト氏夫婦が去る五月にオーストラリアのブリスベンに移住されて解散しました。以上の事実を明確にしておきます。

★アーティストのブリットクロフト氏夫婦が去る五月にオーストラリアのブリスベンに移住されて解散しました。以上の事実を明確にしておきます。

★アーティストのブリットクロフト氏夫婦が去る五月にオーストラリアのブリスベンに移住されて解散しました。以上の事実を明確にしておきます。

日本GAP機関誌・季刊  
宇宙哲学とUFO  
編集発行人 久保田八郎  
発行所 日本G田八郎  
〒113 東京都江戸川区一色町355-1  
TEL.(03)6-51-3591  
定価700円・送料200円  
一九八二年十月二十日発行  
振替東京4-3-5-9-1-2  
2-8-818 P郎  
1982年10月20日発行  
79号